

**第 8 次大口町総合計画策定のためのアンケート
結果報告書**
(公共交通抜粋)

令和 8 年 1 月

大口町

はじめに 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第7次大口町総合計画」を改訂し、「次期第8次総合計画」の着手をするにあたり、多くの町民に町政等の満足度や重要度、分野ごとの町民生活の実態や意向、将来のまちづくりの方向性などについて把握することによって、「第7次大口町総合計画」の達成状況を評価するとともに、町民の意向を十分に反映した計画策定としていくための基礎資料を得ることを目的に実施しました。

なお、調査票の設計にあたっては、令和2年度に実施したアンケートとの比較分析ができるよう配慮に努めました。

2. 調査対象者

令和7年7月末時点において大口町内に住民登録している18歳以上の町民を対象に、無作為に3,000人を抽出しました。

3. 調査実施方法

郵送により調査対象者に配付し、回収については、郵送による回収とWeb回答のどちらでも回答できる方法で実施しました。

4. 調査実施期間

令和7年8月1日（金）～令和7年8月18日（月）

※締め切り後に回収できたものも極力結果に反映した。

5. 調査票の回収状況

表0-1 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
3,000	1,553	1,553	51.8%

6. 標本誤差の範囲

標本誤差の範囲は、結果との比率の関係から以下の式であらわすことができます。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団
 n : 有効回収数
 p : 結果の比率
 k : 信頼度による定数
 σ : 標本誤差

ここで信頼度を95%でとると、定数kは1.96となるので、これをもとに誤差を算定すると表0-2になります。

表0-2 標本誤差の範囲（±%）

P	10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%
標本誤差	±1.28	±1.77	±1.95	±2.08	±2.13

7. グラフの見方に関する注意事項

- ・グラフは、帯グラフ、横棒グラフ、ダンゴグラフ、折れ線グラフ、散布図の5種類を必要に応じて使い分けています。例えば、クロス集計の場合、表頭が単数回答（SA）の時は帯グラフとし、複数回答（MA）の時は、ダンゴグラフとしています。該当サンプル数については、帯グラフの場合は図中右に、ダンゴグラフの場合は表側の横の（ ）内に表示しました。
- ・本文中の割合の合計は、各項目を合計した後、小数点以下第2位を四捨五入した数値となっています。また、算出した評点については、小数点第3位で四捨五入しています。
- ・クロス集計の表側における「回答なし」は省略してあるので、表側の各項目のサンプル数の合計と全体のサンプル数は一致していません。
- ・図中の構成比（%）は帯グラフ、ダンゴグラフとも小数点以下第2位を四捨五入してあるため、帯グラフの場合でも構成比の合計は必ずしも100.0%にはなりません。
- ・複数回答（ダンゴグラフ）の場合、割合（%）の合計は、100.0%を超えます。

8. 調査実施方法

居住地域別のクロス集計は、3つの地域自治組織の区分で行いました。

区分	地区
南地域自治組織	秋田、豊田、大屋敷
北地域自治組織	外坪、河北、上小口、中小口、下小口
中地域自治組織	余野、垣田、さつきヶ丘

2. 大口町のまちの魅力

2-1 魅力がある点（問10）

問10 大口町のまちの魅力について、おたずねします。【魅力がある点と魅力がない点それぞれについて、あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。】

大口町の魅力がある点については 95.1%の回答があり、平均回答数は、6.0 項目となっています。「日常の買物が便利である」、「自然や農地などの自然環境が豊か」の2項目は、半数を超える人が魅力のある点として回答しています。

【全体】（図2-1-1、表2-1）

- 大口町のまちの魅力については、「特になし」および「回答なし」を除くと、回答者の 95.1%が何らかの魅力があると回答しています。
- 回答者は 1,528 人で、回答総数は、9,111 件となっています。27 項目の中から、1 人あたり平均 6.0 項目の回答が得られています。
- 魅力がある点として最も回答割合が高かったのは「日常の買物が便利である」で 51.3%となっています。次いで、「自然や農地などの自然環境が豊か」が 50.8%、「さくらまつりやふれあいまつりなど町内のイベントが活発に行われている」が 43.4%、「医療施設が充実している」が 32.0%、「公園や広場が充実している」が 27.7%、「人々が親切で人間味がある」が 27.3%、「働く場所が多い」が 26.5%と続いています。

【年齢別】（図2-1-2）

- まず、魅力がある点として特に回答割合の高かった2項目について年齢別にみると、「日常の買物が便利である」は、いずれの年齢層においても 50%前後となっています。一方、「自然や農地などの自然環境が豊か」については、年齢が高くなるにつれて、回答割合がおおむね高くなる傾向がみられます。
- また、30 歳代から 40 歳代の子育て世代では、「子育て支援サービスが充実している」と回答した割合が、全体値と比べて高くなっています。
- さらに、70 歳代以上では、「医療施設が充実している」および「高齢者福祉サービスが充実している」と回答した割合が、他の年齢層と比べて高くなっています。加えて、「働く場所が多い」や「人間関係が良い」と回答した割合も、他の年齢層と比べてやや高くなっています。
- そのほか、回答割合が3番目に高かった「さくらまつりやふれあいまつりなど町内のイベントが活発に行われている」については、20 歳代以下の年齢層において割合が低くなっていることが特徴としてみられます。

【居住地域別】（図2-1-3）

- 中地域自治組織では、いくつかの項目において特徴的な傾向がみられます。
- 具体的には、「交通の便が良く通勤・通学に便利である」と回答した割合が、全体値を上回っています。また、「日常の買物が便利である」、「公園や広場が充実している」、「良好な住宅地が形成されている」についても、いずれも全体値と比べてやや高くなっています。一方で、「人々が親切で人間味がある」と回答した割合は、全体値と比べてやや低くなっていることが特徴としてみられます。

表 2-1 魅力がある点（回答数）

	項目数	回答者数	回答数	1人あたりの回答項目数
魅力がある点	27	1,528	9,111	6.0

図 2-2-1 魅力がある点



図2-1-2 年齢別「魅力がある点」

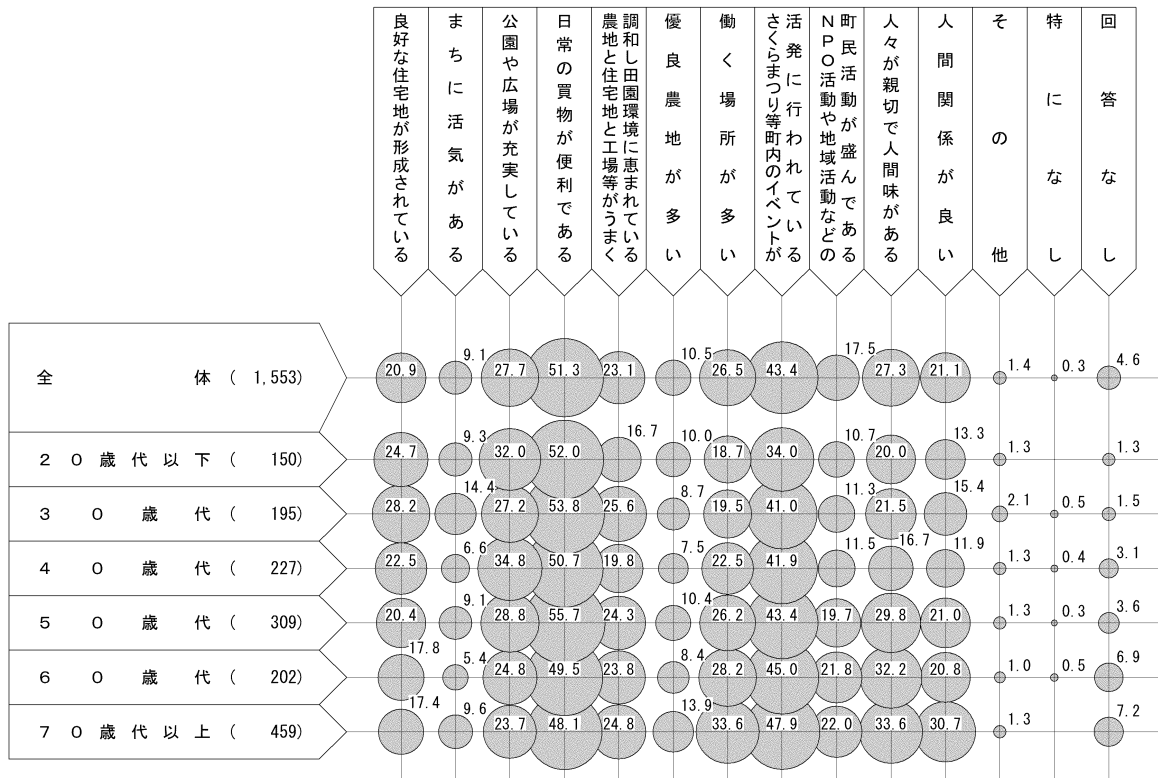
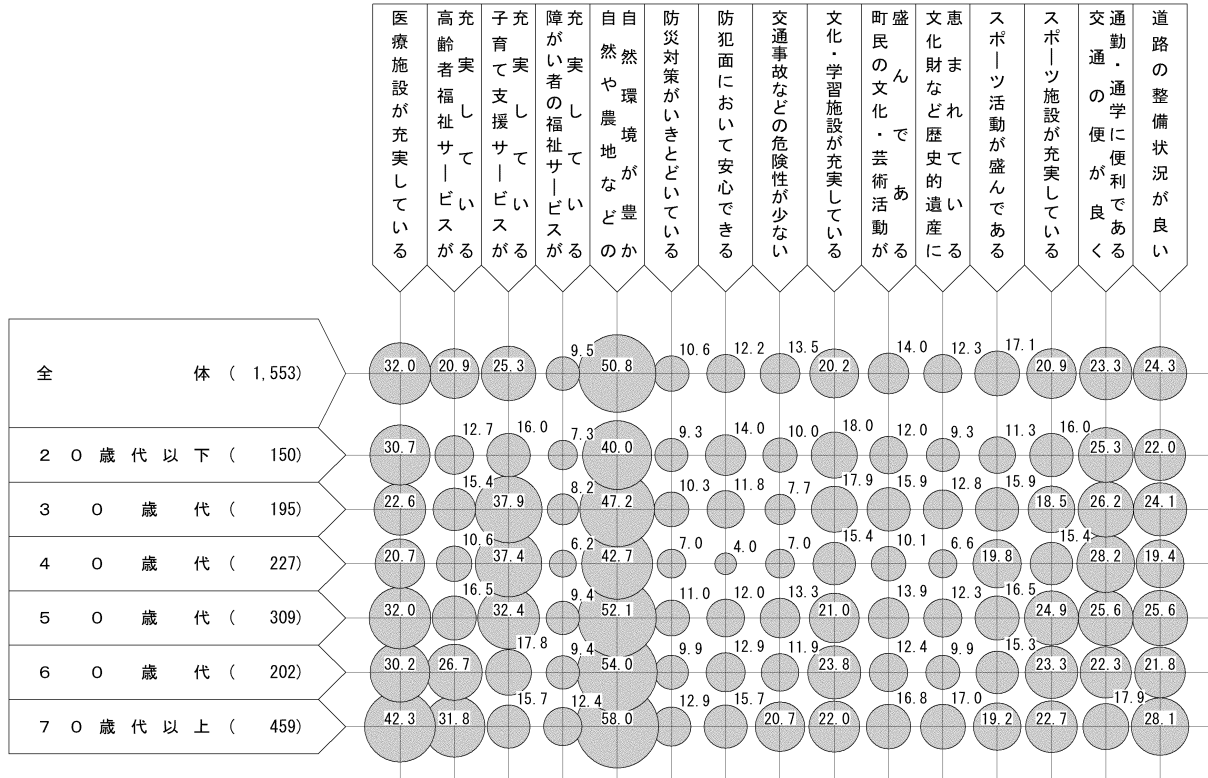
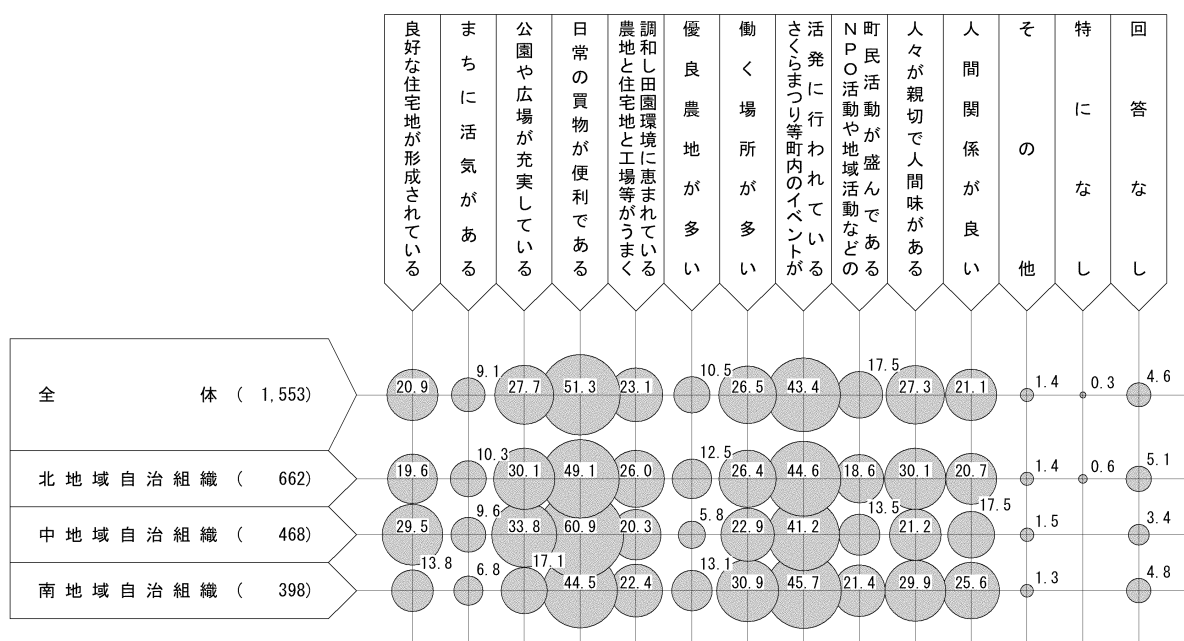
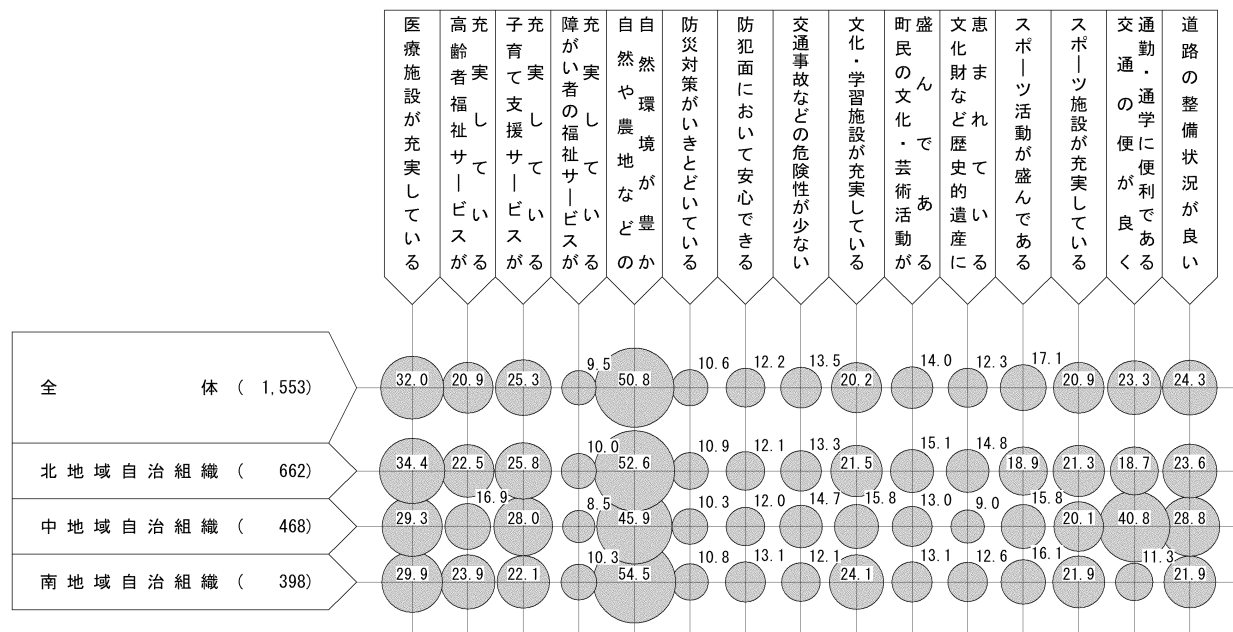


図2-1-3 居住地域別「魅力がある点」



2-2 魅力がない点（問10）

問10 大口市のまちの魅力について、おたずねします。【魅力がある点と魅力がない点それぞれについて、あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。】

大口市の魅力がない点については、80.9%の回答があり、平均回答数は、4.0項目となっています。「交通の便が悪く通勤・通学に不便である」、「防犯面における不安が多い」、「交通事故などの危険性が多い」の3項目は、回答者の3割前後が魅力がない点として回答しています。

【全体】（図2-1-1、表2-2）

- 大口市のまちの魅力がない点については、「特になし」と「回答なし」を除いた80.9%の回答者が何らかの魅力がない点を挙げています。
- 回答者は1,256人で、回答総数は、5,065件となっています。27項目の中から、1人あたり平均4.0項目の回答が得られています。
- 魅力がない点としては、「交通の便が悪く通勤・通学に不便である」の割合が35.9%と最も高くなっています。次いで、「防犯面における不安が多い」が27.6%、「交通事故などの危険性が多い」が25.9%と続いています。
- 魅力がある点と比べて、1人あたりの平均回答項目数が少なくなっていること、また、魅力がある項目の回答割合が、魅力がない項目の回答割合を上回っている項目数が多い結果を踏まえると、総じて、大口市を魅力的と感じている人が多い傾向にあるといえます。
- 一方で、防犯面や通勤・通学の利便性、交通事故の危険性、まちの活気の4項目については、魅力がない項目の回答割合が、魅力がある項目の回答割合をそれぞれ15.4ポイント、12.6ポイント、12.4ポイント、5.0ポイント上回っています。これらの点については、大口市における課題、すなわち弱みとして捉える必要があります。

【年齢別】（図2-1-2）

- まず、魅力がない点として特に回答割合の高かった3項目について年齢別にみると、「交通の便が悪く通勤・通学に不便である」および「交通事故などの危険性が多い」については、年齢層による大きな差はみられません。
- 一方、「防犯面における不安が多い」については、20歳代以下において12.7%と、他の年齢層と比べて低くなっていることが特徴としてみられます。
- また、上位3項目以外では、「日常の買物が不便である」について、年齢が高くなるにつれて回答割合が高まる傾向がみられるものの、全体として年齢層間で顕著な差はみられません。

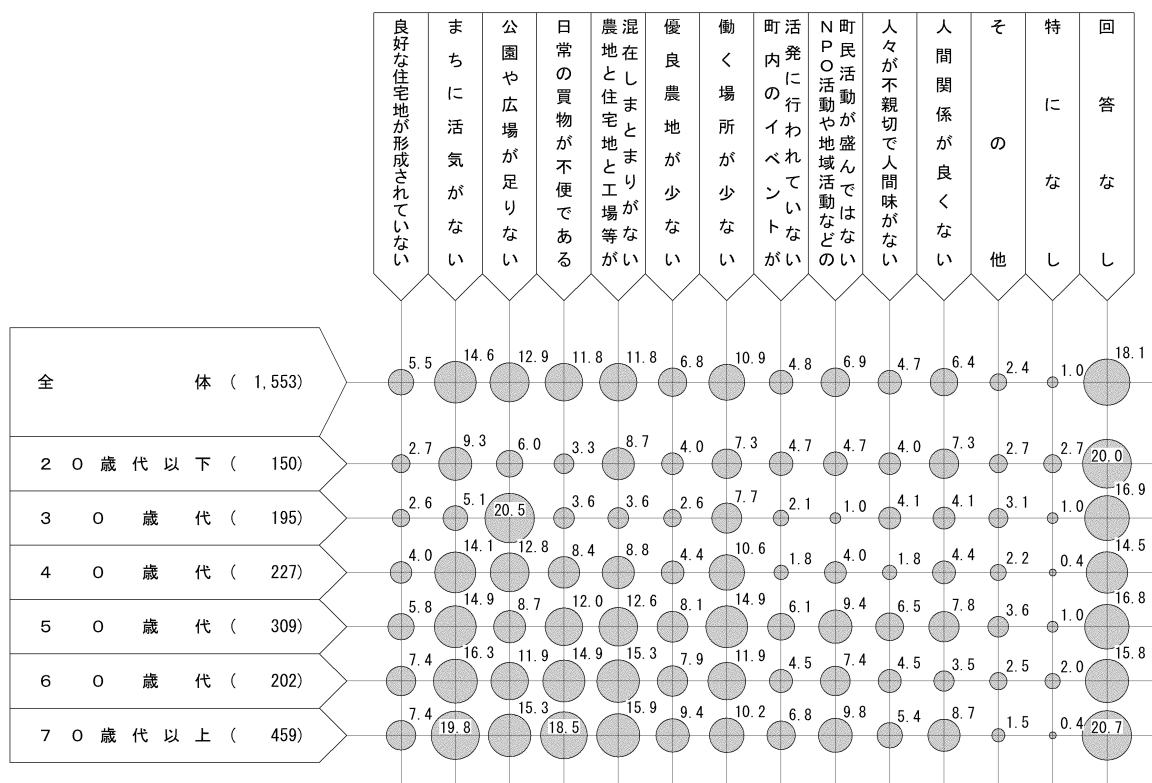
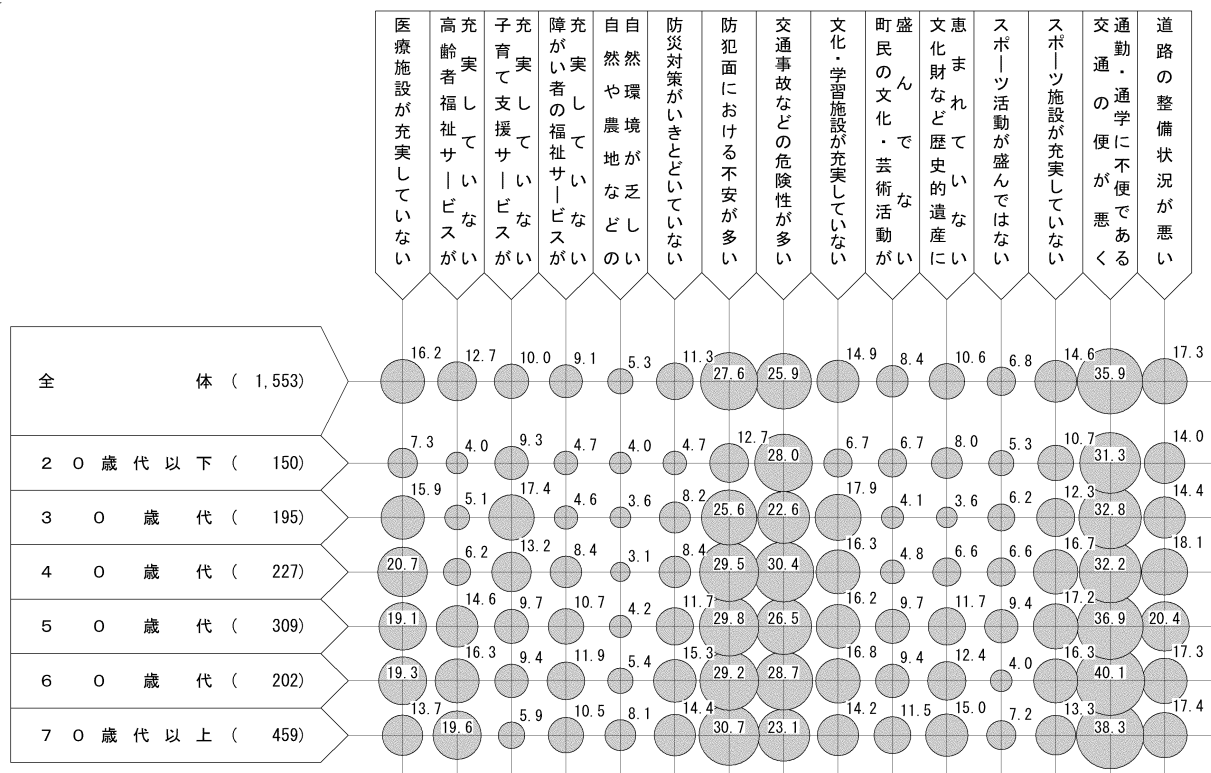
表2-2 魅力がない点（回答数）

	項目数	回答者数	回答数	1人あたりの回答項目数
魅力がない点	27	1,256	5,065	4.0

図 2-2-1 魅力がない点



図2-2-2 年齢別「魅力がない点」



【居住地域別】 (図2-1-3)

○まず、魅力がない点として特に回答割合の高かった上位3項目について居住地域別にみると、「交通の便が悪く通勤・通学に不便である」と回答した割合は、南地域自治組織で49.2%と全体値を上回って

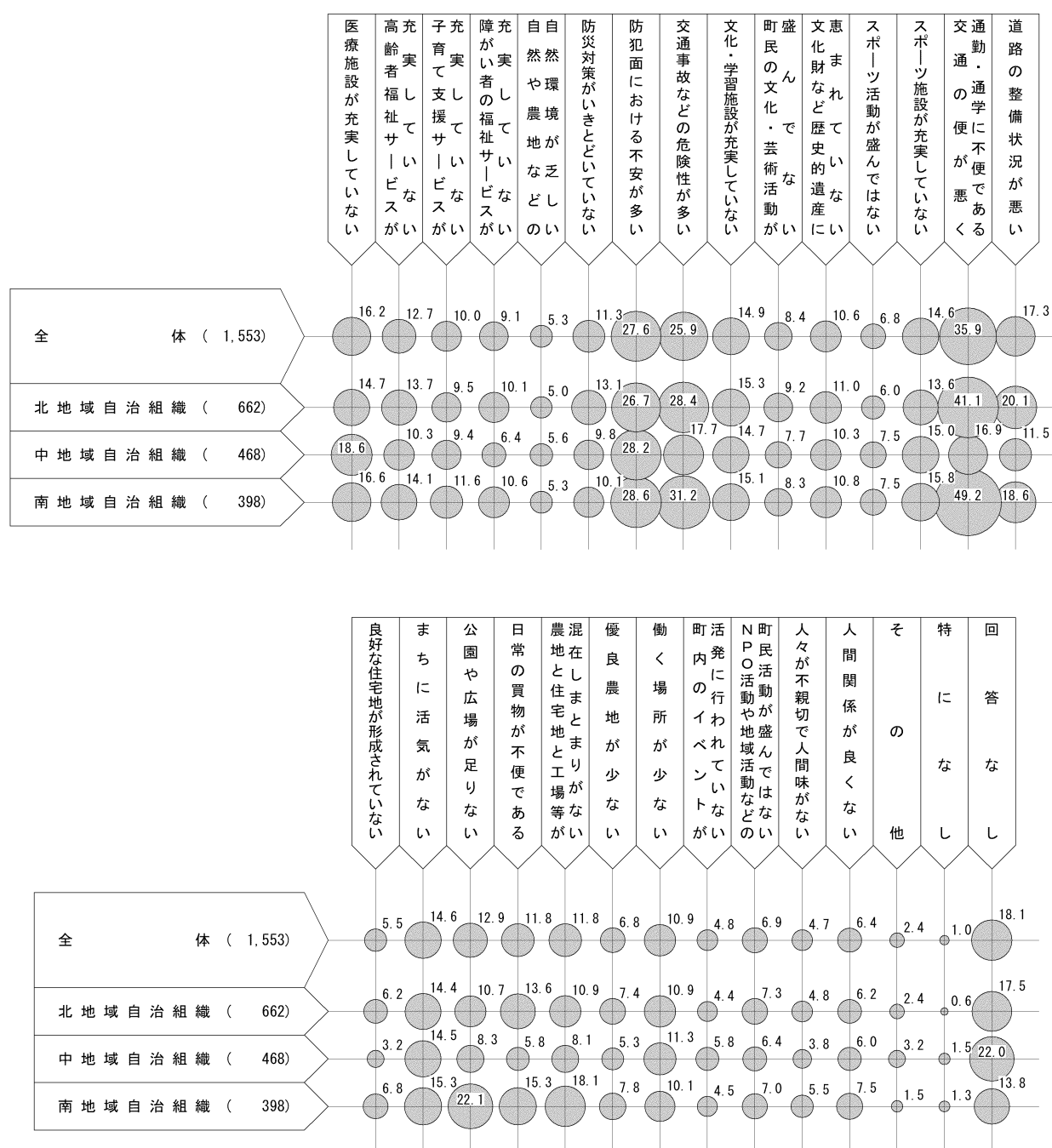
おり、北地域自治組織においても41.1%と、全体値に比べてやや高くなっています。一方、中地域自治組織では16.9%と低くなっています。

○また、「交通事故などの危険性が多い」についても同様の傾向がみられ、中地域自治組織では17.7%と、他の地域自治組織と比べて低くなっています。

○「防犯面における不安が多い」については、居住地域による大きな差はみられません。

○さらに、上位3項目以外についてみると、「公園や広場が足りない」および「農地と住宅地と工場等が混在し、まとまりがない」と回答した割合は、南地域自治組織においてそれぞれ22.1%、18.1%と、全体値に比べてやや高くなっています。一方、「日常生活の買物が不便である」については、中地域自治組織で全体値に比べてやや低くなっていますが、全体としては、地域による顕著な差はみられません。

図2-2-3 居住地域別「魅力がない点」



3. 町政等の満足度と重要度について

大口町の施策に関する各項目の満足度及び重要度について、下記の方法により4段階の得点を付け、平均得点を算出しました。この評点を指標として、満足度と重要度の分析を行いました。平均得点は、+2点に近いほど満足度または重要度が高いことを示し、逆に-2点に近いほど満足度が低い(不満度が高い)、または重要度が低いことを示しています。

【満足度・重要度の平均得点の算出方法】

満足度	重要度	得点(評点)
満足	非常に重要	+2点
やや満足	重要	+1点
やや不満	あまり重要でない	-1点
不満	重要でない	-2点

満足度の平均得点

$$= \{ \text{「満足」の回答数} \times (+2\text{点}) + \text{「やや満足」の回答数} \times (+1\text{点}) + \text{「やや不満」の回答数} \times (-1\text{点}) + \text{「不満」の回答数} \times (-2\text{点}) \} \div \text{総回答数}$$

重要度の平均得点

$$= \{ \text{「非常に重要」の回答数} \times (+2\text{点}) + \text{「重要」の回答数} \times (+1\text{点}) + \text{「あまり重要でない」の回答数} \times (-1\text{点}) + \text{「重要でない」の回答数} \times (-2\text{点}) \} \div \text{総回答数}$$

3-1 満足度の評価（問11）

問11 町で行う様々な地域づくりや施策・事業の現状について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。次の(1)～(37)の各項目について「満足度」「重要度」ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

【回答数：○印を「満足度」「重要度」ごとにそれぞれ1つつつ】

【全体】（図3-1-1）

○評価項目 37 項目のうち、プラスの評価となっている項目は、「巡回バスの利便性」および「地域に住む外国人との交流・共生」の2項目を除く 35 項目です。満足度が高い項目の上位 10 項目は、下表のとおりです。

満足度（ベスト10）			
①町による家庭ごみの収集回数	0.98	⑥日常的な買い物の便利さ	0.78
②五条川や桜並木などの整備・維持管理状況	0.95	⑦健康診断・保健指導などの健康づくり	0.77
③消防・救急体制	0.89	⑧祭りやイベントの活発さ・充実度	0.73
④広報おおぐちによる町の情報提供	0.89	⑨自動車での移動が便利な道路網	0.70
⑤受付・窓口などにおける町職員の対応	0.84	⑩安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	0.69

○評価項目 37 項目のうち、マイナスの評価となっている項目は、「巡回バスの利便性」および「地域に住む外国人との交流・共生」の2項目です。満足度が低い（不満度の高い）項目ワースト 10 は下表のとおりです。

満足度（ワースト10）			
①巡回バスの利便性	-0.20	⑥町民の交通ルールやマナーを守る意識	0.21
②地域に住む外国人との交流・共生	-0.01	⑦犯罪にあうことのない安心感	0.23
③町立図書館の規模・運営	0.03	⑧大口町議会の活動	0.26
④段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	0.07	⑨道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.36
⑤交通事故からの安全性	0.16	⑩町政への住民参画の機会や場	0.38

【前回・前々回との評点比較】（図3-1-1）

○評価項目 37 項目のうち、前回調査（令和2年：評価項目 34）と比較すると、10 項目で評点が上昇しています。中でも、最も大きなポイント増となったのは、「地震や水害など防災に対する安心感」で、0.15 ポイントの増加となっています。

○一方、23 項目では評点が低下しており、最も大きなポイント減は、「町立図書館の規模・運営」で 0.30 ポイントの減少となっています。また、「地域に住む外国人との交流・共生」および「巡回バスの利便性」についても、それぞれ 0.25 ポイント、0.23 ポイントの減少がみられます。

○次に、前々回調査（平成27年：評価項目 34）と比較すると、37 項目中 25 項目で評点が上昇しています。中でも、最も大きなポイント増は、「受付・窓口などにおける町職員の対応」で 0.31 ポイントの増加となっています。次いで、「町民の交通ルールやマナーを守る意識」が 0.29 ポイントの増加となっています。

○一方、8 項目では評点が低下しており、最も大きなポイント減は、「巡回バスの利便性」で 0.12 ポイントの減少となっています。

図3-1-1 前回・前々回比較「満足度の評価」(評点)

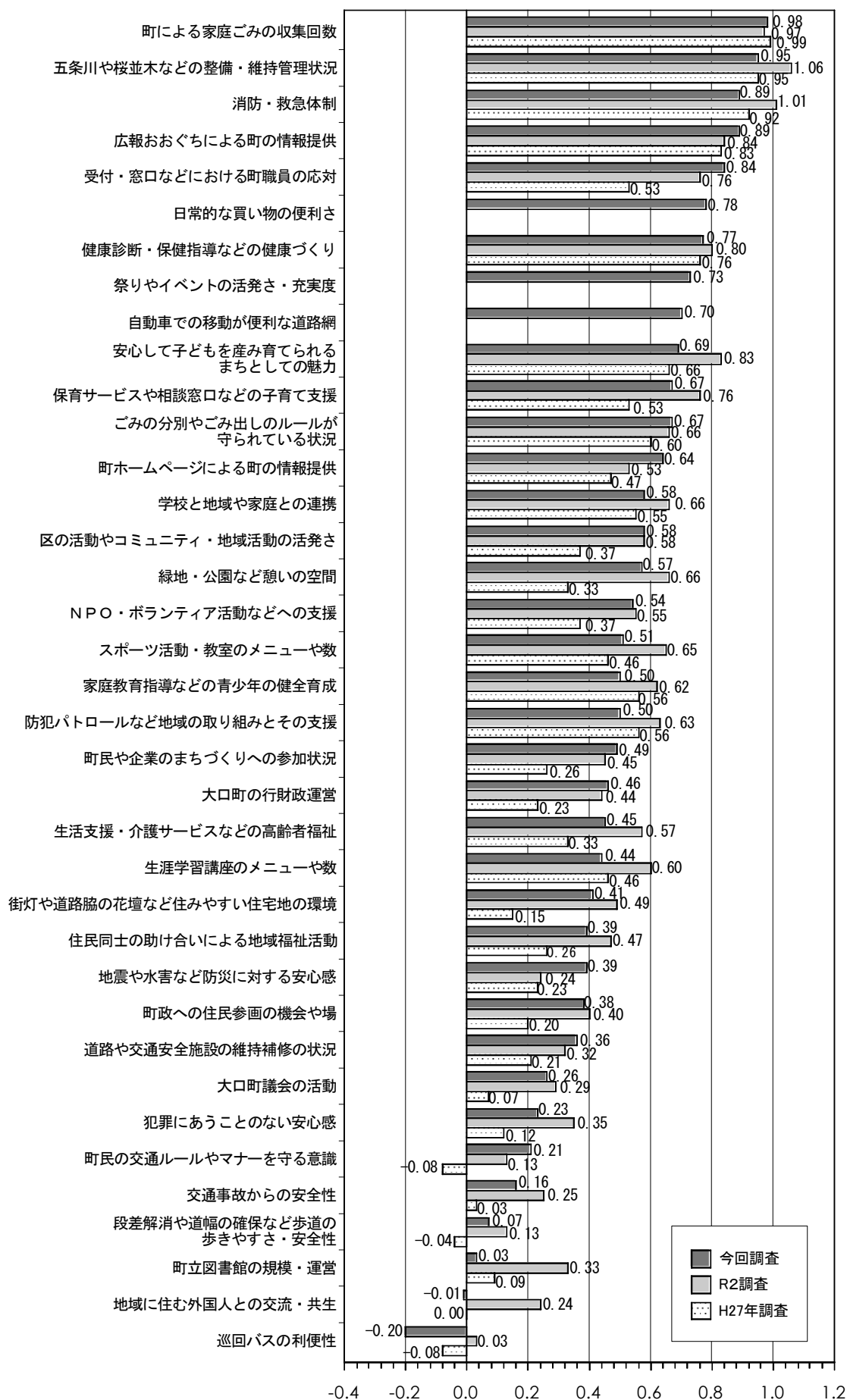
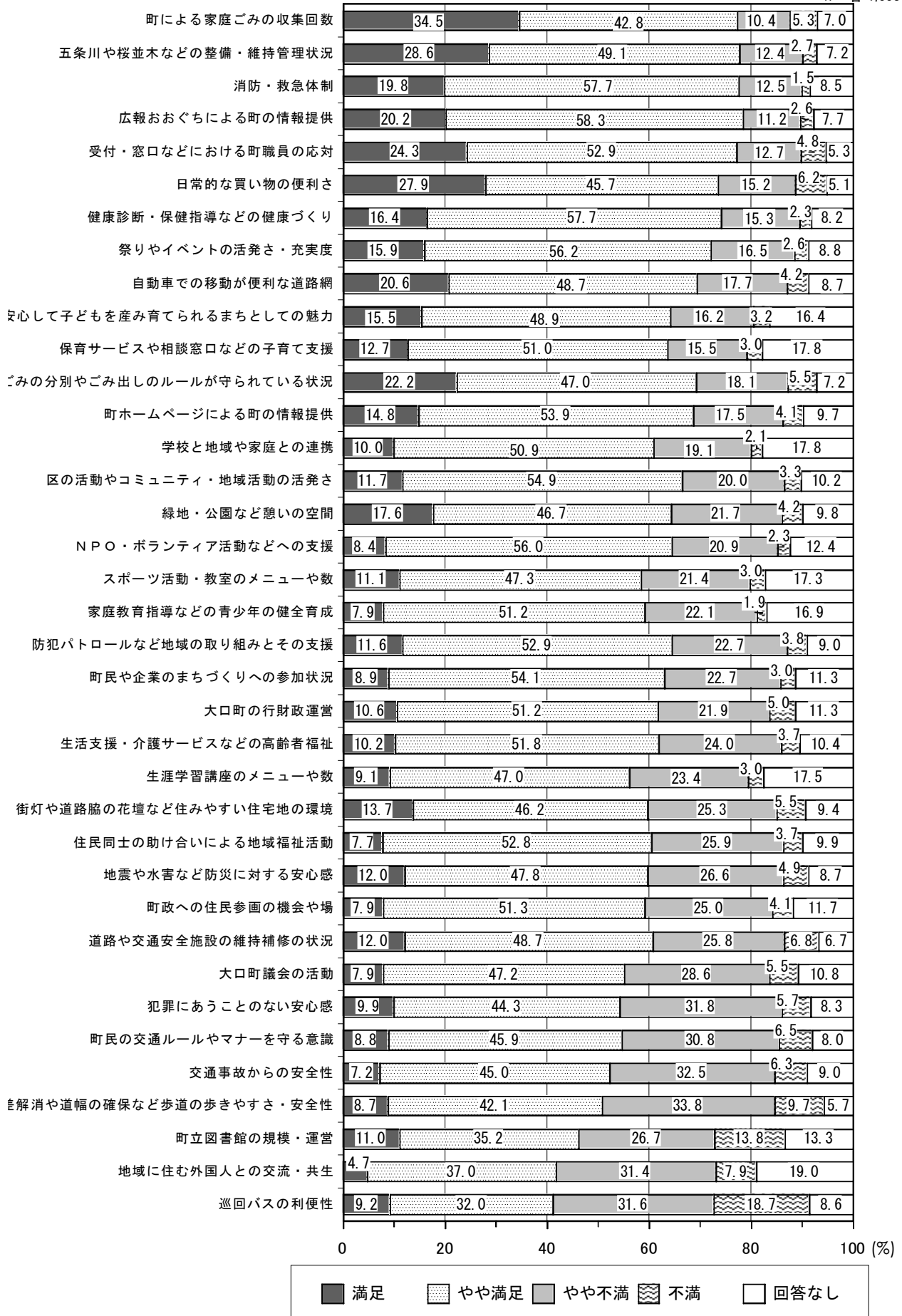


図3-1-2 満足度 (%表示)

n = 各 1,553



【年齢別】 (図 3-1-3)

- 年齢層によって満足度の評点格差が大きい項目をみると、いずれの項目においても、20 歳代以下で満足度が高い一方、高齢層では満足度が低くなる傾向がみられます。
- 特に、「段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性」では、20 歳代以下で満足度が高いのに対し、70 歳代以上ではマイナス評価となっており、評点格差は 0.81 ポイントと最も大きくなっています。
- また、「緑地・公園など憩いの空間」(0.77 ポイント)、「日常的な買い物の便利さ」(0.67 ポイント)、「町民や企業のまちづくりへの参加状況」(0.65 ポイント)についても、同様に 20 歳代以下と 70 歳代以上との間で大きな評点格差がみられます。
- このほか、「町民の交通ルールやマナーを守る意識」では、20 歳代以下で満足度が高い一方、60 歳代ではマイナス評価となっており、評点格差は 0.61 ポイントとなっています。
- さらに、「地域に住む外国人との交流・共生」(0.60 ポイント)や「巡回バスの利便性」(0.59 ポイント)についても、若年層と高齢層(70 歳代以上)の間で満足度に差がみられます。

【居住地域別】 (図 3-1-4)

- 居住地域別にみて満足度の評点格差が大きい項目をみると、多くの項目において、中地域自治組織で満足度が高い一方、南地域自治組織では満足度が低い傾向がみられます。
 - 特に、「日常的な買い物の便利さ」では、中地域自治組織で満足度が高いのに対し、南地域自治組織では低くなっており、評点格差は 0.67 ポイントと最も大きくなっています。
 - また、「巡回バスの利便性」についても、中地域自治組織では満足度が高い一方、南地域自治組織ではマイナス評価となっており、評点格差は 0.62 ポイントとなっています。
 - このほか、「街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境」(0.44 ポイント)、「段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性」(0.38 ポイント)、「道路や交通安全施設の維持補修の状況」(0.36 ポイント)についても、中地域自治組織と南地域自治組織との間で一定の評点格差がみられます。
-

図 3-1-3 年齢別「満足度の評価」

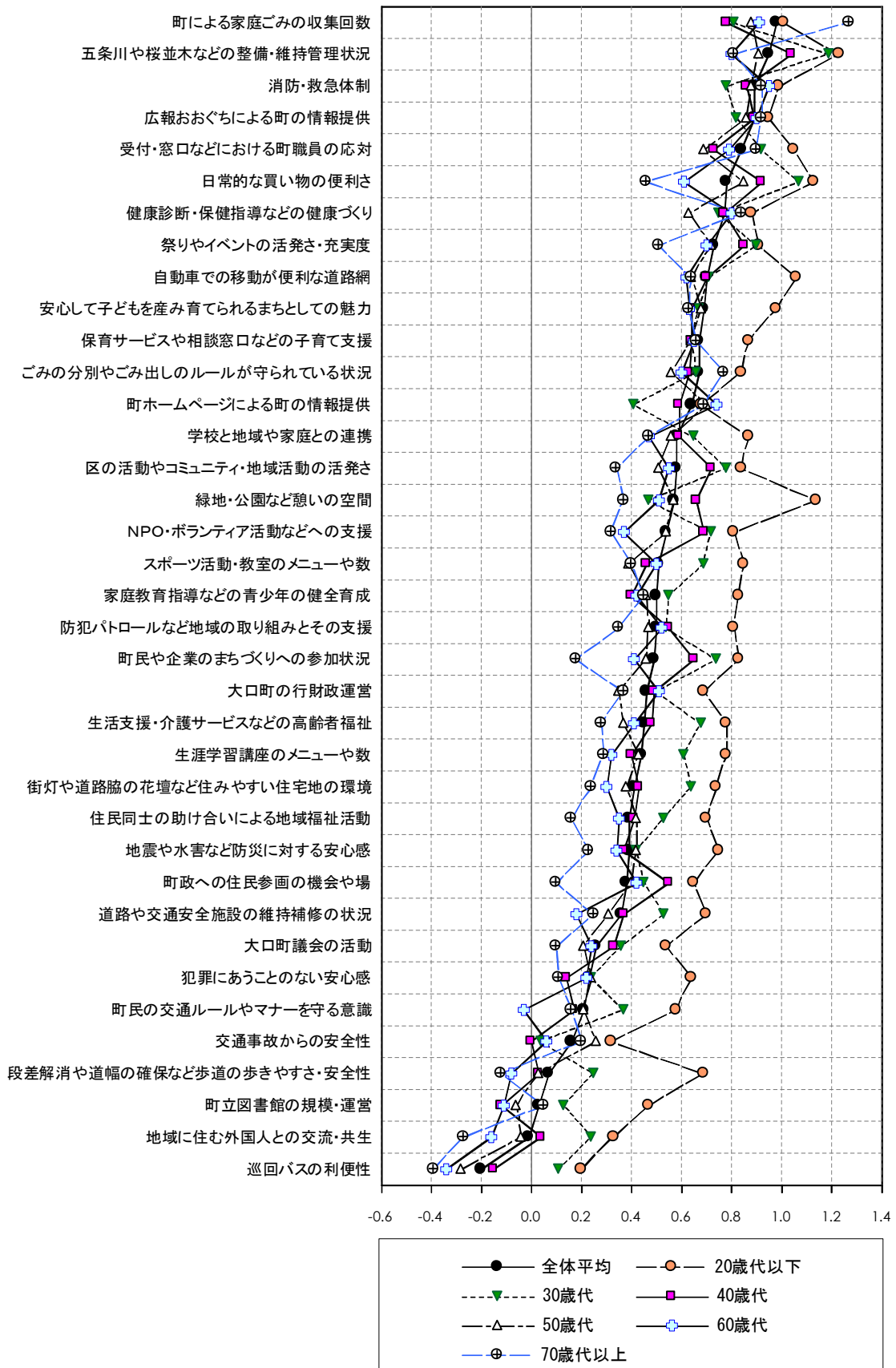
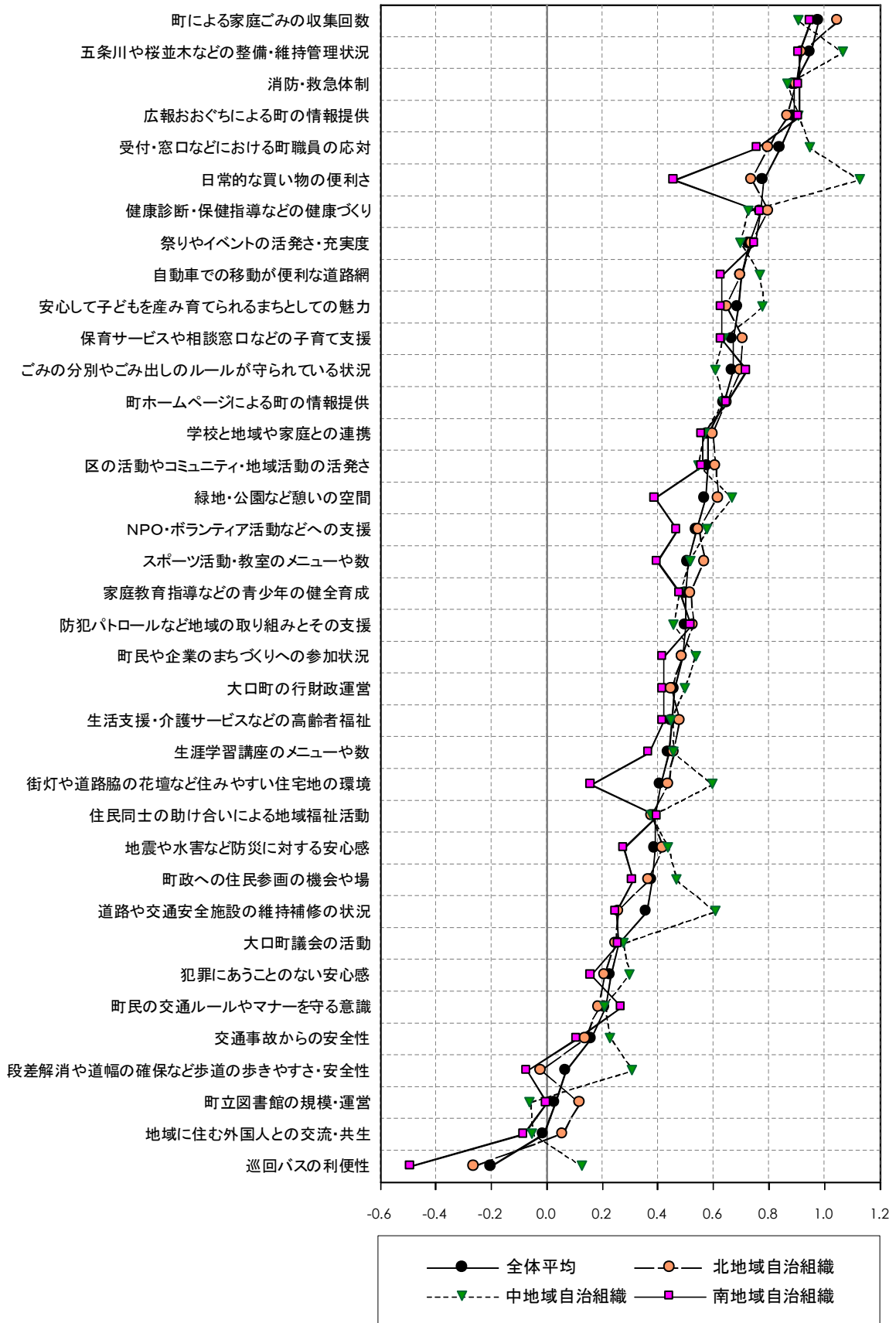


図 3-1-4 居住地域別「満足度の評価」



3-2 重要度の評価（問11）

【全体】（図3-2-1）

- 37項目すべてがプラス得点となっています。その中でも重要度が高い項目トップ10は、下表のとおりです。
- これらの上位項目をみると、防犯や防災、消防・救急体制、交通事故からの安全性、安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力など、安全・安心に関する施策項目や子育て支援に関する施策項目の重要度が高くなっています。

重要度（ベスト10）			
①犯罪にあうことのない安心感	1.50	⑦保育サービスや相談窓口などの子育て支援	1.32
②地震や水害など防災に対する安心感	1.49	⑦町による家庭ごみの収集回数	1.32
③消防・救急体制	1.47	⑦ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	1.32
④交通事故からの安全性	1.45	⑩道路や交通安全施設の維持補修の状況	1.29
⑤安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	1.44	⑩段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	1.29
⑥町民の交通ルールやマナーを守る意識	1.36	⑩日常的な買い物の便利さ	1.29

【前回・前々回との評点比較】（図3-2-1）

- 評価項目37項目のうち、前回調査（令和2年：評価項目34）と比較すると、13項目で評点が上昇しています。中でも、最も大きなポイント増となったのは、「巡回バスの利便性」で、0.19ポイントの増加となっています。
- 一方、21項目では評点が低下しており、最も大きなポイント減は、「区の活動やコミュニティ・地域活動の活発さ」で、0.16ポイントの減少となっています。
- また、前々回調査（平成27年：評価項目34）と比較すると、37項目中21項目で評点が上昇しています。中でも、最も大きなポイント増は、前回調査と同様に「巡回バスの利便性」で、0.30ポイントの増加となっています。
- 一方、8項目では評点が低下しており、最も大きなポイント減は、こちらも前回調査と同様に「区の活動やコミュニティ・地域活動の活発さ」で、0.14ポイントの減少となっています。

【年齢別】（図3-2-3）

- 年齢層によって重要度の評点格差が大きい項目をみると、60歳代や70歳代以上といった高齢層で重要度が高く、30歳代で低く評価されている項目がみられます。
- 特に、「生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉」では、60歳代で重要度が高い一方、30歳代では低くなっており、評点格差は0.64ポイントと最も大きくなっています。また、「NPO・ボランティア活動などへの支援」（0.52ポイント）や「住民同士の助け合いによる地域福祉活動」（0.51ポイント）についても、70歳代以上で重要度が高く、30歳代では低くなっている傾向がみられます。
- 一方、「町政への住民参画の機会や場」（0.49ポイント）および「生涯学習講座のメニューや数」（0.48ポイント）については、20歳代以下で重要度が高い一方、30歳代で低くなっており、若年層と子育て・就労世代との間で評価の差がみられます。

【居住地域別】（図3-2-4）

- 居住地域別の重要度に評点格差の大きな差は認められません。

図3-2-1 前回との評点比較「重要度の評価」

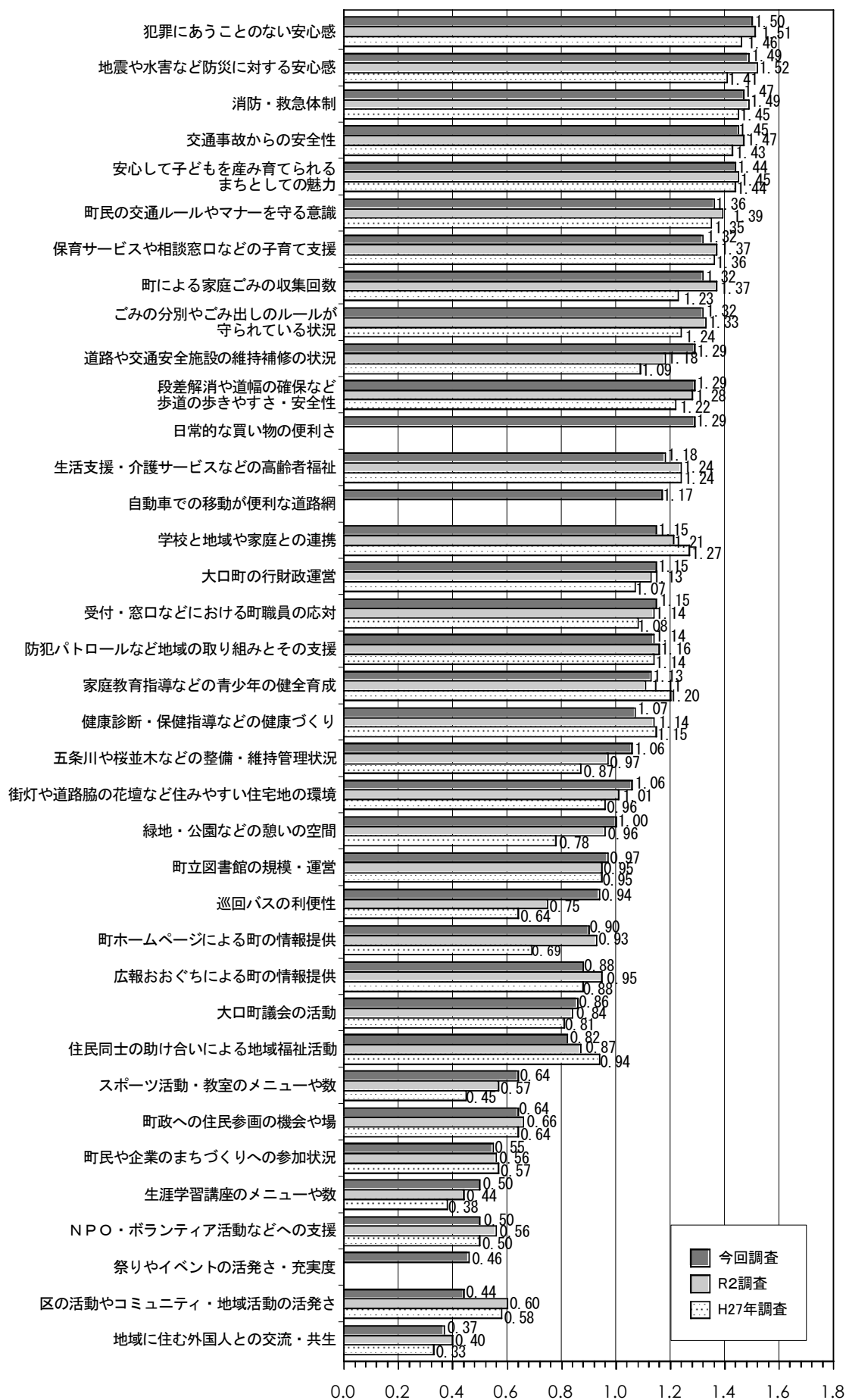


図3-1-2 重要度 (%表示)

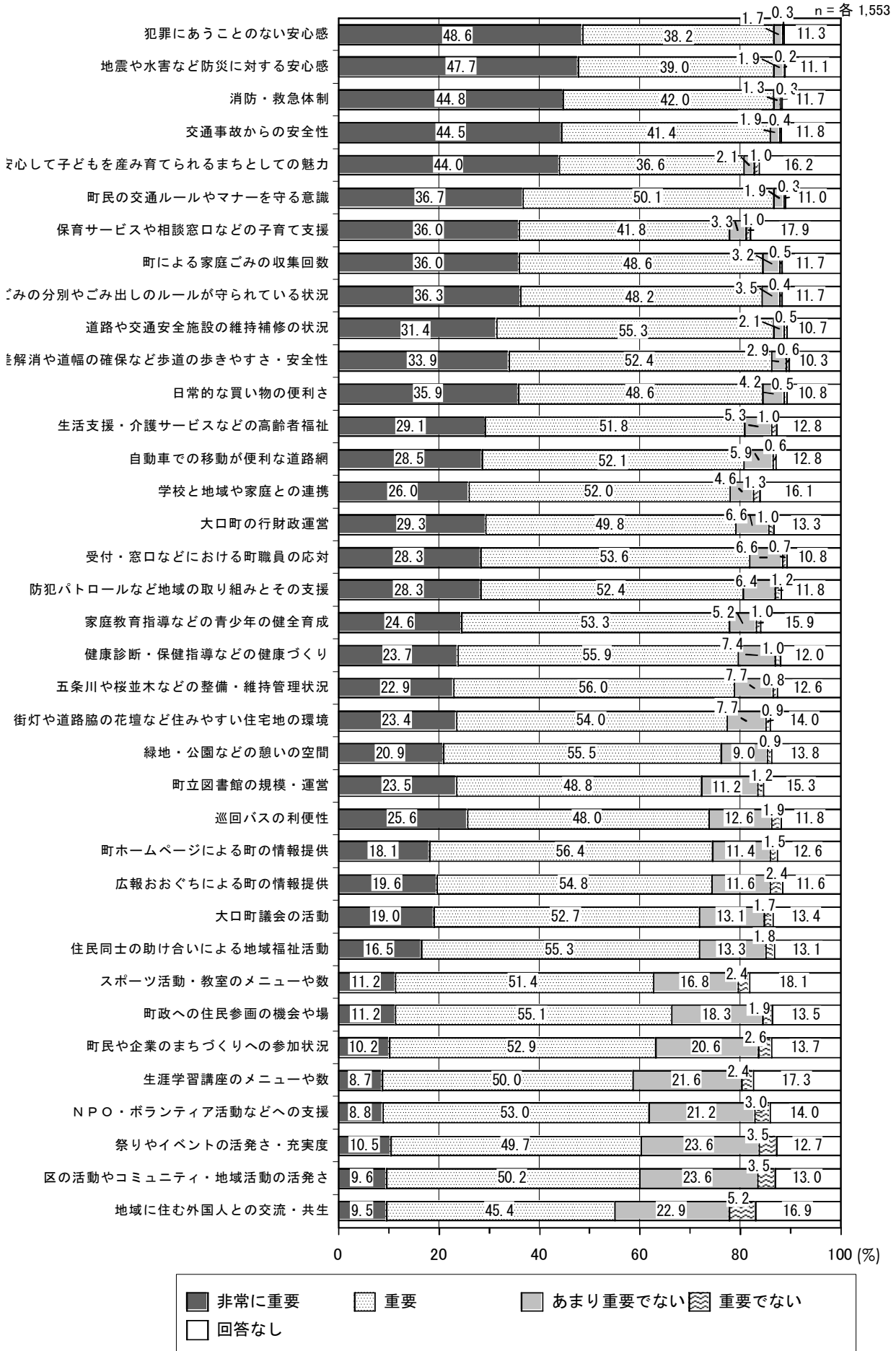


図 3-2-3 年齢別「重要度の評価」

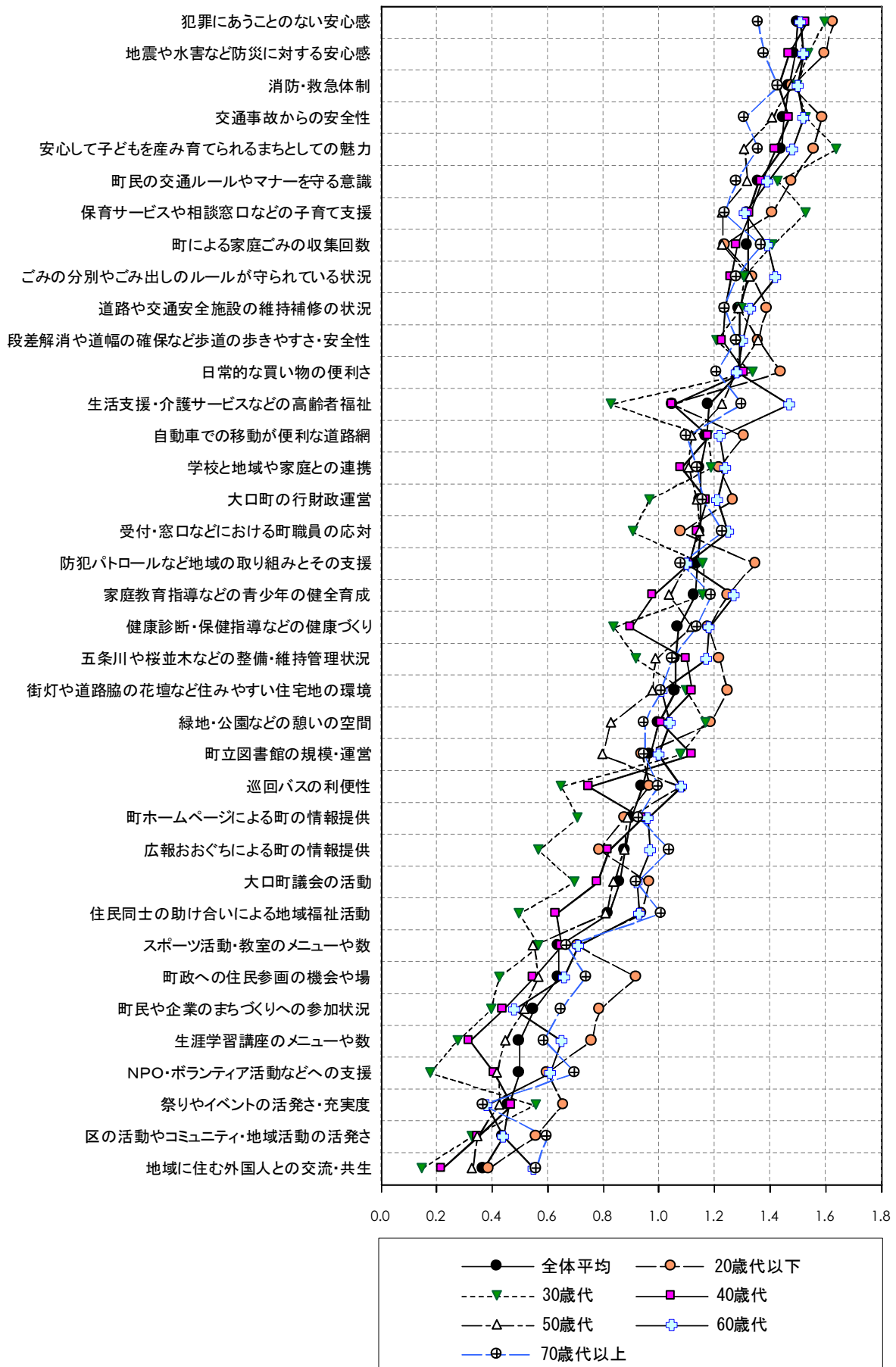
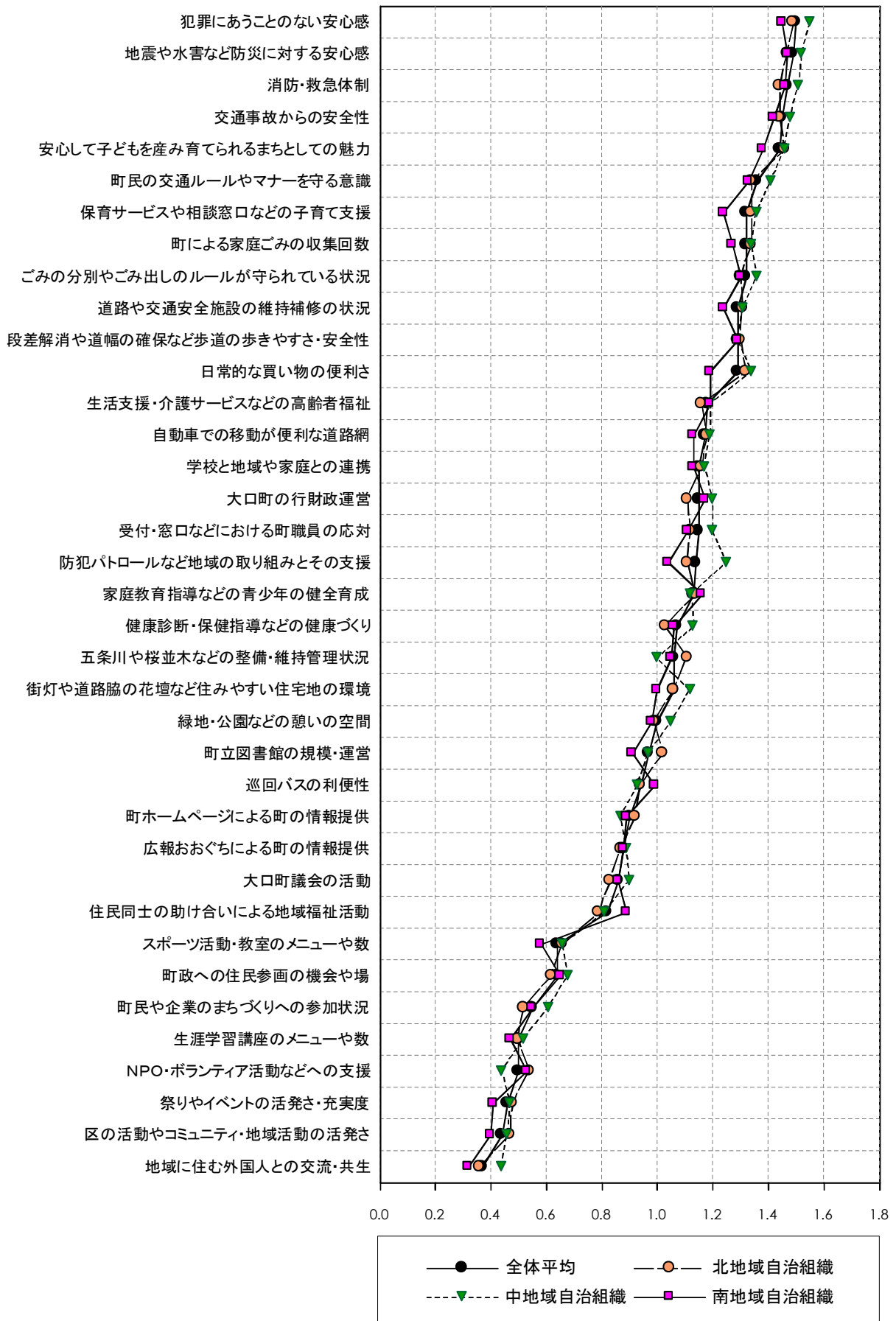


図 3-2-4 居住地域別「重要度の評価」



3-3 施策に対する満足度と重要度の評価（ポートフォリオ分析）

- 大口町の施策に対する町民の満足度の平均得点を横軸、重要度の平均得点を縦軸にして散布図を作成しました（図3-1-1）。
- 37項目全体の満足度の平均得点は、0.50となっています。図に示してある、0.50の線よりも左側にある項目は、満足度が37項目の平均よりも低い項目（相対的に満足度の低い施策項目）であり、逆に右側にある項目は平均得点よりも高い項目（相対的に満足度の高い施策項目）です。
- 一方、37項目全体の重要度の平均得点は、1.03となっています。図に示してある、1.03の線よりも下側にある項目は、重要度が37項目の平均よりも低い項目（相対的に重要度の低い施策項目）であり、逆に上側にある項目は平均得点よりも高い項目（相対的に重要度の高い施策項目）です。
- 着目すべきは、満足度が低く重要度が高い項目、すなわち、当該項目について重要と考えているにもかかわらず、現状において満足していない人が多い施策項目であり、図の左上の領域に該当する項目です（図3-3-1の下図「A：重点改善施策項目」）。
- 重要度がより高く、満足度がより低いほど、優先させて行っていく必要がある施策項目として捉えることができることから、「重要度と満足度の差（重要度－満足度）」を施策の「優先度」と定義づけ、施策の優先度を算定したものが表3-3-2です。その内、上位15位を抜粋し、優先度によって整えたものが表3-3-1です。

【優先度の高い施策項目】（図3-3-1、表3-3-1、表3-3-2）

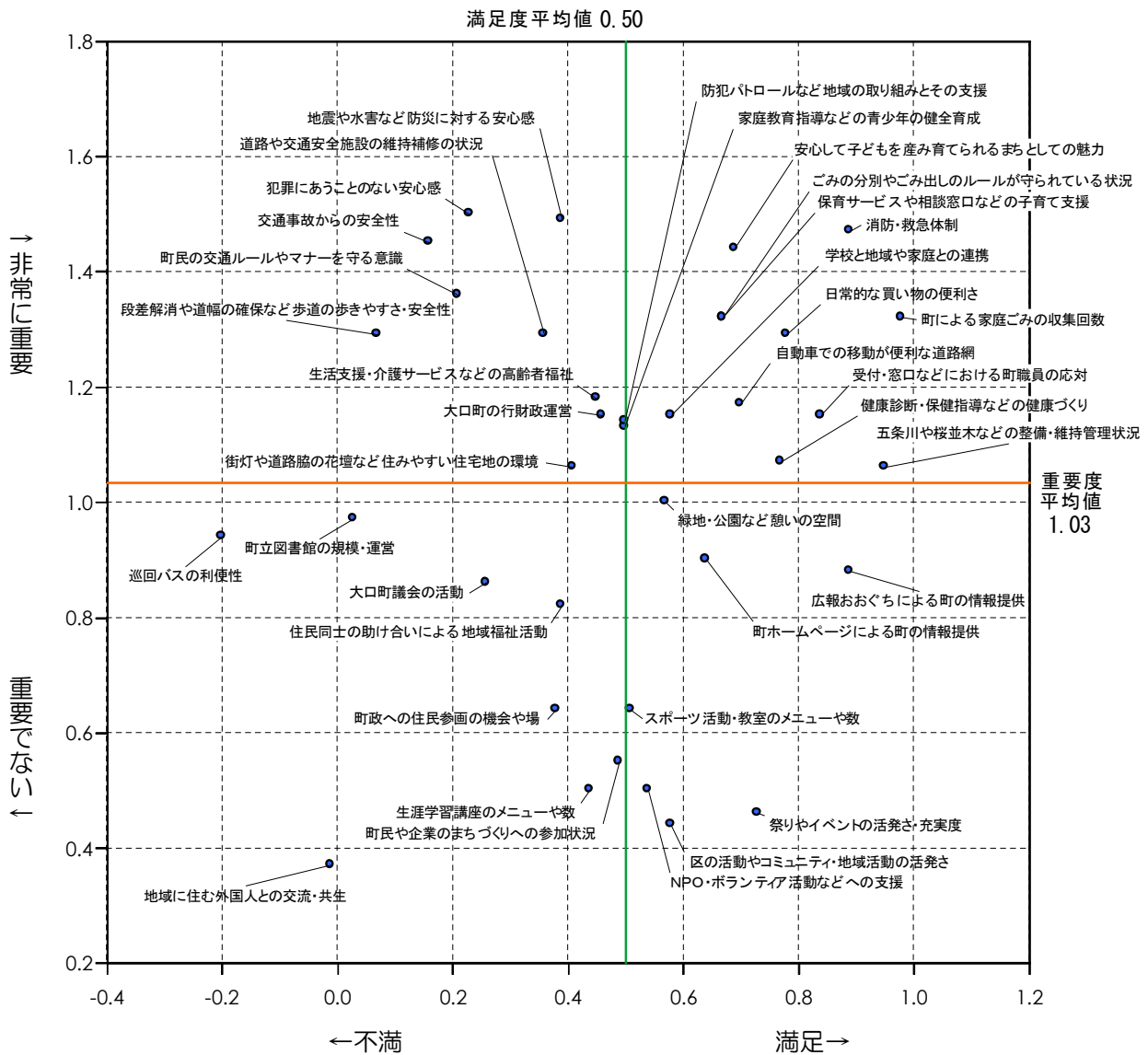
- 優先度の高い項目は、表3-3-1のとおりで、中でもゴシック文字の項目（図3-3-1の下図「A. 重点改善施策項目」の領域に該当する項目）を優先的に進めていく施策項目として位置づけることができます。
 - 交通事故からの安全性、町民の交通ルール等を守る意識、犯罪にあうことのない安心感、地震や水害などの防災といった安全・安心に関する施策項目のほか、歩道の歩きやすさに関する施策項目、生活支援・介護サービスなどの福祉に関する施策項目、さらに大口町の行財政運営や住みやすい住宅地の形成に関する施策項目について、優先度が高くなっています。
-

表 3-3-1 満足度と重要度の評価（施策の優先度）

順位	項目	優先度	満足度	重要度
		重要度-満足度		
1	交通事故からの安全性	1.29	0.16	1.45
2	犯罪にあうことのない安心感	1.27	0.23	1.50
3	段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	1.22	0.07	1.29
4	町民の交通ルールやマナーを守る意識	1.15	0.21	1.36
5	巡回バスの利便性	1.14	-0.2	0.94
6	地震や水害など防災に対する安心感	1.10	0.39	1.49
7	町立図書館の規模・運営	0.94	0.03	0.97
8	道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.93	0.36	1.29
9	安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	0.75	0.69	1.44
10	生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	0.73	0.45	1.18
11	大口町の行財政運営	0.69	0.46	1.15
12	街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	0.65	0.41	1.06
12	保育サービスや相談窓口などの子育て支援	0.65	0.67	1.32
12	ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	0.65	0.67	1.32
15	防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	0.64	0.5	1.14

※ゴシック体の太字は図 3-3-1 の下図「A. 重点改善施策項目」にあたる項目を示しています。

図3-3-1 ポートフォリオ分析



ポートフォリオ分析図の見方

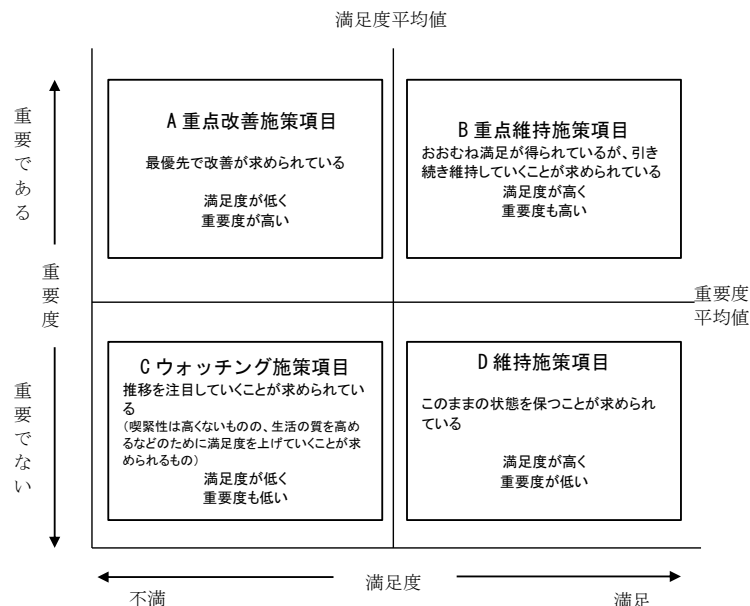


表 3-3-2 満足度と重要度の評価（施策の優先度）

項目	満足度	順位	重要度	順位	優先度		
					重要度-満足度	順位	
1	家庭教育指導などの青少年の健全育成	0.50	19	1.13	19	0.63	16
2	学校と地域や家庭との連携	0.58	14	1.15	15	0.57	19
3	生涯学習講座のメニューや数	0.44	24	0.50	33	0.06	33
4	スポーツ活動・教室のメニューや数	0.51	18	0.64	30	0.13	30
5	町立図書館の規模・運営	0.03	35	0.97	24	0.94	7
6	地域に住む外国人との交流・共生	-0.01	36	0.37	37	0.38	24
7	安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	0.69	10	1.44	5	0.75	9
8	保育サービスや相談窓口などの子育て支援	0.67	11	1.32	7	0.65	13
9	町による家庭ごみの収集回数	0.98	1	1.32	7	0.34	25
10	ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	0.67	11	1.32	7	0.65	13
11	五条川や桜並木などの整備・維持管理状況	0.95	2	1.06	21	0.11	31
12	緑地・公園など憩いの空間	0.57	16	1.00	23	0.43	22
13	街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	0.41	25	1.06	21	0.65	12
14	巡回バスの利便性	-0.20	37	0.94	25	1.14	5
15	自動車での移動が便利な道路網	0.70	9	1.17	14	0.47	21
16	道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.36	29	1.29	10	0.93	8
17	段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	0.07	34	1.29	10	1.22	3
18	住民同士の助け合いによる地域福祉活動	0.39	26	0.82	29	0.43	23
19	生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	0.45	23	1.18	13	0.73	10
20	健康診断・保健指導などの健康づくり	0.77	7	1.07	20	0.30	27
21	地震や水害など防災に対する安心感	0.39	26	1.49	2	1.10	6
22	消防・救急体制	0.89	3	1.47	3	0.58	18
23	防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	0.50	19	1.14	18	0.64	15
24	犯罪にあうことのない安心感	0.23	31	1.50	1	1.27	2
25	交通事故からの安全性	0.16	33	1.45	4	1.29	1
26	町民の交通ルールやマナーを守る意識	0.21	32	1.36	6	1.15	4
27	日常的な買い物の利便さ	0.78	6	1.29	10	0.51	20
28	祭りやイベントの活発さ・充実度	0.73	8	0.46	35	-0.27	37
29	区の活動やコミュニティ・地域活動の活発さ	0.58	14	0.44	36	-0.14	36
30	町民や企業のまちづくりへの参加状況	0.49	21	0.55	32	0.06	32
31	NPO・ボランティア活動などへの支援	0.54	17	0.50	33	-0.04	35
32	町ホームページによる町の情報提供	0.64	13	0.90	26	0.26	28
33	広報おおぐちによる町の情報提供	0.89	3	0.88	27	-0.01	34
34	町政への住民参画の機会や場	0.38	28	0.64	30	0.26	28
35	大口町議会の活動	0.26	30	0.86	28	0.60	17
36	大口町の行財政運営	0.46	22	1.15	15	0.69	11
37	受付・窓口などにおける町職員の応対	0.84	5	1.15	15	0.31	26

	重要度-満足度のトップ 1~10
	重要度-満足度のトップ 11~20

※ゴシック体の太字は図 3-3-1 の下図「A. 重点改善施策項目」にあたる項目を示しています。

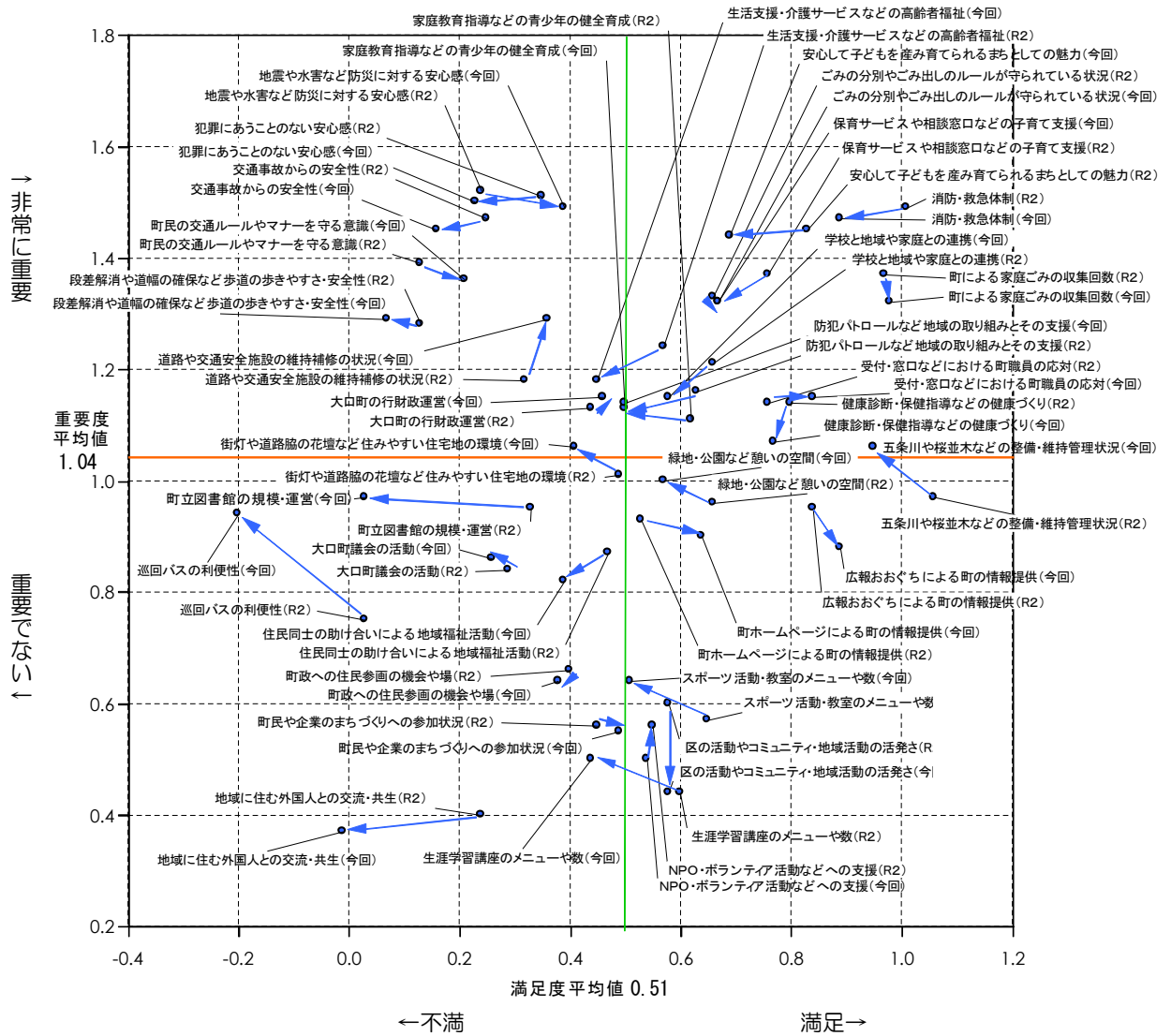
【満足度と重要度（施策の優先度）の前回比較】（図 3-3-2）

- 重点改善施策項目（表 3-3-1：ゴシック体・太字）についてみると、令和 2 年調査では 7 項目であったのに対し、今回調査では、新たに「生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉」（優先度順位 10 位）および「街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境」（優先度順位 12 位）が加わり、9 項目となっています。
- 令和 2 年調査において重点改善施策項目であった 7 項目のうち、優先度順位が第 1 位であった「地震や水害など防災に対する安心感」は、今回調査では 6 位にランクダウンしています。同様に、「町民の交通ルールやマナーを守る意識」は 4 位（前回調査では 2 位）に、「道路や交通安全施設の維持補修の状況」は 8 位（前回調査では 6 位）に、「大口町の財政運営」は 11 位（前回調査では 8 位）に、それぞれ順位を下げています。
- 一方で、「交通事故からの安全性」は優先度順位が 1 位（前回調査では 3 位）に、「犯罪にあうことのない安心感」は 2 位（前回調査では 4 位）に、「段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性」は 3 位（前回調査では 5 位）に、それぞれランクアップしています。

【居住地域別の施策の優先度】（表 3-3-3）

- 居住地域別の施策の優先度順位をみると、中地域自治組織では、「防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援」および「ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況」がそれぞれ優先順位 8 位および 9 位に入っているなど地域によって優先順位に多少の差異がみられるものの、あまり大きな差はみられません。
-

図3-3-2 ポートフォリオ分析 (前回比較)



※37項目中、今回調査で満足度と重要度の高い値、29項目を表示しています。

表 3-3-3 各居住地域の優先度順位

項目	全体	順位	北地域	順位	中地域	順位	南地域	順位
交通事故からの安全性	1.29	1	1.30	2	1.25	1	1.31	3
犯罪にあうことのない安心感	1.27	2	1.28	3	1.25	1	1.29	4
段差解消や道幅の確保など 歩道の歩きやすさ・安全性	1.22	3	1.32	1	0.98	6	1.36	2
町民の交通ルールやマナーを守る意識	1.15	4	1.15	5	1.20	3	1.06	6
巡回バスの利便性	1.14	5	1.20	4	0.80	7	1.48	1
地震や水害など防災に対する安心感	1.10	6	1.05	6	1.08	4	1.19	5
町立図書館の規模・運営	0.94	7	0.90	8	1.03	5	0.91	8
道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.93	8	1.05	6	0.70	12	0.99	7
安心して子どもを産み育てられる まちとしての魅力	0.75	9	0.81	9	0.68	14	0.75	12
生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	0.73	10	0.68	10	0.74	10	0.77	10
大口町の行財政運営	0.69	11	0.66	11	0.70	13	0.75	11
街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	0.65	12	0.62	13	0.52	19	0.84	9
保育サービスや相談窓口などの子育て支援	0.65	13	0.63	12	0.72	11	0.61	15
ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	0.65	13	0.60	15	0.75	9	0.58	18
防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	0.64	15	0.58	16	0.79	8	0.52	21
家庭教育指導などの青少年の健全育成	0.63	16	0.62	14	0.64	15	0.68	14
大口町議会の活動	0.60	17	0.58	18	0.62	17	0.60	16
消防・救急体制	0.58	18	0.54	20	0.64	16	0.55	20
学校と地域や家庭との連携	0.57	19	0.56	19	0.60	18	0.57	19
日常的な買い物の便利さ	0.51	20	0.58	16	0.21	28	0.73	13
自動車での移動が便利な道路網	0.47	21	0.48	21	0.42	23	0.50	22
緑地・公園など憩いの空間	0.43	22	0.37	23	0.38	25	0.59	17
住民同士の助け合いによる地域福祉活動	0.43	23	0.41	22	0.43	21	0.49	23
地域に住む外国人との交流・共生	0.38	24	0.30	25	0.49	20	0.40	24
町による家庭ごみの収集回数	0.34	25	0.29	26	0.43	21	0.32	27
受付・窓口などにおける町職員の対応	0.31	26	0.32	24	0.25	26	0.35	25
健康診断・保健指導などの健康づくり	0.30	27	0.23	29	0.40	24	0.29	28
町ホームページによる町の情報提供	0.26	28	0.27	27	0.23	27	0.24	29
町政への住民参画の機会や場	0.26	28	0.25	28	0.21	29	0.34	26
スポーツ活動・教室のメニューや数	0.13	30	0.09	31	0.14	30	0.18	30
五条川や桜並木などの整備・維持管理状況	0.11	31	0.19	30	-0.07	34	0.14	31
町民や企業のまちづくりへの参加状況	0.06	32	0.03	33	0.07	31	0.13	32
生涯学習講座のメニューや数	0.06	33	0.04	32	0.06	32	0.10	33
広報おおぐちによる町の情報提供	-0.01	34	0.00	34	-0.02	33	-0.03	35
NPO・ボランティア活動などへの支援	-0.04	35	-0.01	35	-0.14	36	0.06	34
区の活動やコミュニティ・地域活動の活発さ	-0.14	36	-0.14	36	-0.09	35	-0.16	36
祭りやイベントの活発さ・充実度	-0.27	37	-0.26	37	-0.23	37	-0.34	37

9. 公共交通について

9-1 外出の主な目的 (問27)

問27 あなたは、普段、外出する主な目的は何ですか。【回答数：○印を1つだけ】

「通勤」や「買い物・飲食」が主な外出目的になっています。男性は女性よりも「通勤」の割合が多く、逆に女性は男性よりも「買い物・飲食」が多くなっています。

【全体】 (図9-1-1)

- 外出の目的は「通勤」と回答した割合が49.3%を占め最も高くなっています。次いで、「買い物・飲食」が31.0%と高くなっています。
- 以下、「通院」が6.6%、「趣味・娯楽」が6.1%といずれも10%未満となっています。

【性別】 (図9-1-1)

- 「通勤」と回答した割合は、男性で57.8%と女性を14.4ポイント上回っているのに対し、「買い物・飲食」は逆に女性で37.0%と男性を14.7ポイント上回っています。

【年齢別】 (図9-1-2)

- 「通勤」と回答した割合は、40歳代をはじめ、50歳代や30歳代といった現役世代で高くなっています。60歳代になると「買い物・飲食」の割合が増加し、70歳代以上では54.0%を占めるようになります。また、70歳代以上では「通院」が17.2%を占め、「通勤」の8.9%を上回っています。
- 「通勤」と回答した割合は、40歳代をはじめ、50歳代および30歳代といった現役世代で高くなっています。一方、60歳代になると「買い物・飲食」の割合が増加し、70歳代以上では「買い物・飲食」が54.0%を占めるようになります。さらに、70歳代以上では「通院」が17.2%を占め、「通勤」の8.9%を上回っています。
- また、20歳代以下では、他の年齢層と比べて「通学」と回答した割合が18.0%と高くなっており、当該年齢層の特徴として挙げられます。

図9-1-1 性別「外出の主な目的」

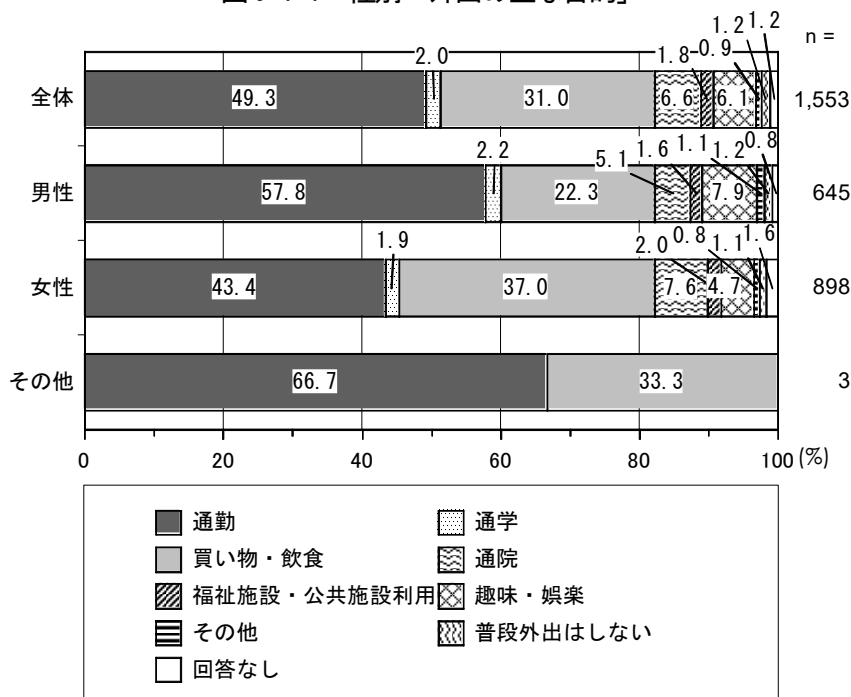
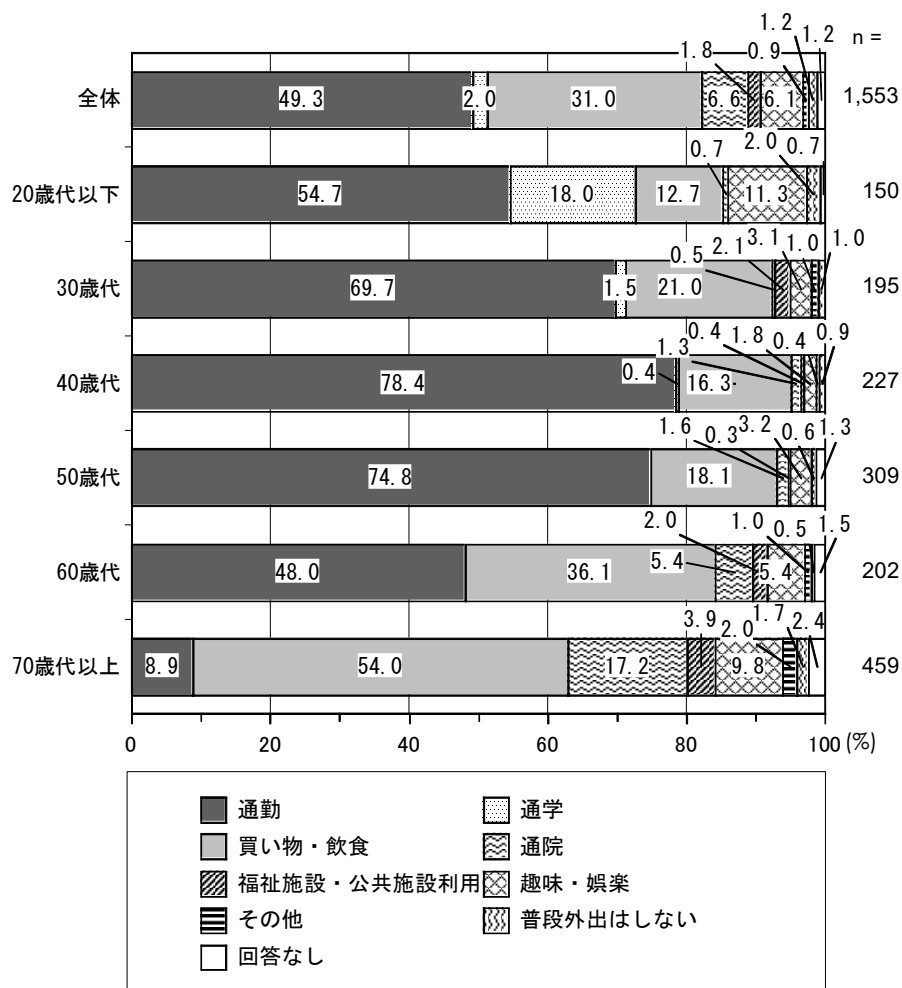


図9-1-2 年齢別「外出の主な目的」



9-2 外出の頻度 (問28)

問28 問27で回答した目的の外出頻度はどのくらいですか。【回答数：○印を1つだけ】

75.9%の人が「週に3日以上」外出していますが、「1か月に1～2日」や「年に数日」といった外出頻度が少ない人も6.2%います。70歳以上の年齢層では外出頻度が大幅に下がっています。

【全体】 (図9-2-1)

○問26において、「普段外出をしていない」と回答した人および「回答なし」を除いた1,516人を対象に外出頻度を尋ねたところ、「週に3日以上」と回答した人が75.9%を占めています。

○一方、「1か月に1～2日」(5.2%)や「年に数日」(1.0%)といった外出の頻度が低い人は、これらを合わせて6.2%となっています。

【性別】 (図9-2-1)

○女性よりも男性の方が外出頻度の高い人の占める割合が高くなっています。

【年齢別】 (図9-2-2)

○70歳代以上の年齢層では、他の年齢層と比べて「週に3日以上」と回答した割合が57.7%と低くなっています。一方、「週に1～2回」(27.7%)や「1か月に数日」(11.4%)と回答した割合は高くなっており、高齢者層は、外出頻度が相対的に低い傾向がみられます。

図9-2-1 性別「外出の頻度」

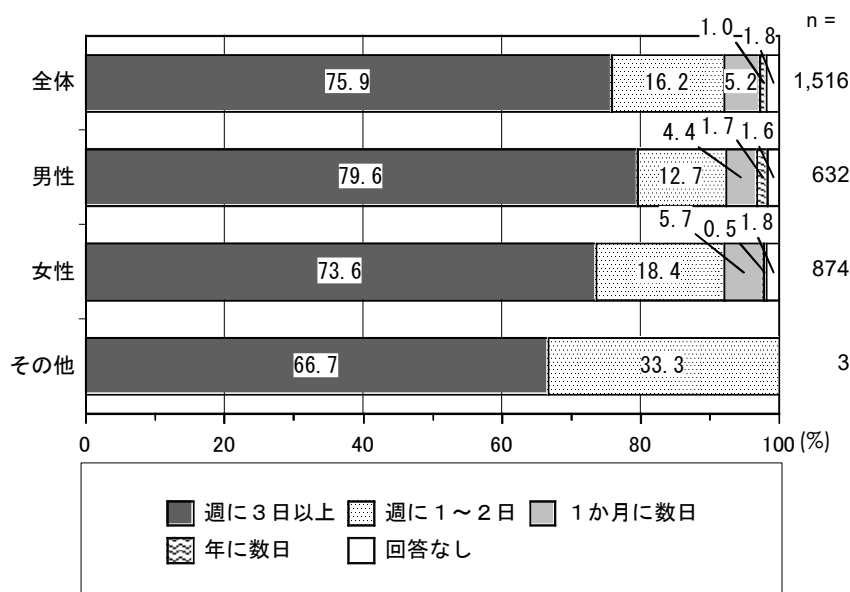
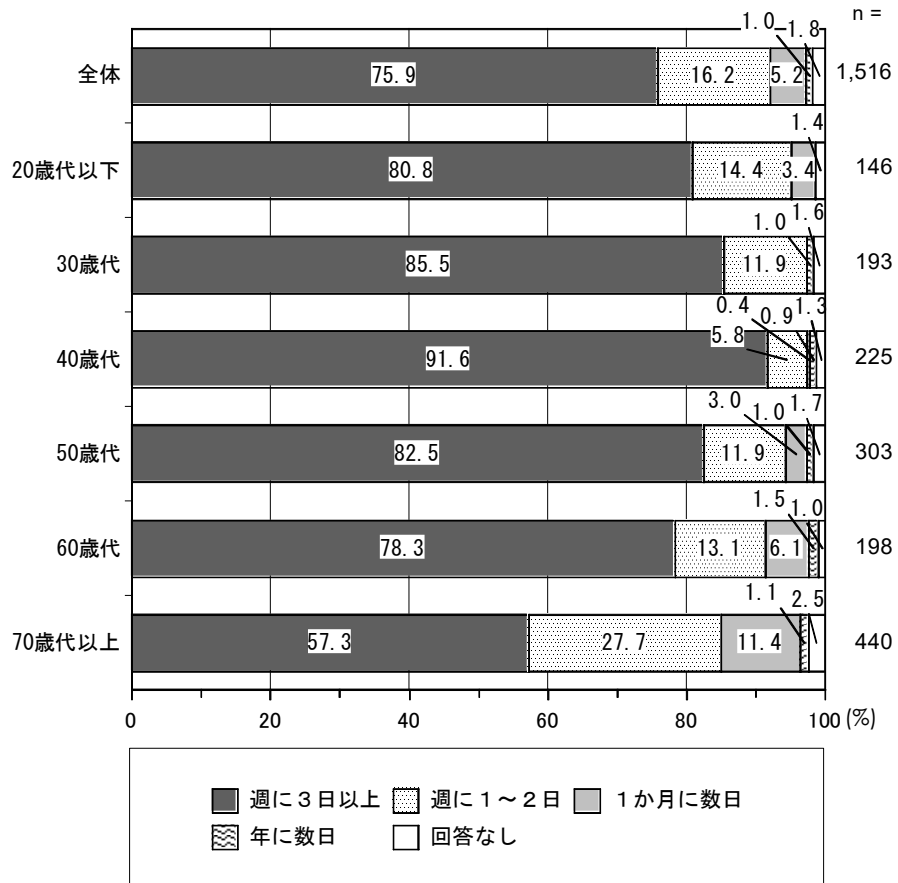


図9-2-2 年齢別「外出の頻度」



9-3 外出時間帯 (問 29)

問 29 問 27 で回答した目的で外出する主な時間帯をお答えください。

9 時台から 16 時台の時間帯には、50%超の人が外出しています。ピークは 11 時台で、この時間帯に外出している人は 69.3%を占めています。

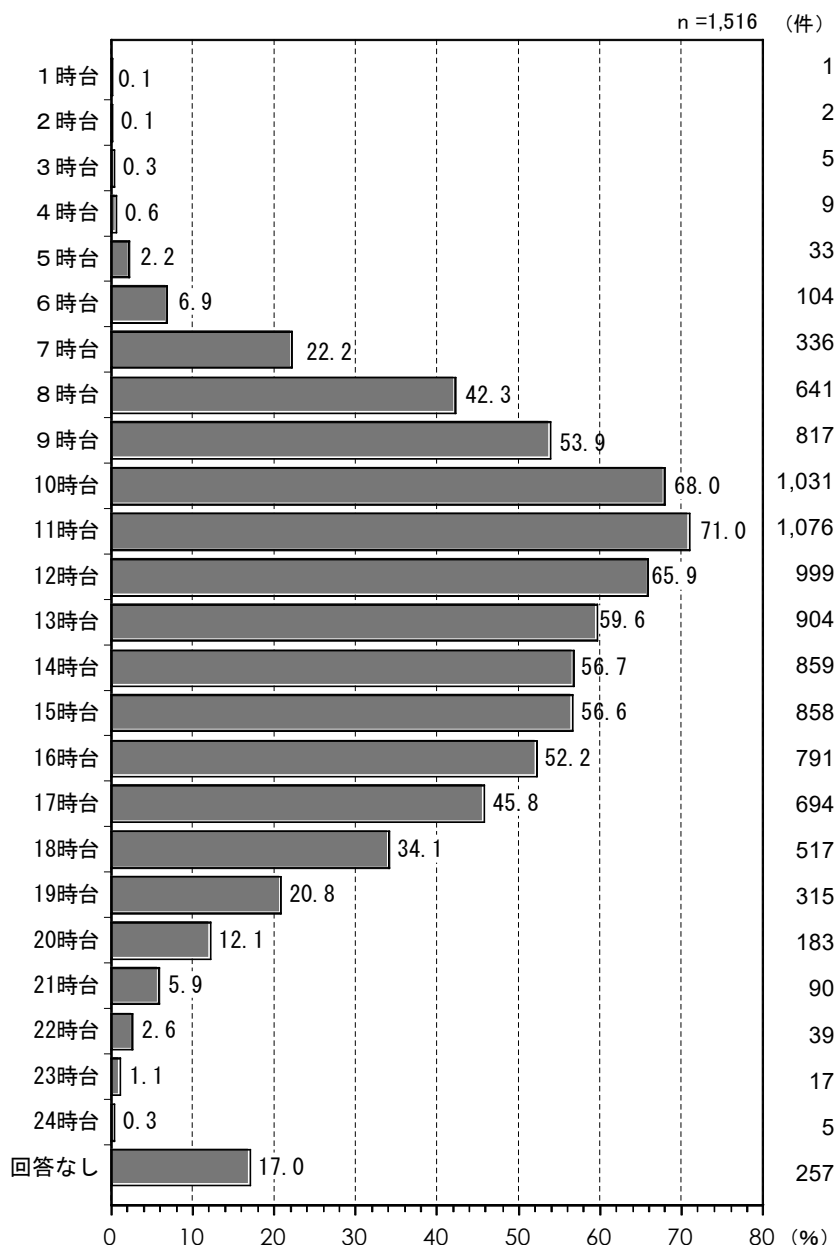
【全体】 (図 9-3-1)

○9 時台から 16 時台の時間帯には、50%超の人が外出しています。ピークは 11 時台で、この時間帯に外出している人は 71.0%を占めています。

【性別】 (図 9-3-2)

○外出時間帯のピークは、男女ともに 11 時台となっています。一方、外出者が 50%を超える時間帯を見ると、男性では 8 時台から 17 時台までと幅が広いのに対し、女性では 10 時台から 15 時台までと比較的狭くなっており、この点が特徴として挙げられます。

図 9-3-1 外出時間帯



【年齢別】 (図 9-3-3)

○30 歳代から 70 歳以上の年齢層では、10 時台から 12 時台にかけて外出している人の割合が高くなっています。一方、20 歳代以下の年齢層では、15 時台から 17 時台にかけて外出している人の割合が高くなっており、他の年齢層とは異なる傾向がみられます。

図 9-3-2 性別「外出時間帯」

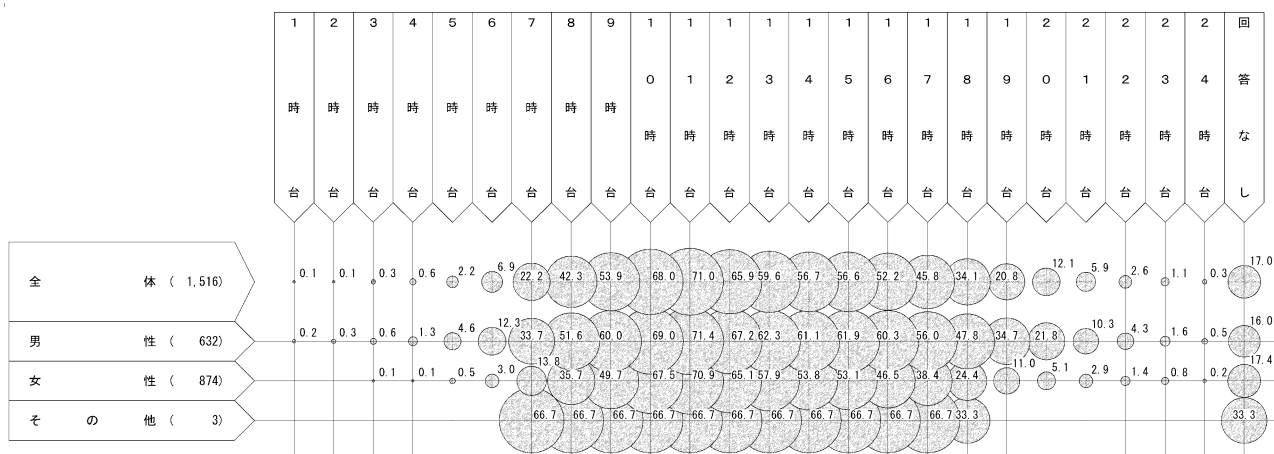
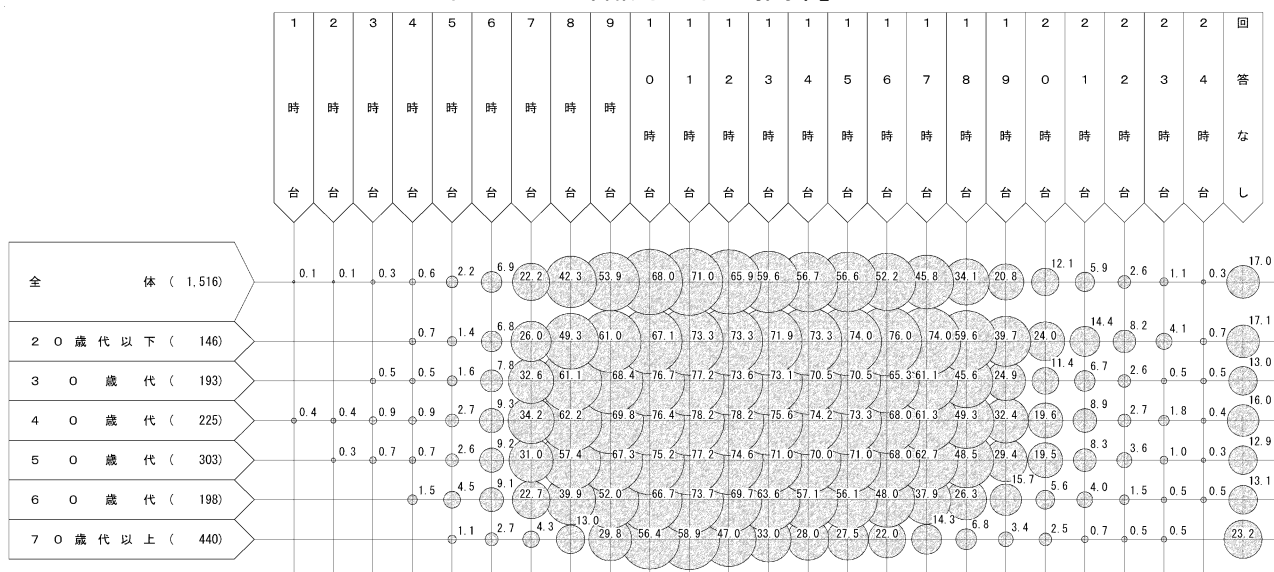


図 9-3-3 年齢別「外出時間帯」



9-4 目的地までの移動手段（問30）

問30 問27で回答した目的地まで行き帰りの主な移動手段は何ですか。【回答数：○印を1つだけ】

「自分で車やバイクを運転」が最も多く、6割超を占めています。次いで、「自転車」が多く、行き帰り共に1割程度を占めています。

【全体】（図9-4-1）

- 目的地までの移動手段としては、「自分で車やバイクを運転する」が最も多く、行きでは69.7%、帰りでは65.2%を占めています。さらに、「家族等の車による送迎」を含めると、車等による移動の割合は、行きでは77.9%、帰りでは73.2%となっています。
- また、「自分で車やバイクを運転する」に次いで、「自転車」の利用が多く、行きでは11.5%、帰りでは10.8%となっています。
- 一方、「コミュニティバス」の利用は、行きが1.9%、帰りが1.3%にとどまっています。

【年齢別】（図9-4-2、図9-4-2）

- 30歳代から60歳の年齢層では、いずれも「自分で車やバイクを運転する」と回答した割合が7割を超えています。一方、20歳代以下および70歳代以上の年齢層では、当該割合は5割前後にとどまっています。
- このため、20歳代以下の年齢層では、「自転車」の利用割合が行き・帰りともに20.5%と、他の年齢層と比べて高くなっています。また、70歳代以上の年齢層では、「家族等の車による送迎」の割合が、行きでは17.3%、帰りでは16.4%と、他の年齢層に比べて高くなっています。
- さらに、「コミュニティバス」の利用割合は、年齢が高くなるにつれて増加する傾向がみられ、70歳代以上では、行きが3.9%、帰りが3.4%となっています。

図9-4-1 目的地までの移動手段

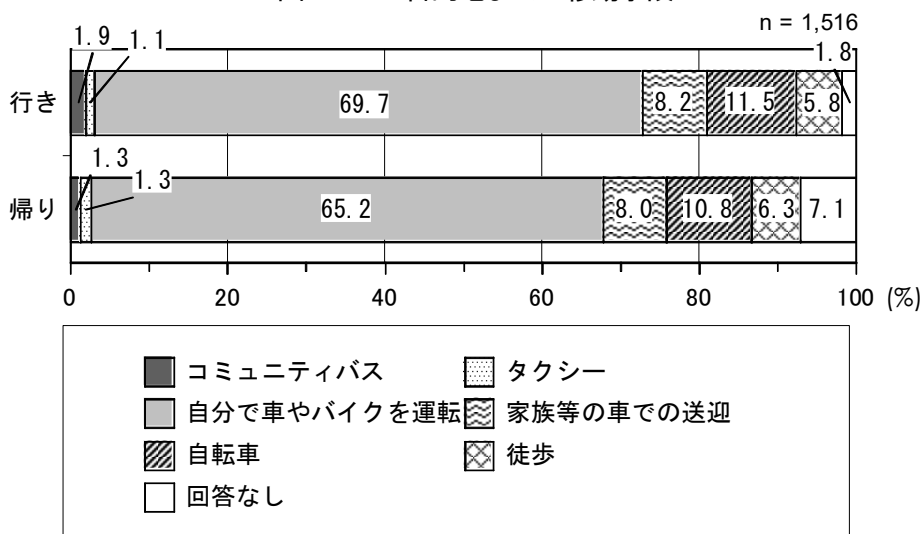


図9-4-2 年齢別「目的地までの移動手段（行き）」

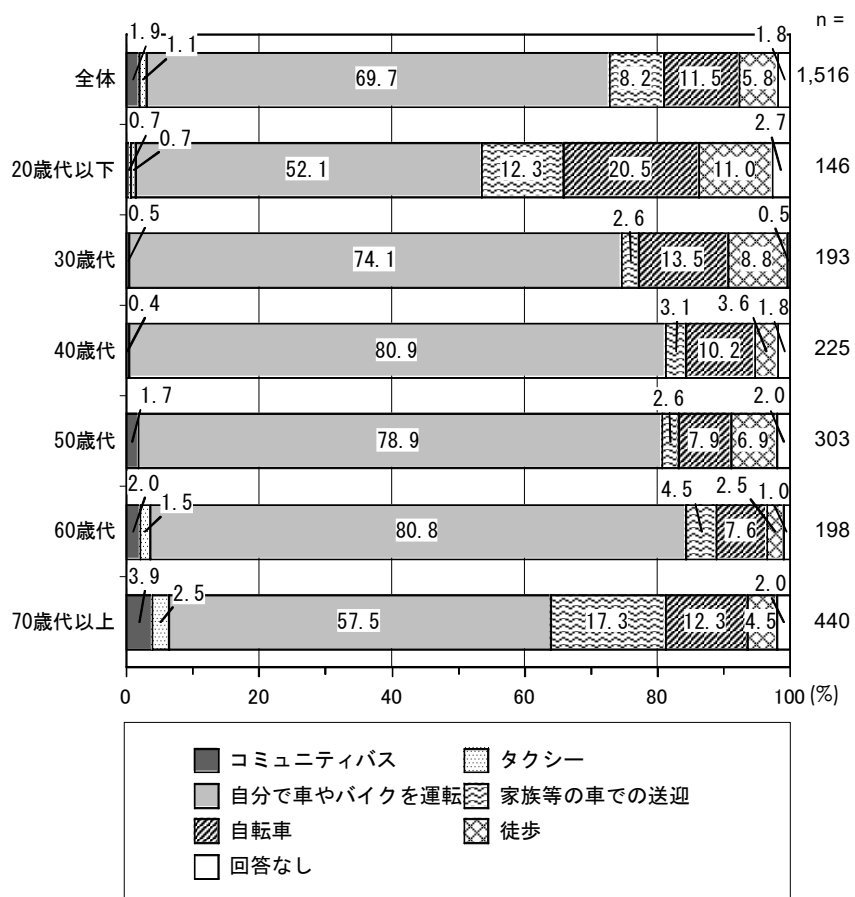
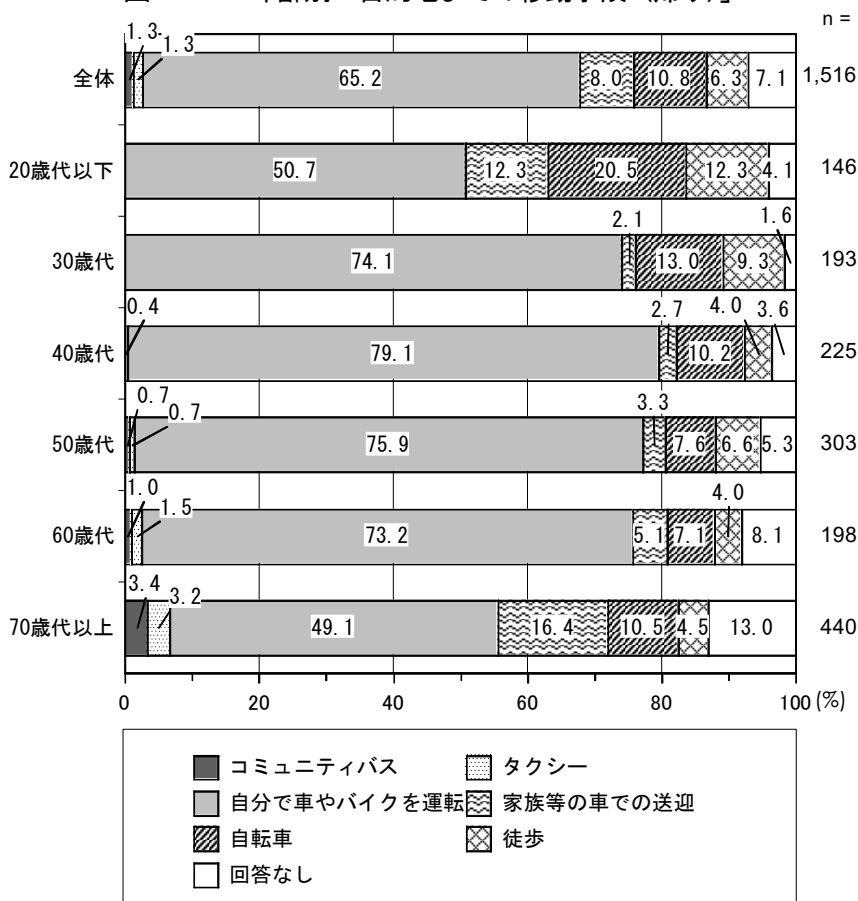


図9-4-3 年齢別「目的地までの移動手段（帰り）」



9-5 普段利用する最寄りの鉄道駅（問31）

問31 あなたの普段利用している最寄りの鉄道駅は何駅ですか。回答数：○印を1つだけ

「柏森駅」が67.0%を占め、普段利用している最寄り駅のトップになっています。

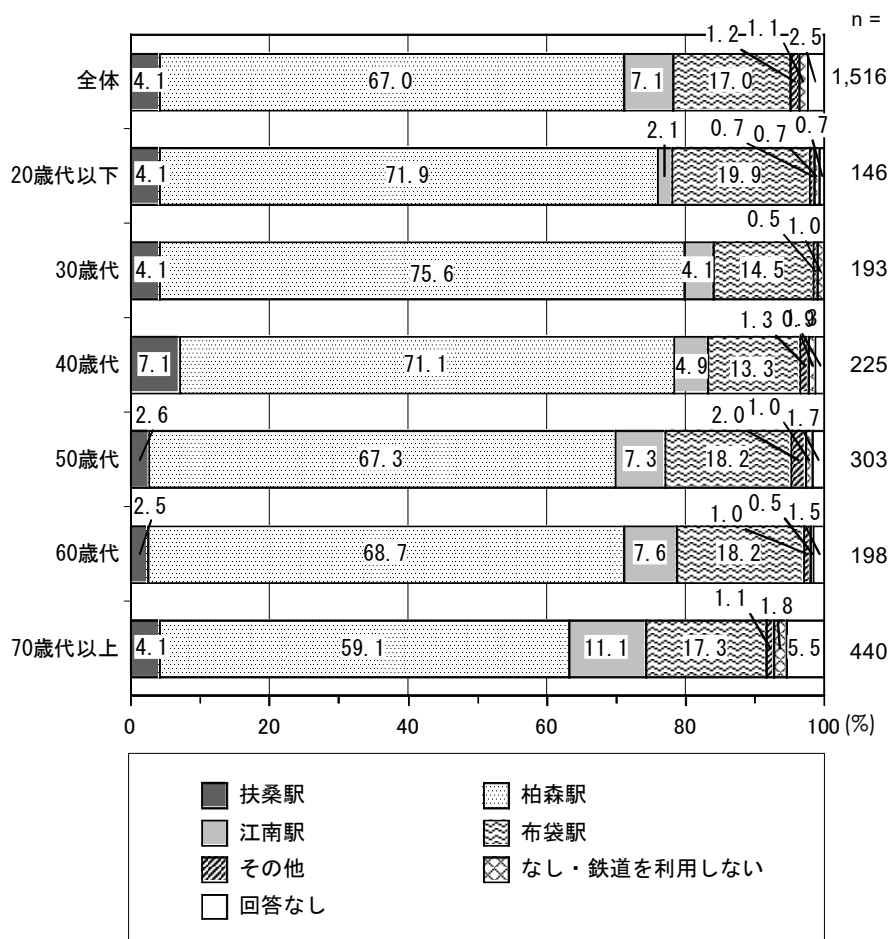
【全体】（図9-5-1）

○問26において、「普段外出をしていない」と回答した人および「回答なし」を除いた1,516人を対象に、普段利用している最寄りの鉄道駅を尋ねたところ、「柏森駅」の割合が67.0%と最も高く、次いで「布袋駅」が17.0%となっています。

【年齢別】（図9-5-1）

○「柏森駅」を利用している人の割合は、30歳代で75.6%と、他の年齢層に比べて高くなっています。一方、70歳代以上で59.1%と低い水準となっています。

図9-5-1 年齢別「普段利用する最寄りの鉄道駅」



9-6 鉄道駅を利用する際の主な交通手段（問 32）

問 32 問 31 で回答した鉄道駅を利用する際の駅までの主な交通手段は何ですか。

【回答数：○印を1つだけ】

「自分で車やバイクを運転」（30.5%）が鉄道駅を利用する際の主な交通手段のトップになっています。次いで、「徒歩」が26.2%、「家族等の車で送迎」が23.3%となっています。

【全体】（図 9-6-1）

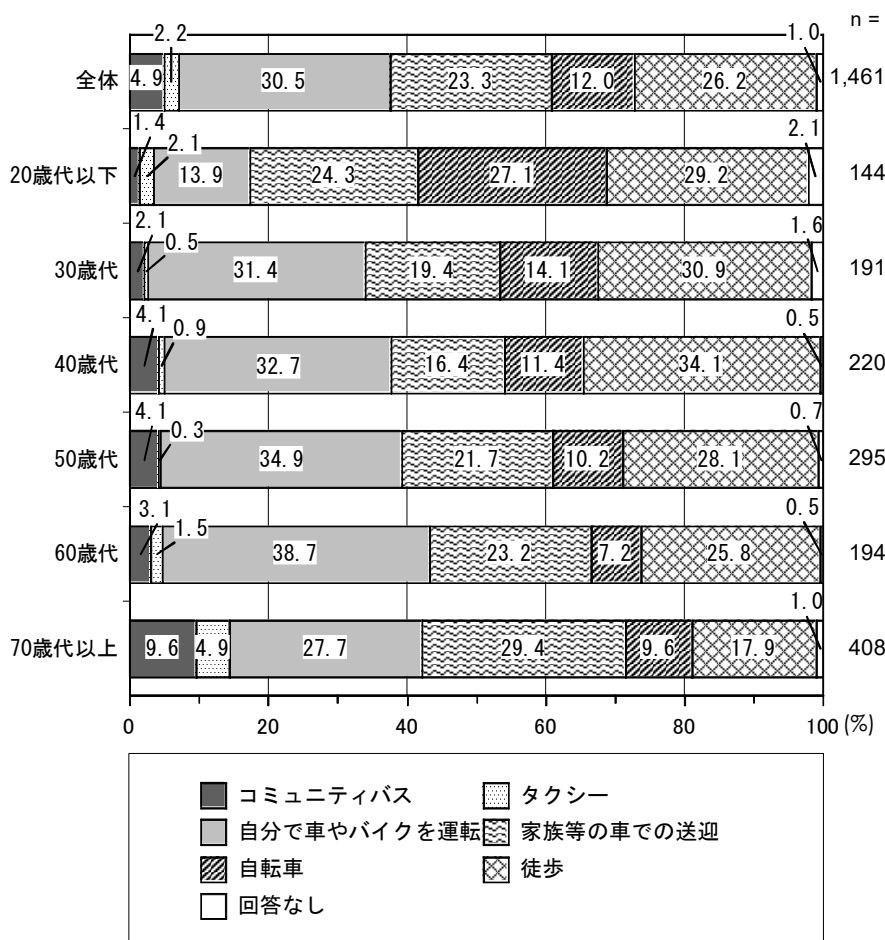
○鉄道駅を利用している人を対象に、鉄道駅を利用する際の主な交通手段を尋ねたところ、「自分で車やバイクを運転する」という回答が30.5%と最も高くなっています。次いで、「徒歩」が26.2%、「家族等の車による送迎」が23.3%となっています。

○一方、「コミュニティバス」の利用は4.9%にとどまっています。

【年齢別】（図 9-6-1）

○20歳代では、「自転車」と回答した割合が27.1%と、他の年齢層と比べて高くなっています。一方、40歳代以降では、年齢が高くなるにつれて「家族等の車による送迎」への依存が高まる傾向がみられ、「徒歩」による移動の割合は低下する傾向が明確に表れています。

図 9-6-1 年齢別「鉄道駅を利用する際の主な交通手段」

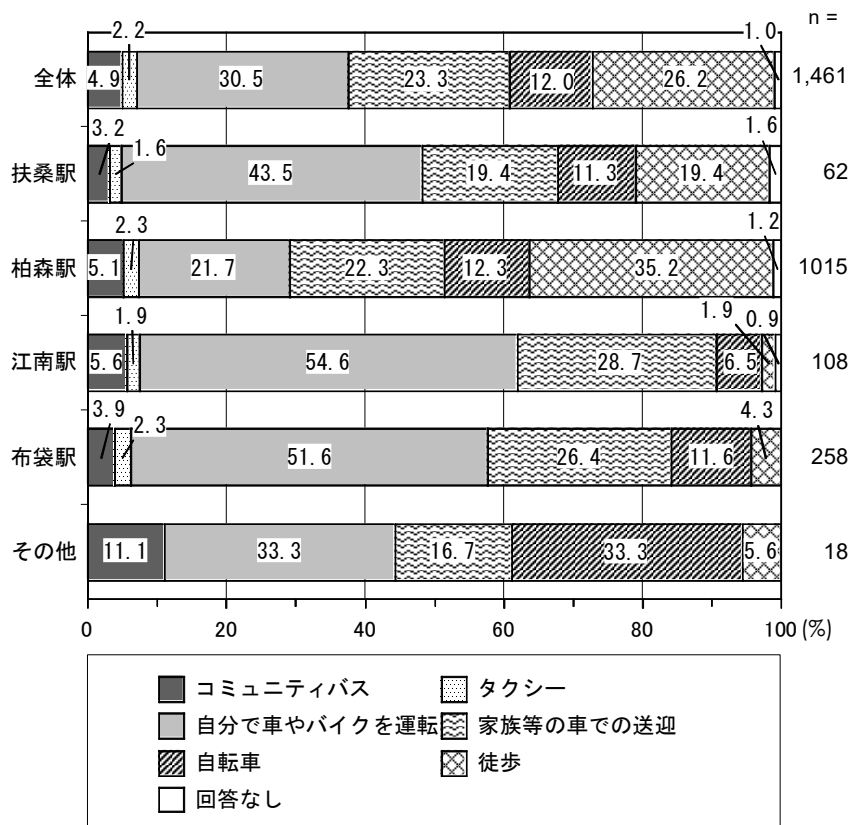


【最寄り駅別】 (図 9-6-2)

○江南駅をはじめ、布袋駅や扶桑駅については、いずれも「自分で車やバイクを運転」が主な交通手段になっています。一方、利用者が最も多い「柏森駅」では、「徒歩」が 35.2%最も高い割合を占めています。

○なお、江南駅については、「家族等の車による送迎」の割合が、他の駅と比べてやや高くなっています。

図 9-6-2 最寄り駅別「鉄道駅を利用する際の主な交通手段」



9-7 外出する際の公共交通で困ったことの有無（問33）

問33 あなたは、外出する際、電車やコミュニティバス、タクシーなどの公共交通が不便で困ったことはありますか。【回答数：○印を1つだけ】

「よく困る」が19.7%で、「たまに困る」の37.3%と合わせた“困る”という回答は57.0%と過半数を占めています。

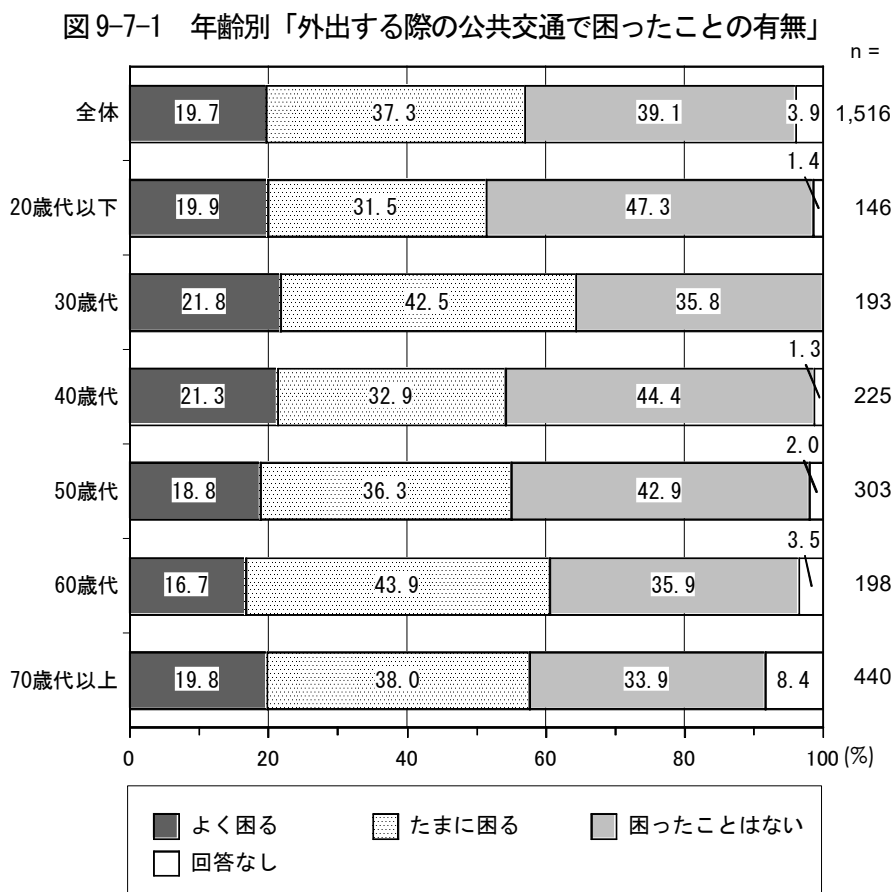
【全体】（図9-7-1）

○問26で「普段外出をしていない」と回答した人と「回答なし」を除く1,516人を対象に外出する際の公共交通で困ったことの有無を尋ねたところ、「よく困る」が19.7%となっています。「たまに困る」の37.3%と合わせた“困る”という回答は57.0%と過半数となり、「困ったことはない」の39.1%を17.9ポイントも上回っています。

○問26において、「普段外出をしていない」と回答した人および「回答なし」を除いた1,516人を対象に、外出時の公共交通に関して困ったことの有無を尋ねたところ、「よく困る」と回答した人は19.7%となっています。これに「たまに困る」と回答した人（37.3%）を加えると、“困る”と回答した人の割合は57.0%と過半数を占めており、「困ったことはない」と回答した人（39.1%）を17.9ポイント上回っています。

【年齢別】（図9-7-1）

○“困る”と回答した割合は、30歳代で64.8%と、他の年齢層に比べて高くなっています。一方、「困ったことはない」と回答した割合は、20歳代以下および40歳代でそれぞれ47.3%、44.4%と、他の年齢層と比べて高くなっています。



9-8 公共交通で困った際の外出目的（問34）

問34 問33で1.または2.のどちらかを選んだ方にお聞きします。

あなたは、どのような目的で外出する時に困りますか。【回答数：○印を1つだけ】

「買い物・飲食」が19.2%と最も多く、次いで、「お酒を飲む」が17.6%、「趣味」と「旅行」が共に15.1%と続いています。

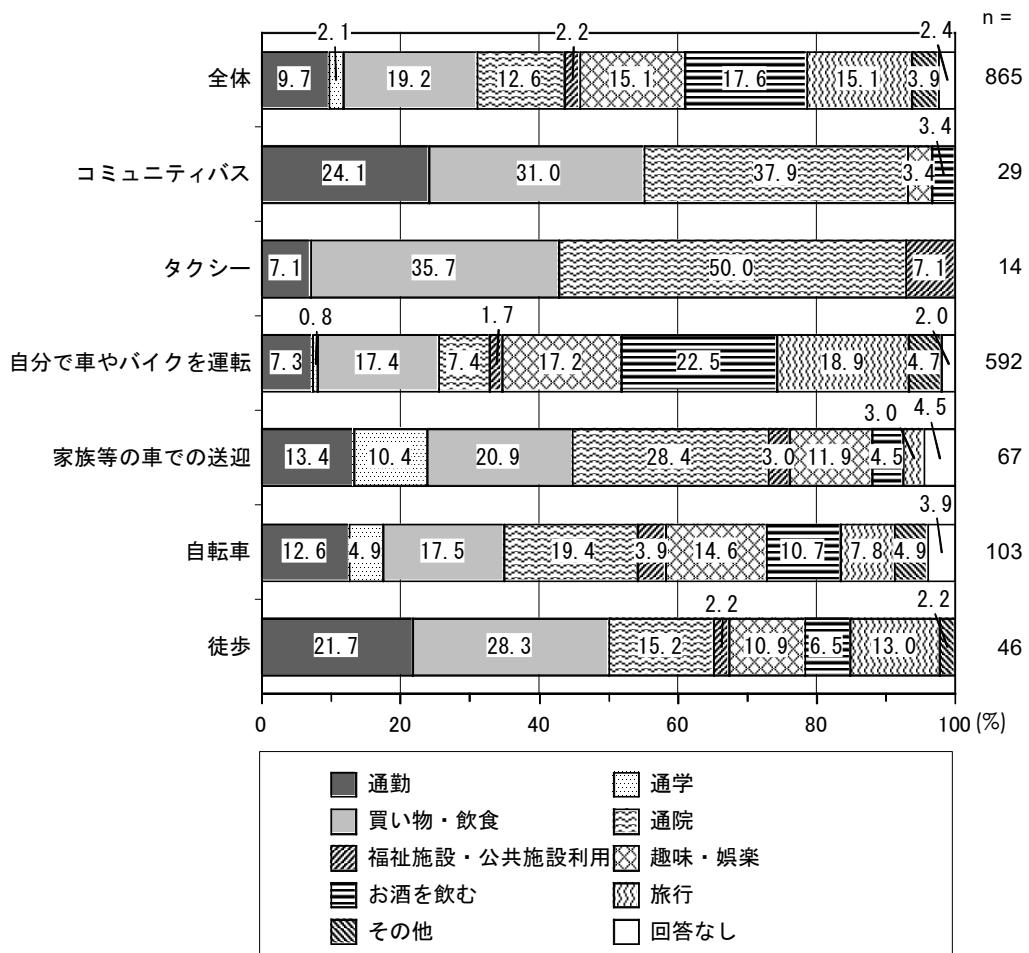
【全体】（図9-8-1）

○問33において、「よく困る」または「たまに困る」と回答した865人に対して、どのような目的で外出する時に困るか尋ねたところ、「買い物・飲食」の割合が19.2%と最も高く、次いで、「お酒を飲む」が17.6%、「趣味」と「旅行」が共に15.1%と続いています。

【普段の主な移動手段別（行き）】（図9-8-1）

- 「買い物・飲食」の際に困ったという人の割合は、普段の主な交通手段（行き）がタクシーやコミュニティバス、徒歩である場合に高くなっています。また、「お酒を飲む」際に困ったと回答した人の割合は、普段の主な交通手段（行き）が「自分で車やバイクを運転する」場合に高くなっています。
- 一方、「通院」について困ったと回答した人の割合は、普段の主な交通手段（行き）がタクシー、コミュニティバス、または家族等の車による送迎である場合に高くなっています。

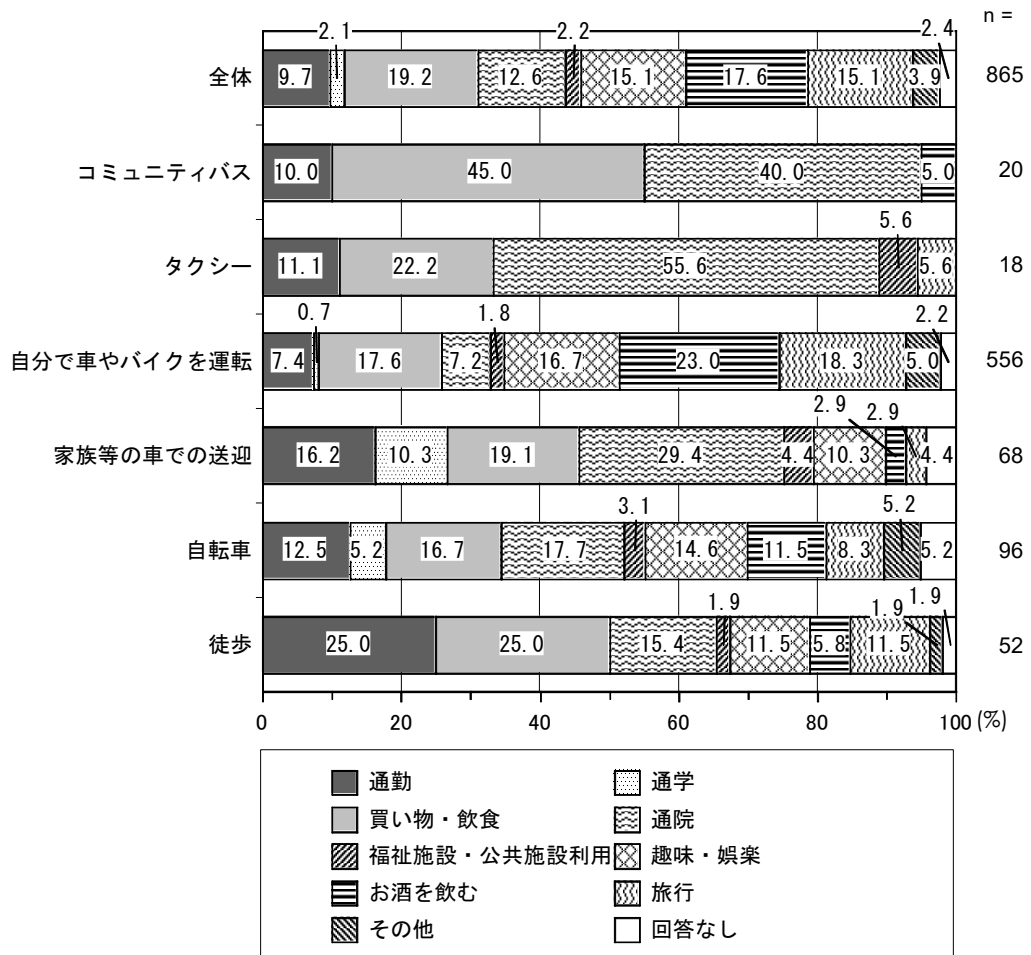
図9-8-1 普段の主な移動手段別（行き）「外出する際の公共交通で困った際の外出目的」



【普段の主な移動手段別（帰り）】（図9-8-2）

○帰りについても行きと概ね似たような傾向がみられます。

図9-8-2 普段の主な移動手段別（帰り）「外出する際の公共交通で困った際の外出目的」



9-9 公共交通で困った際の対応 (問 35)

問 35 問 33 で 1. または 2. のどちらかを選んだ方にお聞きします。

あなたは、困ったときはどのように対応していますか。【回答数：○印を 1 つだけ】

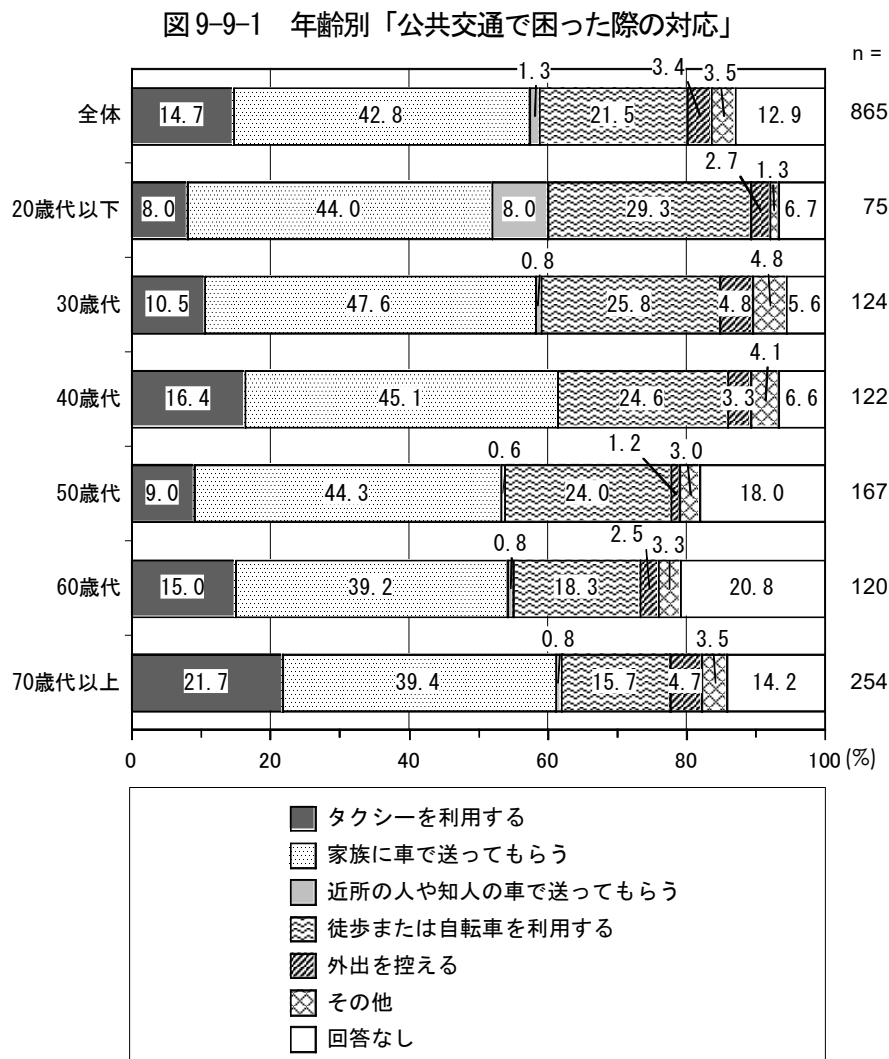
「家族に車で送ってもらう」が 42.8%と最も多く、次いで、「徒歩または自転車を利用する」が 21.5%と多くなっています。

【全体】 (図 9-9-1)

○問 33 において、「よく困る」または「たまに困る」と回答した 865 人を対象に、困った際の対応を尋ねたところ、「家族に車で送ってもらう」と回答した人の割合が 42.8%と最も高くなっています。次いで、「徒歩または自転車を利用する」が 21.5%、「タクシーを利用する」が 14.7%となっています。

【年齢別】 (図 9-9-1)

○いずれの年齢層においても、「家族に車で送ってもらう」と回答した割合が最も高くなっています。
 ○また、「徒歩または自転車を利用する」および「近所の人や知人の車による送迎」と回答した割合は、他の年齢層と比べて 20 歳代以下の年齢層で高くなっています。一方、「タクシーを利用する」と回答した割合は、70 歳代以上の年齢層で高くなっており、年齢層による対応手段の違いが特徴としてみられます。



9-10 ひと月あたりの交通費 (問 36)

問 36 あなたの公共交通を利用するためにかかる交通費は、ひと月あたりいくら位ですか。

【回答数：○印を1つだけ】

最も多い価格帯は「1,000～5,000円未満」で25.8%となっており、「10,000円以上」は、7.1%と少ないですが、通学では、「10,000円以上」と回答した割合は51.6%と過半数を占めており、通学手段として公共交通が重要な役割を担っていることがうかがえます。

【全体】 (図 9-10-1)

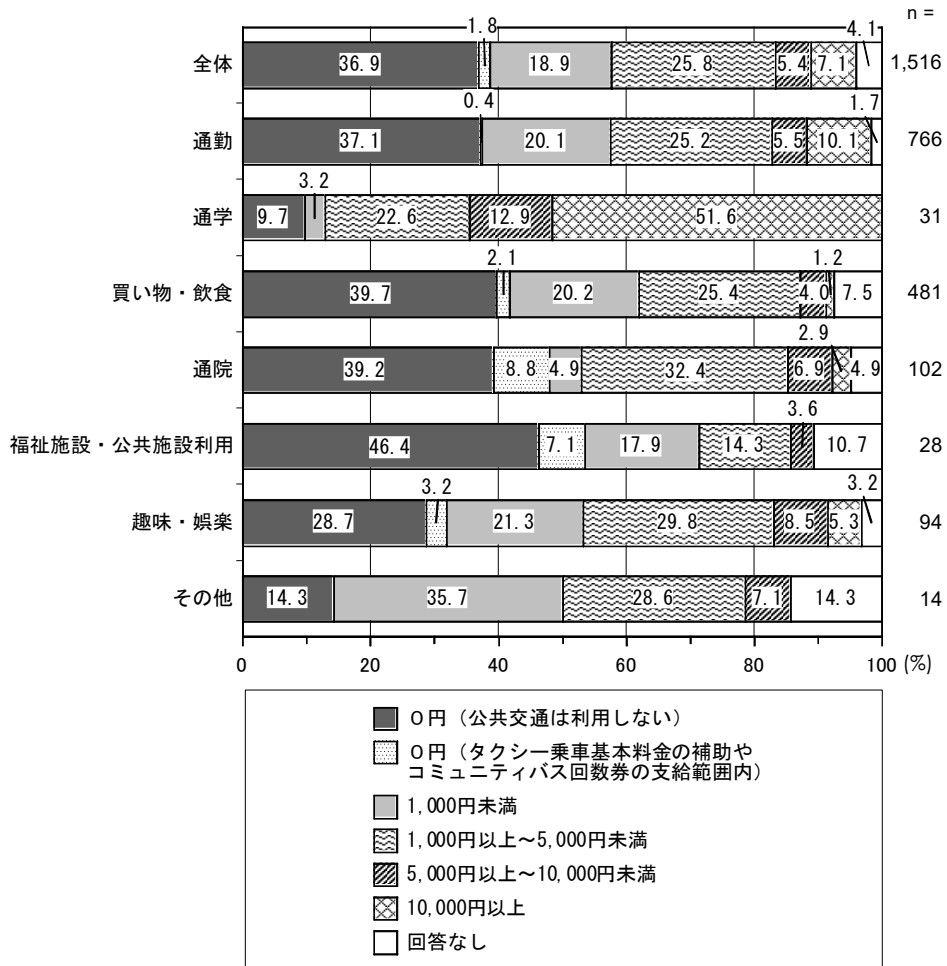
○問 26 において、「普段外出をしていない」と回答した人と「回答なし」を除く 1,516 人を対象に、ひと月あたりの公共交通にかかる交通費を尋ねたところ、「0円 (公共交通は利用しない)」と回答した割合が 36.9%と最も高くなっています。これに「0円 (タクシー乗車基本料金の補助やコミュニティバス回数券の支給範囲内)」の 1.8%を加えると、交通費が「0円」という人は 38.7%となっています。

○公共交通費を支払っている人のうち、最も多い価格帯は「1,000～5,000円未満」で 25.8%となっています。次いで、「1,000円未満」が 18.9%、「10,000円以上」が 7.1%となっています。

【外出目的別】 (図 9-10-1)

○通学においては、「0円 (公共交通を利用しない)」と回答した割合が 9.7%と、他の外出目的と比べて低い水準となっています。一方、「10,000円以上」と回答した割合は 51.6%と過半数を占めており、通学手段として公共交通が重要な役割を果たしていることがうかがえます。

図 9-10-2 外出目的別「ひと月あたりの交通費」



9-11 交通費支出の主な対象交通（問37）

問37 問36で3.～6.のいずれかを選んだ方にお聞きします。

問36で回答した交通費は主にどの交通手段にかかっていますか。【回答数：○印を1つだけ】

「電車」と回答した人が80.9%と最も多くなっています。「タクシー」や「コミュニティバス」はそれぞれ9.8%、4.8%とあまり多くありません。

【全体】（図9-11-1）

○問36において、公共交通を利用するためにかかる交通費を回答した867人を対象に、交通費支出の主な対象となる交通手段を尋ねたところ、「電車」と回答した割合が80.9%と最も高くなっています。
○一方、「タクシー」および「コミュニティバス」と回答した割合は、それぞれ9.8%、4.8%と低い水準にとどまっています。

【交通費支出の主な対象交通別「ひと月あたりの交通費」】（図9-11-2）

○コミュニティバスについては、「1,000円未満」と回答した割合が64.3%と高くなっています。また、タクシーについては、「1,000円以上～5,000円未満」の割合が64.7%と最も高くなっています。
○電車についても「1,000円以上～5,000円未満」の割合が最も高くなっていますが、他の交通手段と比べると、「10,000円以上」の割合が14.1%と高くなっていることが特徴として挙げられます。

図9-11-1 交通費支出の主な対象交通

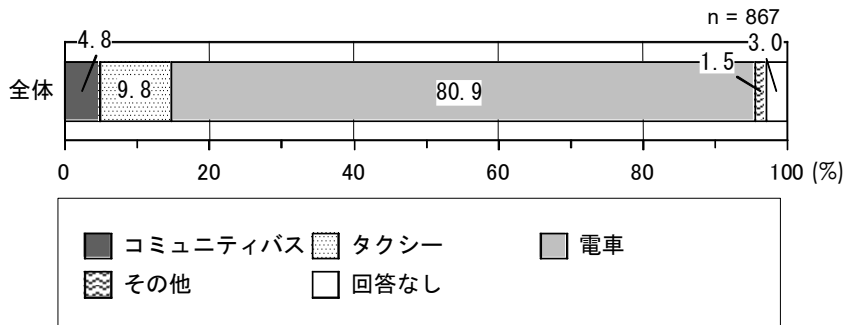
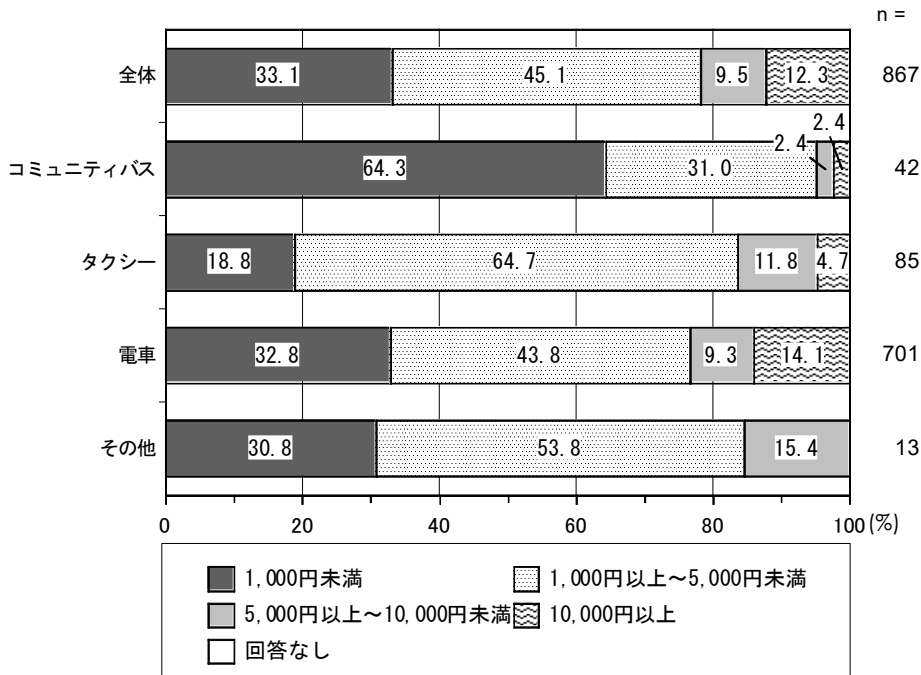


図9-11-2 交通費支出の主な対象交通別「ひと月あたりの交通費」



9-12 コミュニティバスの利用頻度 (問38)

問38 問36で2.～6.のいずれかを選んだ方にお聞きします。

あなたは、コミュニティバスをどのくらい利用していますか。【回答数：○印を1つだけ】

コミュニティバスを「利用していない」と回答した人が63.2%と過半数を占めています。コミュニティバスを「週に3日以上利用している」や「週に1～2日利用する」といった日常的に頻繁に利用している人の割合は、合わせても4.6%となっています。

【全体】 (図9-12-1)

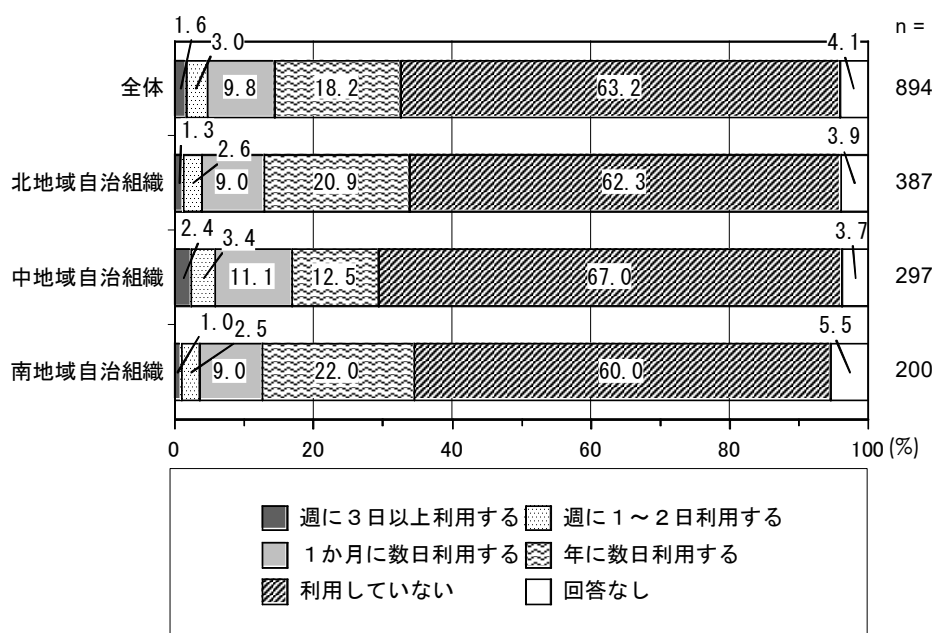
○問36において、「0円 (公共交通は利用しない)」と回答した人および「回答なし」を除いた894人を対象に、コミュニティバスの利用頻度を尋ねたところ、「利用していない」と回答した人が63.2%と過半数を占めています。

○また、コミュニティバスを利用している人であっても、「年に数日利用する」と回答した割合が18.2%、「1か月に数日利用する」と回答した割合が9.8%と、利用頻度の低い層が高くなっています。一方、「週に1～2日利用する」は3.0%、「週に3日以上利用している」は1.6%にとどまっており、日常的に頻繁に利用している人の割合は、これらを合わせても4.6%となっています。

【居住地域別】 (図9-12-1)

○居住地域による有意な差はみられません。

図9-12-1 居住地域別「コミュニティバスの利用頻度」



【コミュニティバスの利用頻度別「外出の主な目的」】 (図9-12-2)

○「週に3日以上利用している」や「週に1～2日利用する」といった日常的に頻繁に利用している人は自体多くありませんが、なかには「通勤」や「買い物・飲食」の外出の支えになっているような人もみられます。

【コミュニティバスの利用頻度別「年齢」】 (図9-12-3)

○「週に3日以上利用している」または「週に1～2日利用する」といった、日常的にコミュニティバスを利用している人の割合は全体としては限られていますが、「週に3日以上利用している」人では20歳代以下の年齢層が35.7%を占めています。また、「週に1～2日利用する」人では、70歳代以上の年齢層が51.9%を占めており、若年層や高齢者層の一部において、外出手段として活用されている状況がうかがえます。

○さらに、「1か月に数日利用する」というたまに利用する人の中には、75歳代以上の年齢層が37.5%を占めており、高齢者を中心に、必要に応じて利用されている状況がみられます。

図9-12-2 コミュニティバスの利用頻度別「外出の主な目的」

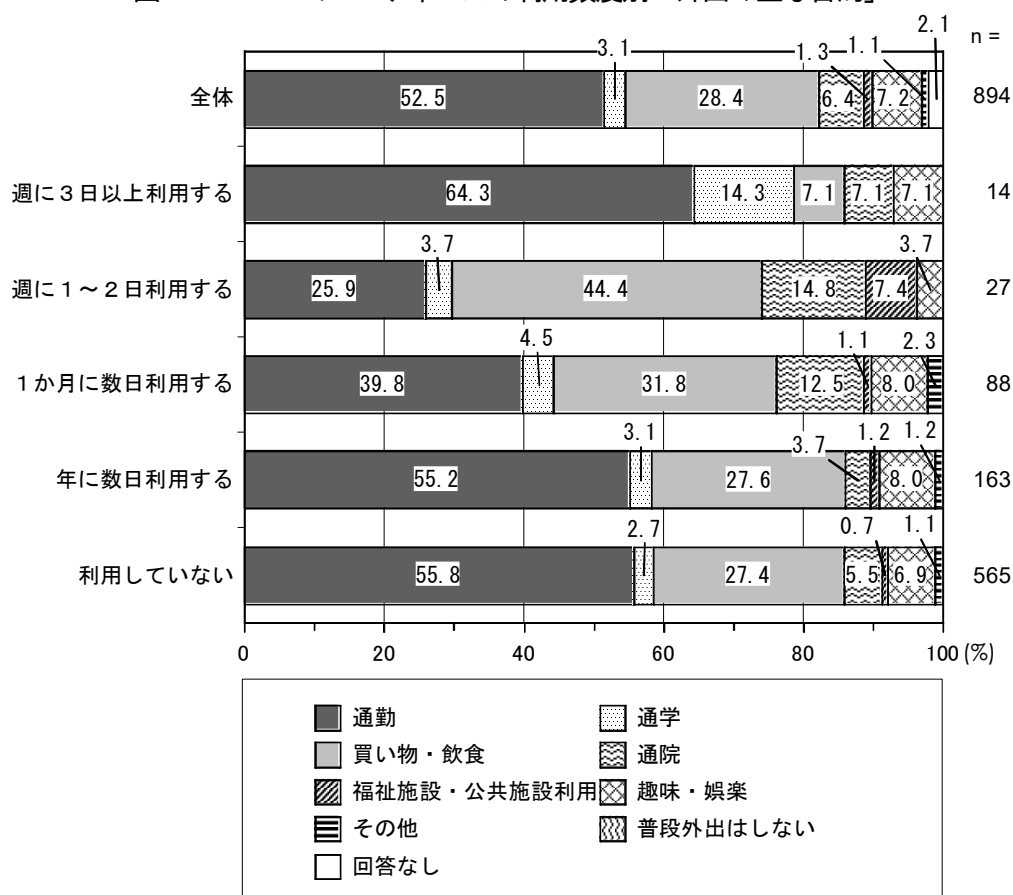
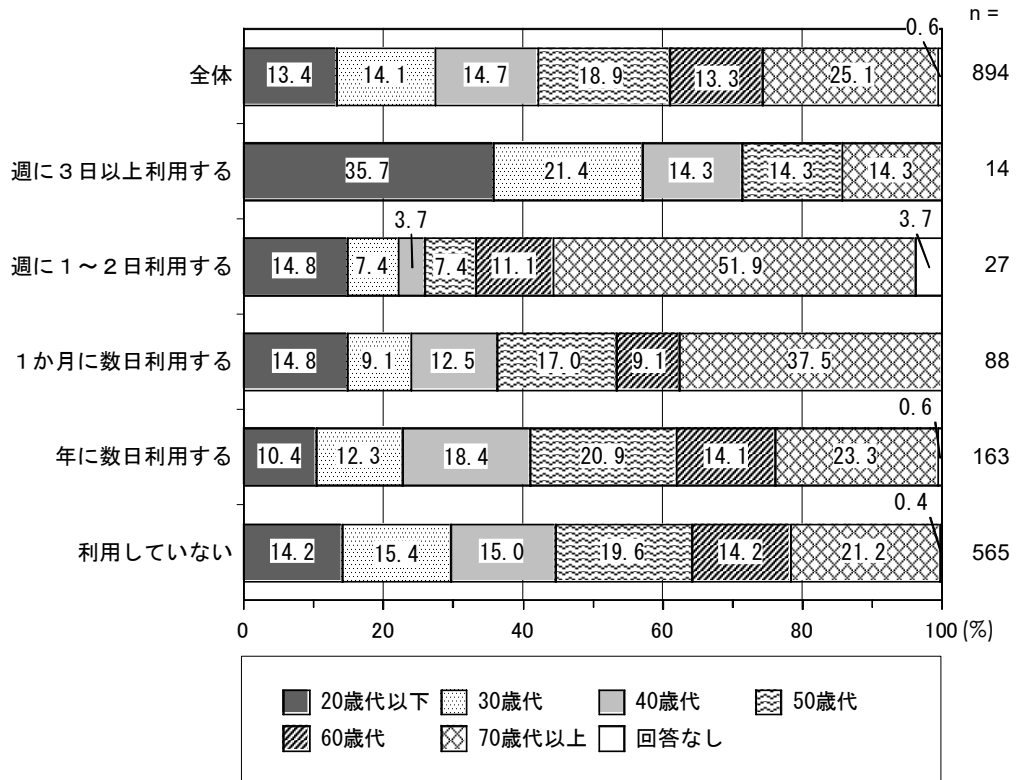


図9-12-3 コミュニティバスの利用頻度別「年齢」



9-13 コミュニティバスを利用する目的（問39）

問39 問38で1.～4.のいずれかを選んだ方にお聞きします。

あなたは、主にどのような目的でコミュニティバスを利用していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

「趣味・娯楽」が27.7%と最も多く、次いで、「買い物・飲食」が27.4%、「通勤」が16.1%となっています。

【全体】（図9-13-1）

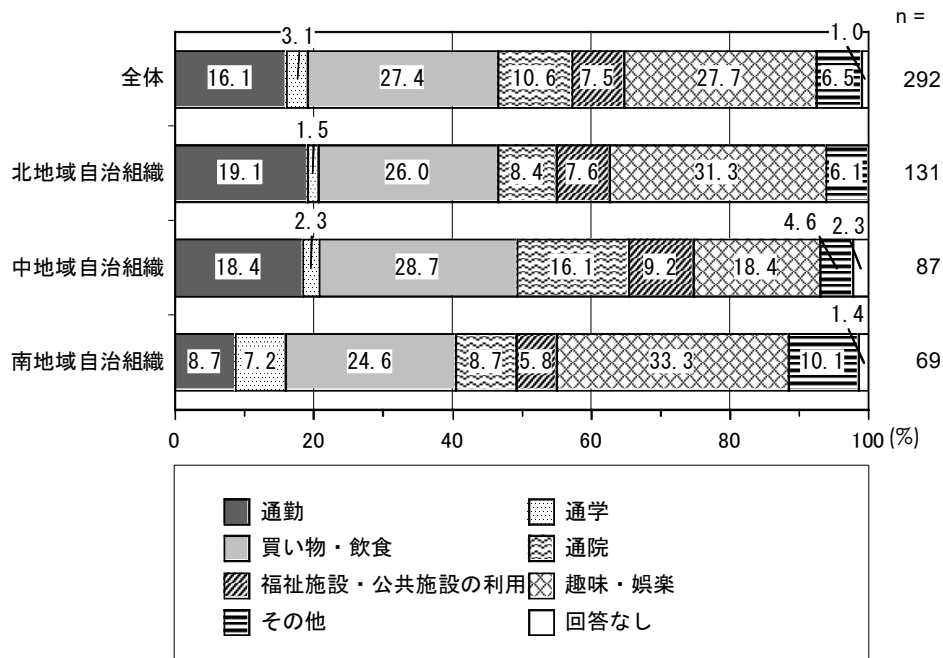
○問38において、コミュニティバスを「利用していない」と回答した人と「回答なし」を除いた残りの292人を対象に、コミュニティバスを利用する目的を尋ねたところ、「趣味・娯楽」の割合が27.7%と最も高く、次いで、「買い物・飲食」が27.4%、「通勤」が16.1%となっています。

【居住地域別】（図9-13-1）

○南地域自治組織では、他の地域に比べて「趣味・娯楽」の割合が33.3%と高くなっています。また、「通学」の割合も7.2%とやや高い傾向がみられます。一方で、「通勤」の割合は8.7%と低くなっており、これが当該地域の特徴として挙げられます。

○中地域自治組織では、「通院」の割合が他の地域に比べてやや高くなっていることが特徴としてみられます。

図9-13-1 居住地域別「コミュニティバスを利用する目的」



9-14 コミュニティバスを利用しない理由（問40）

問40 問38で「5.利用していない」を選んだ方にお聞きします。

コミュニティバスを利用しない理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○印】

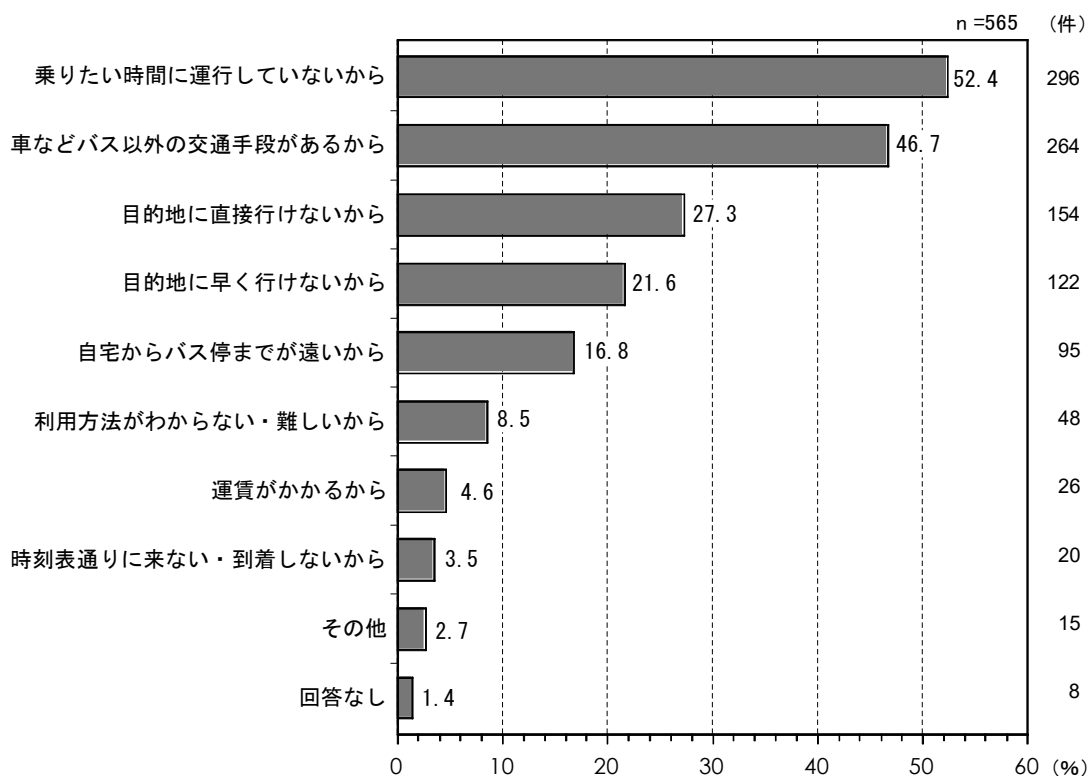
「乗りたい時間に運行していないから」が52.4%と最も多く、次いで、「車などバス以外の交通手段があるから」が46.7%、「目的地に直接行けないから」が27.3%となっています。運行時間や代替手段の有無に関する理由や利便性に関する理由が上位を占めています。

【全体】（図9-14-1）

○問38において、コミュニティバスを「利用していない」と回答した人を対象に、利用していない理由を尋ねたところ、「乗りたい時間に運行していないから」の割合が52.4%と最も高く、次いで、「車などバス以外の交通手段があるから」が46.7%、「目的地に直接行けないから」が27.3%、「目的地に早く行けないから」が21.6%、「自宅からバス停が遠いから」が16.3%となっています。

○このように、コミュニティバスを利用していない理由としては、「乗りたい時間に運行していない」「車などバス以外の交通手段がある」といった運行時間や代替手段の有無に関する理由が上位を占めています。また、「目的地に直接行けない」「目的地に早く行けない」といった利便性に関する理由や、「自宅からバス停が遠い」といった立地条件に関する理由も一定数みられ、運行内容や利便性、利用環境が利用状況に影響していることがうかがえます。

図9-14-1 コミュニティバスを利用しない理由



【年齢別】 (図 9-14-2)

○コミュニティバスを利用していない理由の中で最も割合が高かった「乗りたい時間に運行していないから」を回答した人の割合は、50 歳代で 64.0%と特に高くなっており、40 歳代においても 61.2%と比較的高い水準になっています。

○また、2 番目に割合が高かった理由である「車などバス以外の交通手段がある」と回答した人の割合は、特に 30 歳代で 57.5%と高くなっています。さらに、30 歳代および 20 歳代以下の年齢層において、コミュニティバスを利用していない理由の中で最も割合の高い項目となっています。

【居住地域別】 (図 9-14-3)

○コミュニティバスを利用していない理由の中で最も多かった「乗りたい時間に運行していないから」と回答した人の割合は、南地域自治組織において 66.7%と特に高くなっています。一方で、中地域自治組織で 41.2%と低い水準になっています。

図 9-14-2 年齢別「コミュニティバスを利用しない理由」

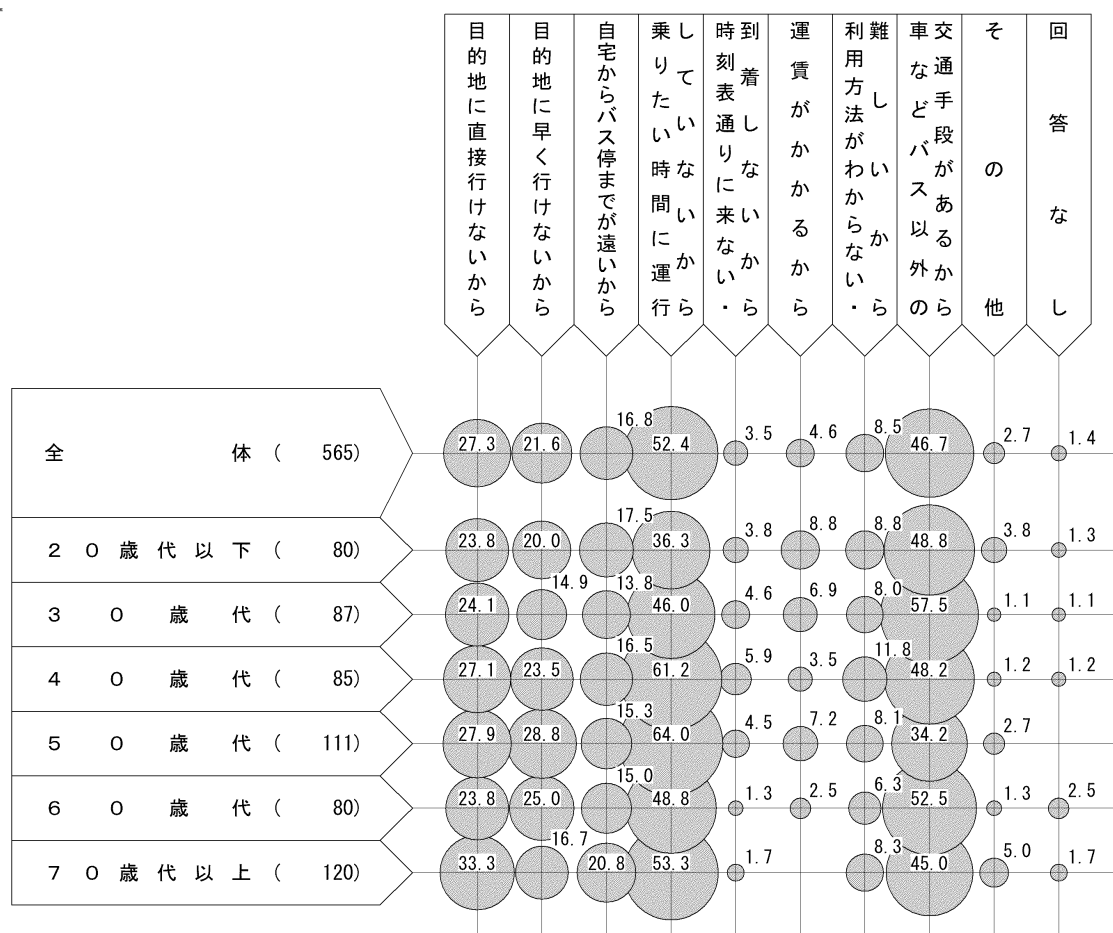
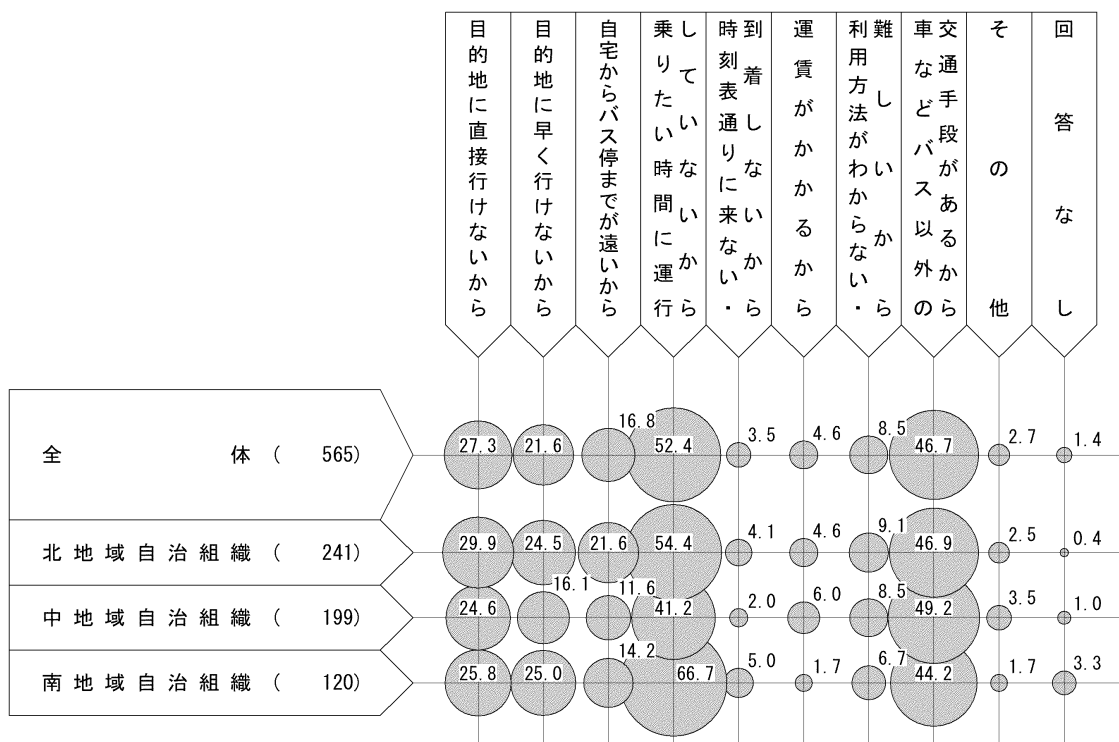


図 9-14-3 居住地域別「コミュニティバスを利用しない理由」



9-15 公共交通で行きたい施設（問41）

問41 公共交通で行きたい施設を教えてください。町内・町外は問いません。現在でも行くことができる施設でも構いません。

公共交通で行きたい病院、公共交通で行きたい買い物先、公共交通で行きたいその他行き先が「ある」と回答した人の割合は、それぞれ25.7%、26.1%、17.1%となっています。

【全体】（図9-15-1）

○公共交通で行きたい病院が「ある」と回答した人は25.7%、公共交通で行きたい買い物先が「ある」と回答した人は26.1%、公共交通で行きたいその他行き先が「ある」と回答した人は17.1%となっています。

【公共交通の利用の有無別「公共交通で行きたい病院・買い物先・その他行き先」】（図9-15-2～4）

○「公共交通を利用している」と回答した人のうち、公共交通で行きたい病院、買い物先、その他の行き先が「ある」と回答した人の割合は、それぞれ28.1%、30.4%、20.5%となっています。一方、「公共交通を利用していない」と回答した人のうち、公共交通で行きたい病院、買い物先、その他の行き先が「ある」と回答した人の割合は、それぞれ21.1%、20.2%、13.2%となっており、「公共交通を利用している」と回答した人に比べて低い水準となっています。

○このように、「公共交通を利用している」と回答した人ほどの割合ではないものの、「公共交通を利用していない」と回答した人の中にも、各施設への移動手段として公共交通を利用する意向を持つ人は一定程度存在しており、公共交通に対する潜在的な需要がある状況がうかがえます。

図9-15-1 公共交通で行きたい病院・買い物先・その他の行き先の有無

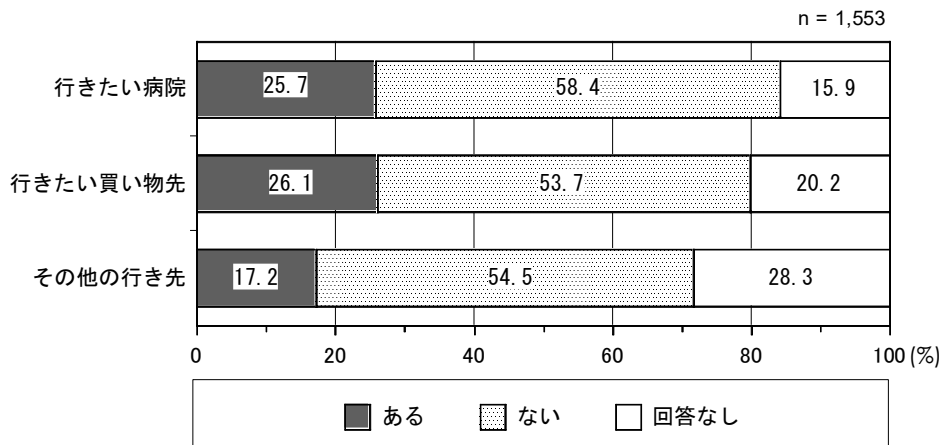


図9-15-2 公共交通の利用の有無別「公共交通で行きたい病院の有無」

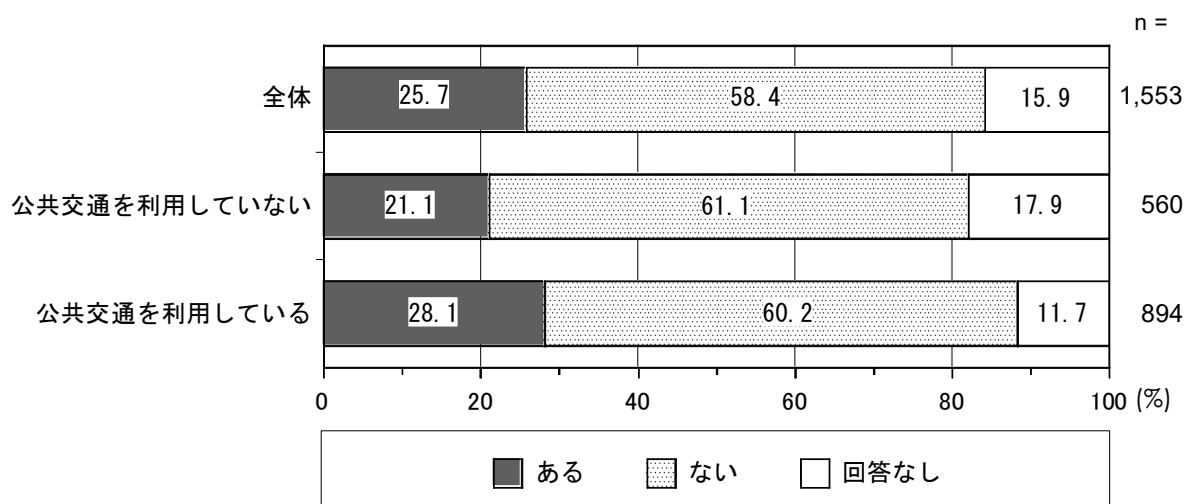


図9-15-3 公共交通の利用の有無別「公共交通で行きたい買い物先の有無」

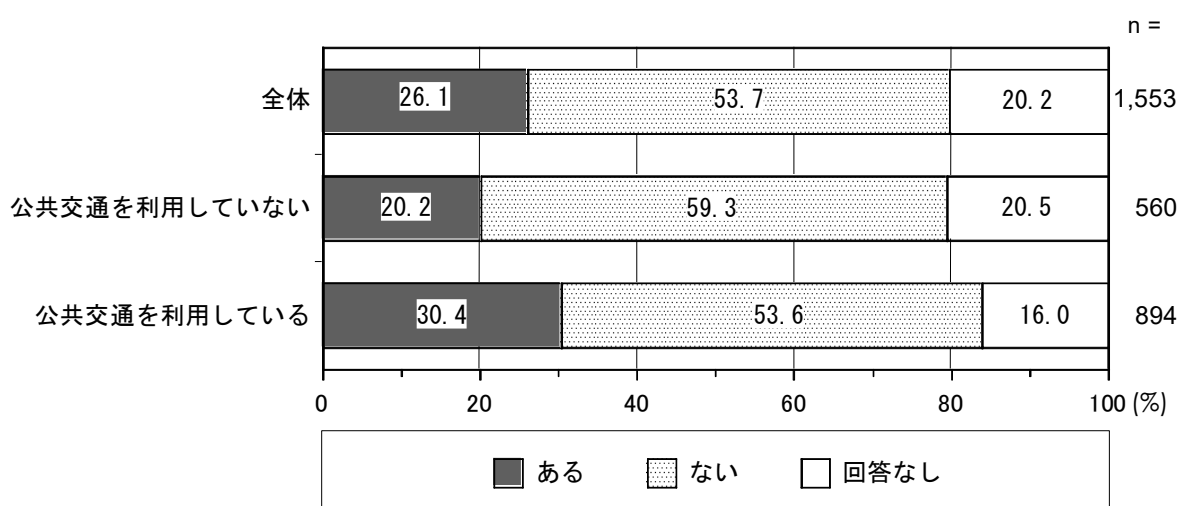


図9-15-4 公共交通の利用の有無別「公共交通で行きたいその他の行き先の有無」

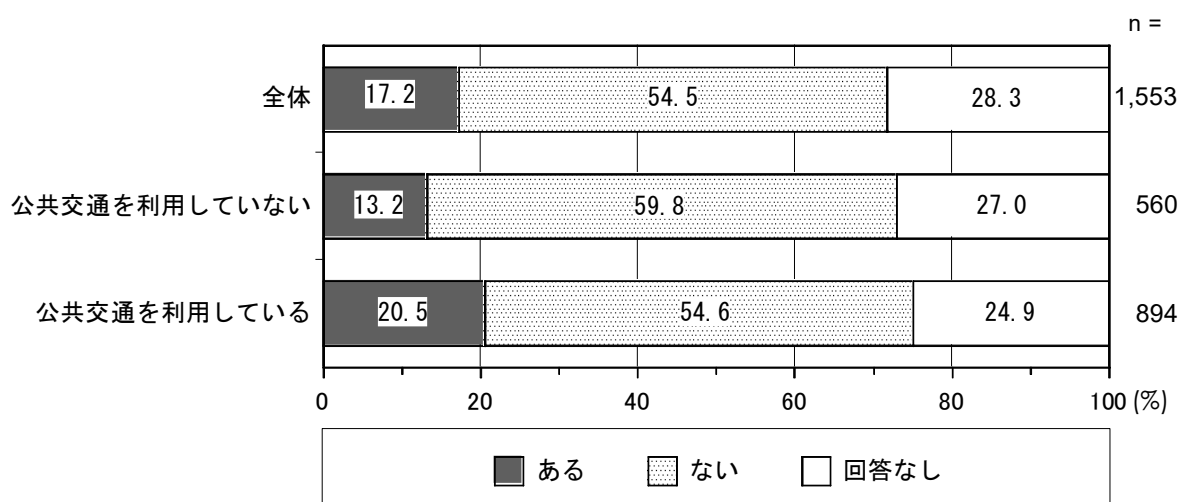


表 9-15-1 公共交通で行きたい病院名

病院の名称・地名	件数
総 計	432
江南厚生病院	215
さくら総合病院	56
小牧市民病院	37
今井医院	11
総合犬山中央病院	9
名古屋市内	7
みどりクリニック	6
名古屋駅	6
コスモス眼科	4
すずいクリニック	4
名古屋大学医学部附属病院	4
一宮西病院	3
さとし眼科クリニック	3
ひじかた整形外科	3
平成クリニック	3
布袋駅	3
伊藤整形・内科 検診センター	2
岩倉病院	2
さのクリニック	2
総合大雄会病院	2
布袋病院	2
山田外科内科	2
扶桑町の病院	2
件数 1 件の病院名・地名数	44

表 9-15-2 公共交通で行きたい買い物先名

買い物先の名称・地名	件数	買い物先の名称・地名	件数
総 計	490		
イオンモール扶桑	81	V ドラッグ	2
MEGA ドン・キホーテ UNY	58	スーパー	2
名古屋	42	デパート	2
イオン	34	ピアゴ	2
バロー	34	百貨店	2
カネスエ	33	イオンモール	2
アピタ 江南西店	29	ナフコ	2
ジェイアール名古屋タカシマヤ	18	名古屋駅周辺	2
名古屋駅	17	V タウン	2
MEGA ドン・キホーテ UNY 大口店	15	カネスエ 大口店	2
ヨシヅヤ	10	コストコ	2
mozo ワンダーシティ	9	スーパーマーケットバロー犬山楽田店	2
名古屋のデパート・百貨店	8	タチヤ扶桑店	2
イオンモール各務原	7	ビッグリブ小牧店	2
アピタ	6	ららぽーと愛知東郷	2
スーパーマーケットバロー大口店	5	三越	2
ホームセンターバロー	4	名鉄百貨店	2
松坂屋名古屋店	3	件数 1 件の買い物先の店名名・地名数	34
栄	3		
江南	3		
大須	3		

表 9-15-2 公共交通で行きたいその他行先名

その他行先の名称・地名	件数
総計	310
柏森駅	34
布袋駅	19
名古屋駅及びその周辺	18
駅	15
名古屋	11
江南駅	11
役場	11
図書館	7
小牧駅	6
イオンモール扶桑	5
MEGAドン・キホーテ UNY	4
最寄り駅	4
中部国際空港	3
県営名古屋空港	3
東京ディズニーランド	3
扶桑駅	3
小牧コロナワールド	3
旅行	3
件数 1、2 件のその他行先の名称・地名数	147

9-16 公共交通を維持すべき目的（問42）

問42 大口町の公共交通は、税金を使って支えられています。あなたは、どのような目的のために維持すべきだと思いますか。【あてはまるもの最大3つまで○印】

「高齢者や障がいのある方など移動が難しい人のため」と回答した割合が59.5%と最も高くなっています。これ筆頭に、「病院に通うため」（40.4%）、「鉄道の駅を利用するため」（35.1%）、「通学のため」（24.3%）、「買い物に行くため」（22.4%）が、公共交通を維持すべき目的の上位5項目となっています。

【全体】（図9-16-1）

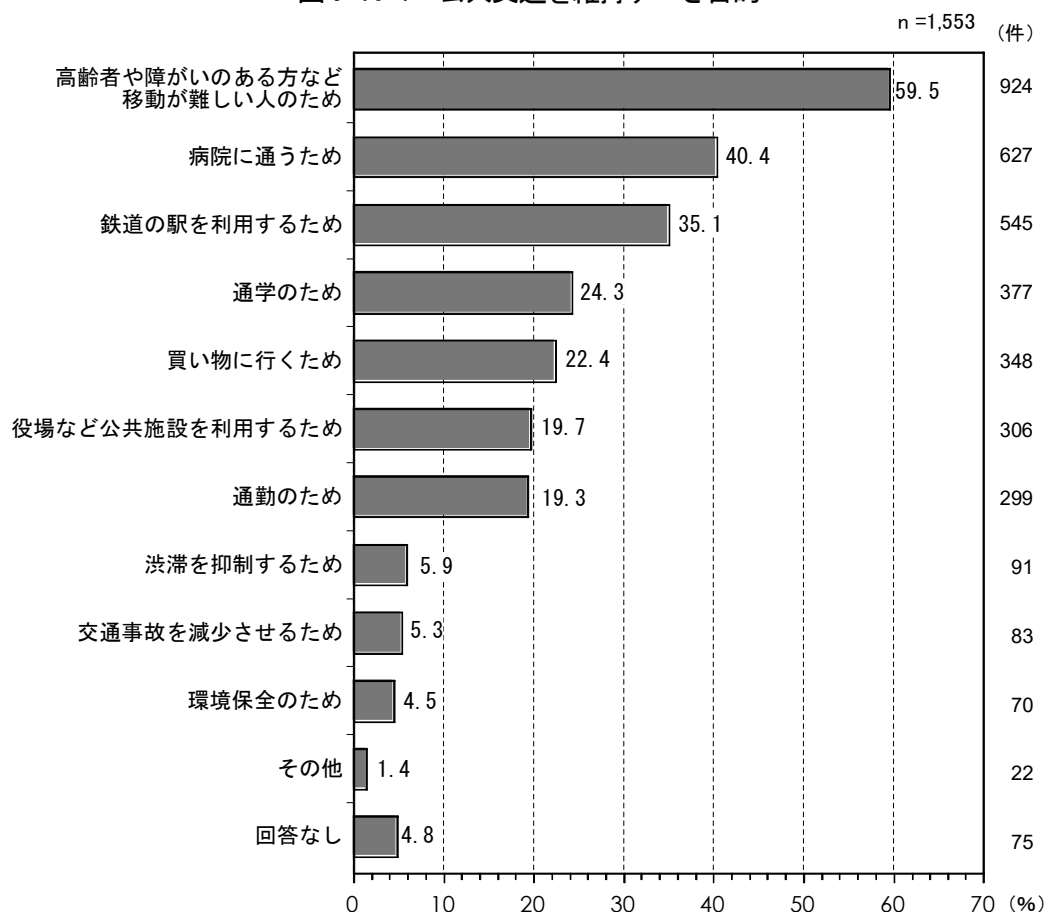
○「高齢者や障がいのある方など移動が難しい人のため」と回答した割合が59.5%と最も高く、次いで、「病院に通うため」が40.4%、「鉄道の駅を利用するため」が35.1%、「通学のため」が24.3%、「買い物に行くため」が22.4%となっています。

【年齢別】（図9-16-2）

○「高齢者や障がいのある方など移動が難しい人のため」と回答した割合は、60歳代および50歳代においてそれぞれ69.8%、66.3%と高くなっています。また、「病院に通うため」と回答した割合は、年齢層が上がるにつれて高くなる傾向が顕著にみられます。

○一方、「通勤のため」と回答した割合は、年齢層が低いほど高くなる傾向がみられます。さらに、「通学のため」についても、概ね同様の傾向がみられます。

図9-16-1 公共交通を維持すべき目的



【居住地域別】 (図 9-16-3)

○「鉄道の駅を利用するため」と回答した割合は、南地域自治組織において 40.7%と全体値と比べてやや高くなっています。また、「役場など公共施設を利用するため」と回答した割合は、中地域自治組織において 26.1%と全体値と比べてやや高くなっています。しかしながら、一般的には、居住地域による大きな差はみられません。

【同居家族別】 (図 9-16-4)

○「通学のため」と回答した割合は、乳幼児や高校生をはじめ、大学生・専門学校生以下の子どもがいる世帯において高くなっています。また、「通勤のため」と回答した割合についても、乳幼児や高校生、小学生のいる世帯において高くなっていることが特徴としてみられます。

○一方、「病院に通うため」と回答した割合は、75 歳以上の高齢者がいる世帯において、やや高くなっています。

図 9-16-2 年齢別「公共交通を維持すべき目的」

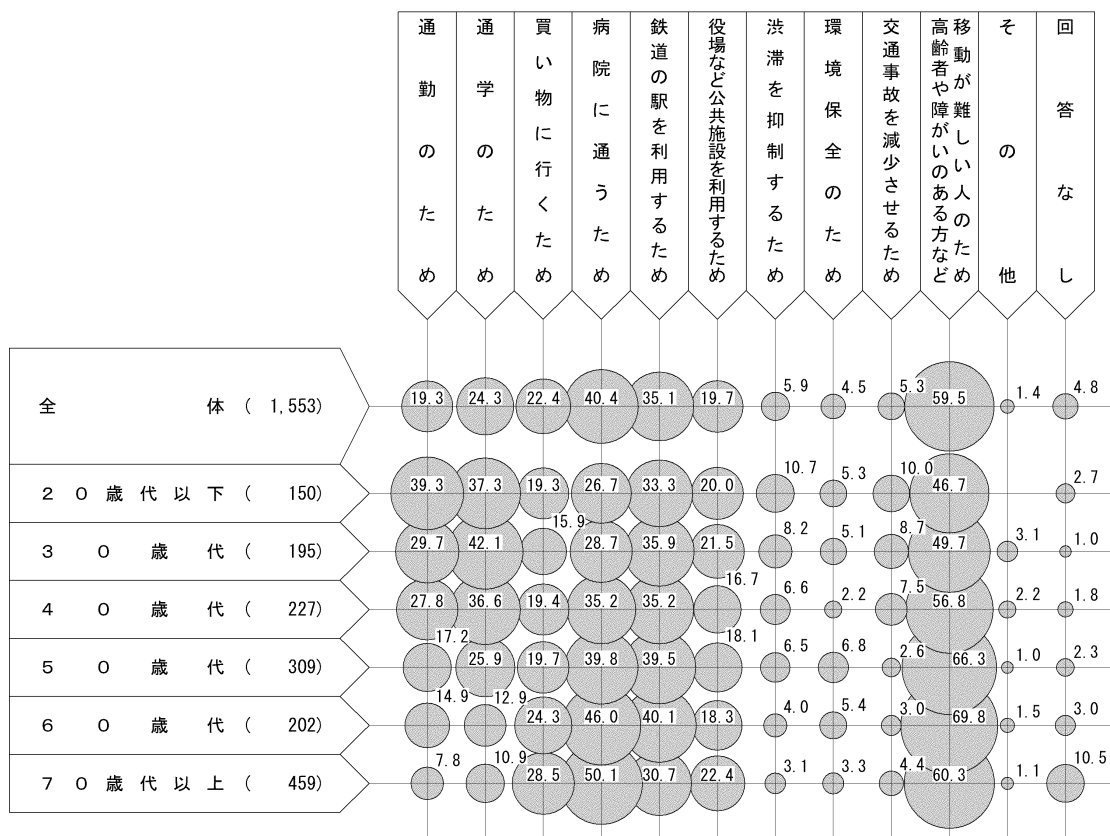


図9-16-3 居住地域別「公共交通を維持すべき目的」

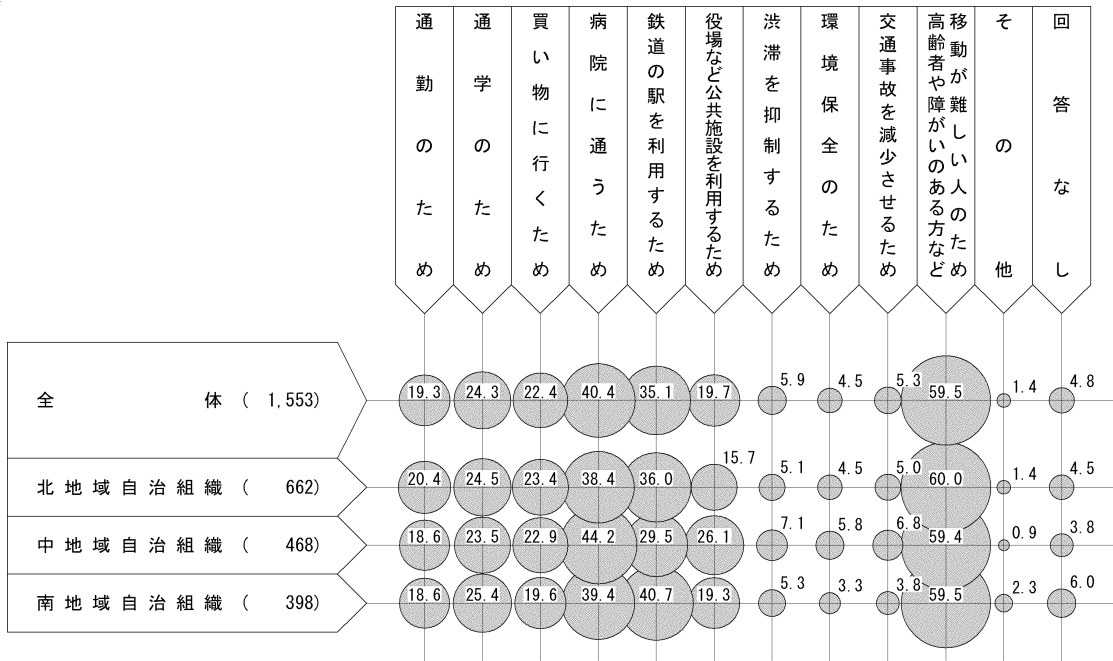
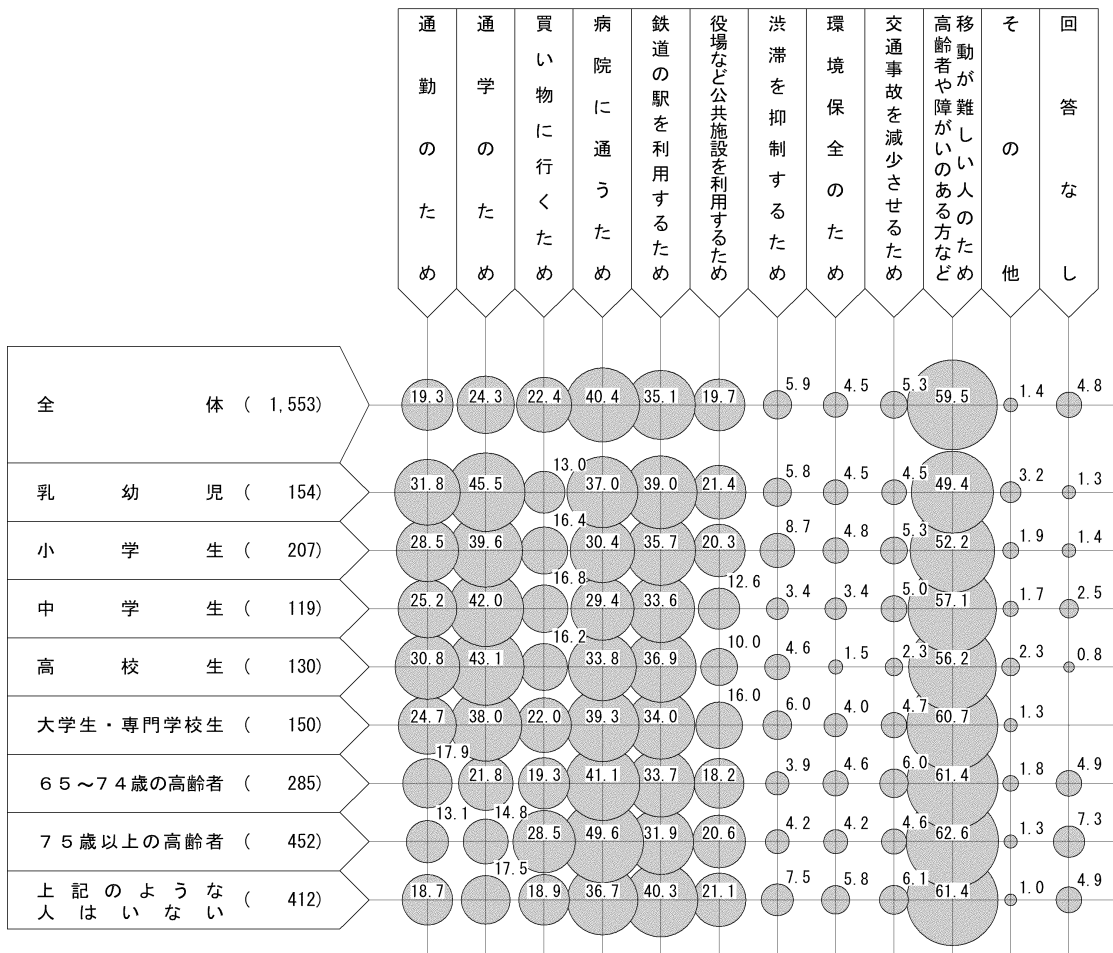


図9-16-4 同居家族別「公共交通を維持すべき目的」



9-17 自動車運転免許証の所持の有無 (問 43)

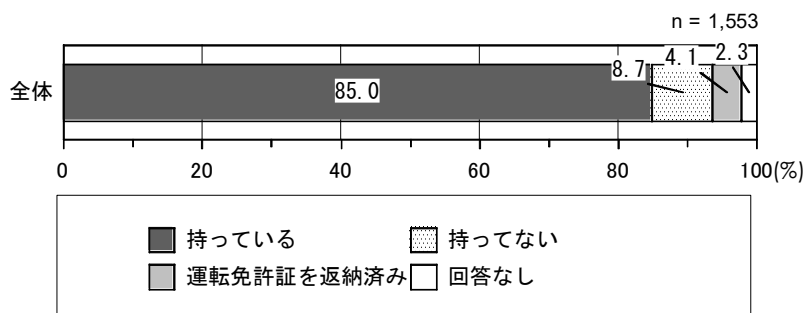
問 43 あなたは、自動車運転免許証を所持していますか。【回答数：○印を1つだけ】

運転免許証を「持っている」と回答した人は 85.0%を占めています。

【全体】 (図 9-17-1)

○運転免許証を「持っている」と回答した人は 85.0%と大半を占めています。一方、「持っていない」と回答した人は 8.7%、「運転免許証を返納済み」と回答した人は 2.3%となっています。

図 9-17-1 自動車運転免許証の所持の有無



9-18 車の所有の有無 (問 44)

問 44 問 43 で「1. 持っている」を選んだ方にお聞きします。あなたは、車を所有していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

車を所有しているという人は、いずれの年齢層においても 9 割を超えています。また、75 歳以上の後期高齢者においても、「車はあるが運転していない」と回答した割合は 1.8%と低い水準となっています。

【全体】 (図 9-18-1)

○問 43 において、運転免許証を「持っている」と回答した 1,320 人を対象に、車の所有状況を尋ねたところ、「自分が自由に使える車がある」と回答した割合が 79.5%と最も高くなっています。次いで、「家族と一緒に使っている車がある」が 16.4%となっています。

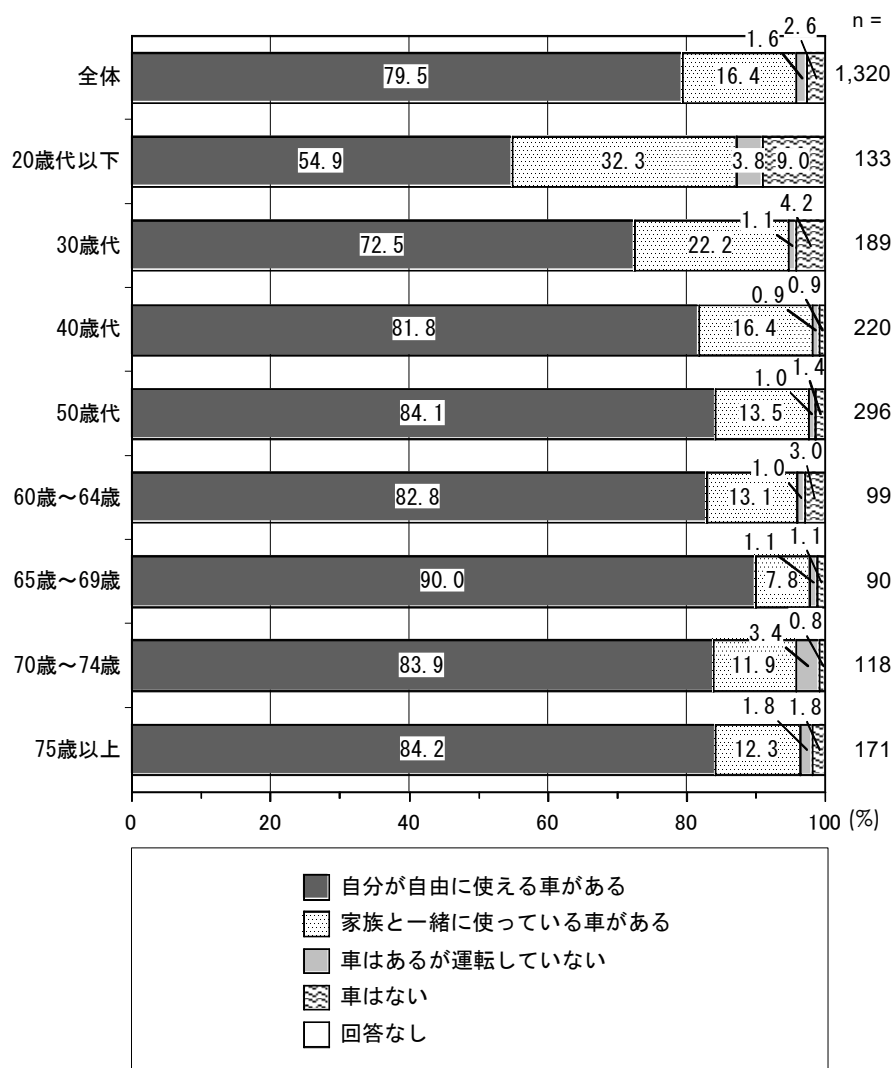
○一方、「車はない」と回答した人は 2.6%と少なく、「車はあるが運転していない」と回答した人も 1.6%となっています。

【年齢別】 (図 9-18-1)

○いずれの年齢層においても、車を所有していると回答した割合は 9 割を超えています。また、「自分が自由に使える車がある」と回答した割合は、30 歳代以上の年齢層では 8 割を超えています。

○さらに、運転免許証更新時に認知機能検査が必須となる 75 歳以上の後期高齢者においても、「車はあるが運転していない」と回答した割合は 1.8%と低くなっています。一方、「自分が自由に使える車がある」と回答した割合は 84.2%、「家族と一緒に使っている車がある」と回答した割合は 12.3%となっており、これらを合わせると 96.5%と非常に高い水準となっています。

図9-18-1 年齢別「車の所有の有無」



9-19 運転を続けたい年齢（問45）

問45 問44で1.または2.を選んだ方にお聞きします。

あなたは、何歳まで運転を続けたいと思いますか。【回答数：○印を1つだけ】

運転免許証更新時に高齢者講習に加えて認知機能検査が必須となる75歳以上の年齢層においても、「できればすぐにやめたい」と回答した割合は6.7%にとどまっており、運転の継続を希望する人が多数を占めています。

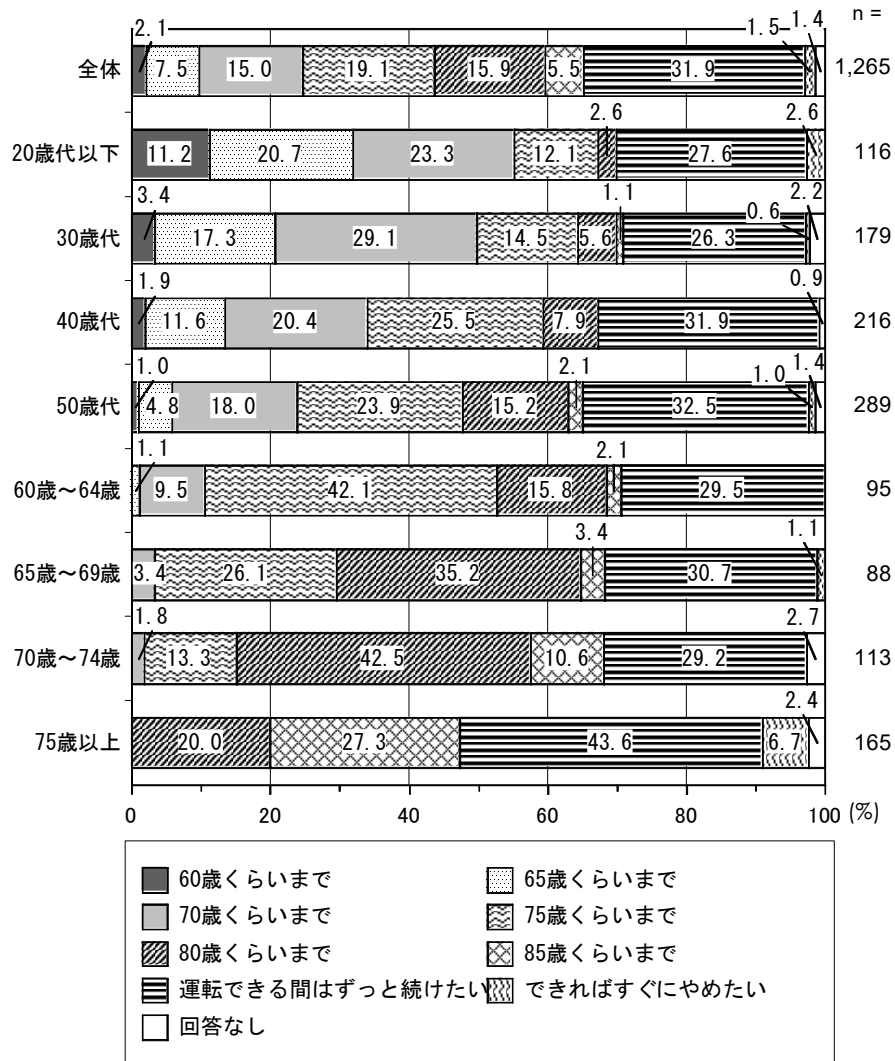
【全体】（図9-19-1）

- 問44において、「自分が自由に使える車がある」または「家族と一緒に使っている車がある」と回答した1,265人を対象に、何歳まで運転を続けたいと思うかを尋ねたところ、「運転できる間はずっと続けたい」と回答した割合が31.9%と最も高くなっています。次いで、「75歳くらいまで」が19.1%、「80歳くらいまで」が15.9%となっています。
- 一方、「60歳くらいまで」および「65歳くらいまで」と回答した割合は、それぞれ2.1%、7.5%と低くなっており、多くの人が高齢期においても運転を続けたいとの意向を示しています。

【年齢別】（図9-19-1）

- 70歳になると運転免許証更新時に高齢者講習の受講が必須となりますが、当該年齢層である70歳～74歳においても、「できればすぐにやめたい」と回答した人はいませんでした。また、「70歳くらいまで」と回答した割合も1.8%と低く、運転を継続したい意向を示す人が多くを占めています。
- さらに、運転免許証更新時に高齢者講習に加えて認知機能検査が必須となる75歳以上の年齢層においても、「できればすぐにやめたい」と回答した割合は6.7%にとどまっています。一方、「運転できる間はずっと続けたい」と回答した割合は43.6%を占めており、75歳以上においても運転を継続したいという意向を示す人が多数を占めています。

図 9-19-1 年齢別「運転を続けたい年齢」



9-20 運転免許証の自主返納の考えの有無（問46）

問46 問43で「1.持っている」を選んだ方にお聞きします。

あなたは、将来、運転免許証の自主返納を考えていますか。【回答数：○印を1つだけ】

運転免許証更新時に高齢者講習の受講や認知機能検査が必須となる年齢層であっても、運転免許証の自主返納を「考えている」と回答した人の割合は、半数に満たない状況となっています。

【全体】（図9-20-1）

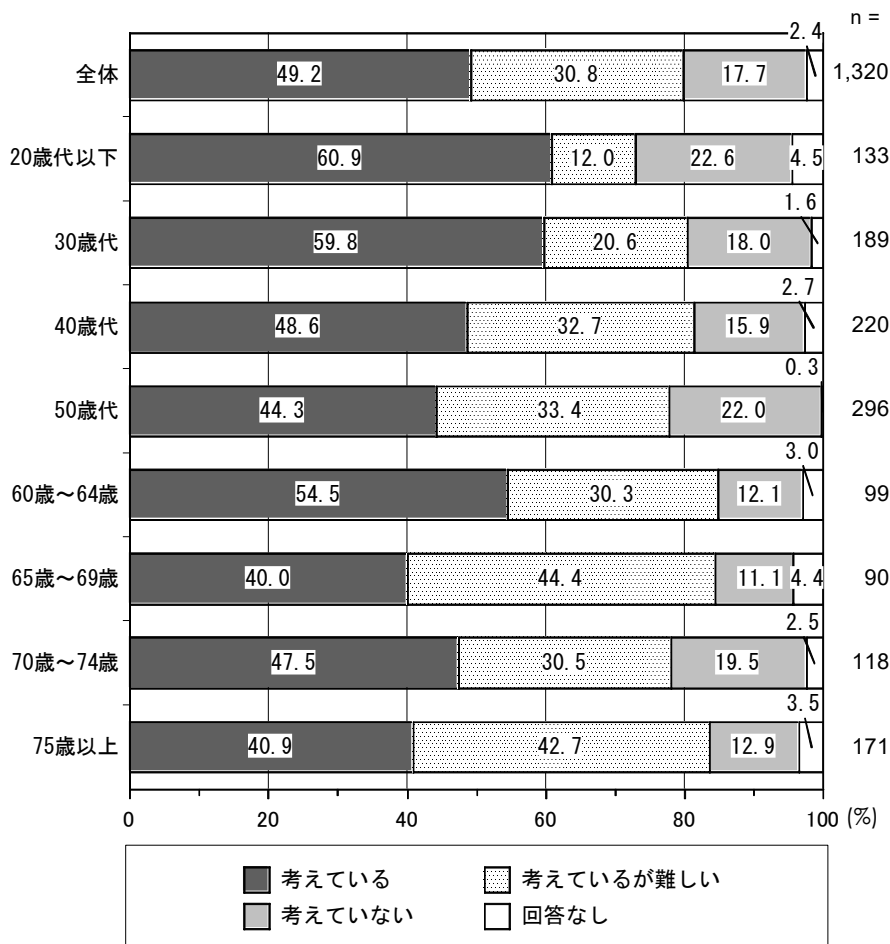
○問43において、運転免許証を「持っている」と回答した1,320人を対象に、将来的な運転免許証の自主返納に関する考えの有無を尋ねたところ、「考えている」と回答した人が49.2%と最も高い割合を占めています。

○一方、「考えていない」と回答した人は17.7%、「考えているが難しい」と回答した人は30.8%となっており、これらを合わせた48.5%は、「考えている」と回答した割合とほぼ同程度となっています。

【年齢別】（図9-20-1）

○運転免許証更新時に高齢者講習の受講や認知機能検査が必須となる年齢層である70歳～74歳および75歳以上においても、運転免許証の自主返納を「考えている」と回答した割合は、それぞれ47.5%、40.9%となっています。これらの割合はいずれも、「考えていない」と回答した割合と「考えているが難しい」と回答した割合を合わせた割合を下回っています。

図9-20-1 年齢別「運転免許証の自主返納の考えの有無」



9-21 運転免許証を自主返納ができない・しない理由（問47）

問47 問46で2.または3.を選んだ方にお聞きします。

自主返納ができない・しない理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○印】

70歳～74歳および75歳以上のどちらの年齢層においても、他の年齢層と比べて、「車がないと日常生活に支障があるため」や「他の移動手段では目的地まで時間がかかるため」と回答した割合が高くなっています。

【全体】（図9-21-1）

○問46において、運転免許証の自主返納を「考えているが難しい」または「考えていない」と回答した639人を対象に、自主返納ができない・しない理由を尋ねたところ、「車がないと日常生活に支障があるため」と回答した割合が71.1%と最も高くなっています。次いで、「まだ自主返納を考えるような年齢ではないため」が39.3%、「他の移動手段では目的地まで時間がかかるため」が25.2%、「鉄道やタクシーなど、他の交通手段の料金が高いため」が14.2%となっています。

【年齢別】（図9-21-2）

○運転免許証更新時に高齢者講習の受講や認知機能検査が必須となる年齢層である70歳～74歳および75歳以上に着目すると、いずれの年齢層においても、「車がないと日常生活に支障があるため」と回答した割合が最も高く、それぞれ79.7%、86.3%となっています。次いで割合の高い理由はいずれも「他の移動手段では目的地まで時間がかかるため」であり、70歳～74歳では44.1%、75歳以上では37.9%となっています。

○一方、3番目に割合の高い理由については、70歳～74歳と75歳以上の年齢層で異なります。70歳～74歳では、「まだ自主返納を考えるような年齢ではないため」が30.5%となっているのに対し、75歳以上では「鉄道やタクシーなど、他の交通手段の料金が高いため」が17.9%となっています。

図9-21-1 運転免許証を自主返納ができない・しない理由

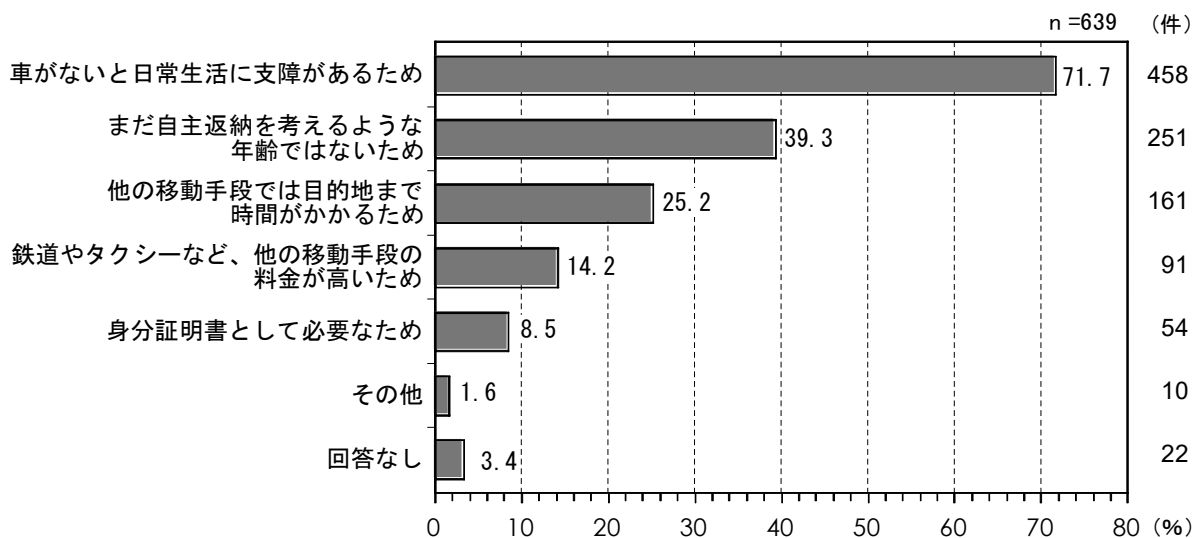
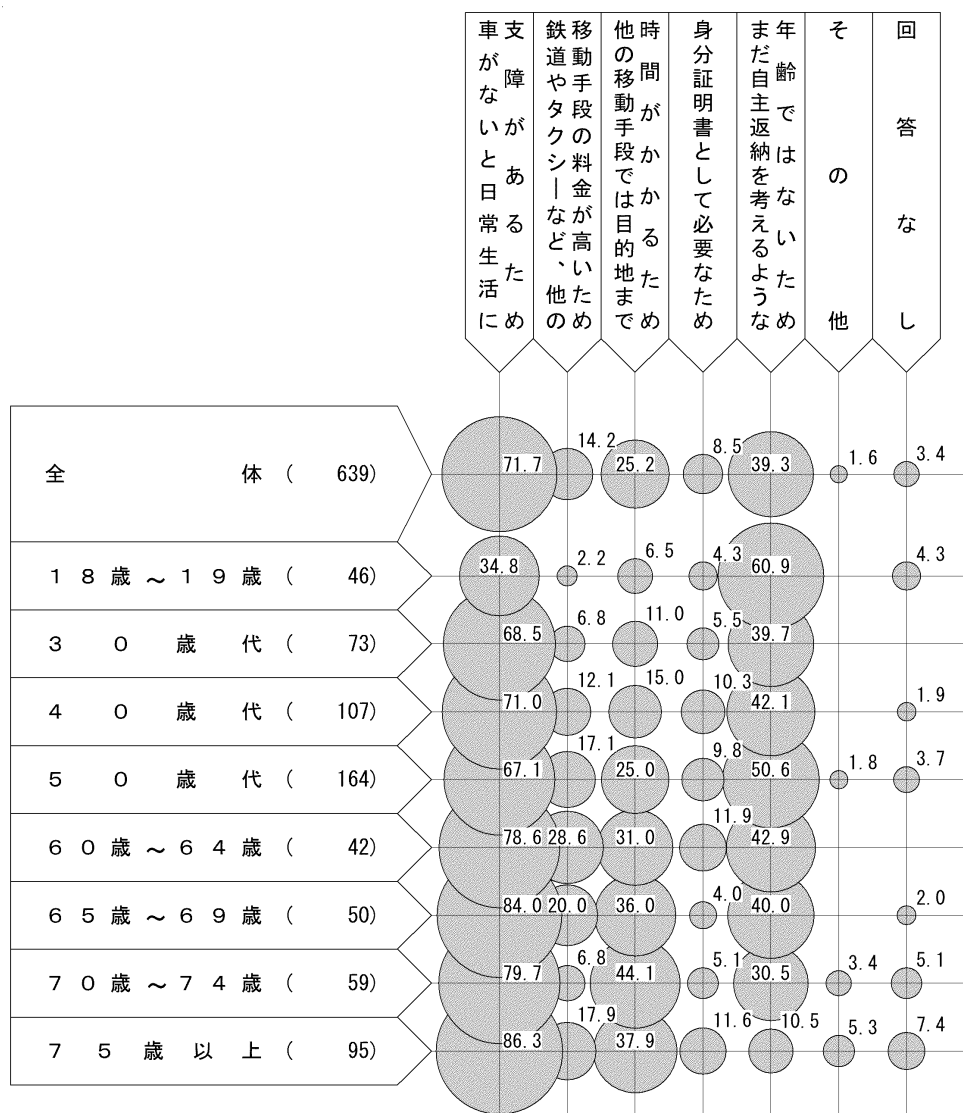


図9-21-2 年齢別「運転免許証を自主返納ができない・しない理由」



資料編

自由意見の回答結果

すごい勢いで高齢化が進んでいるため、買物難民にならないように、日用品や食品等の買物ができる移動車があるといいと思う。病院への通院の無料車またはタクシーより安い乗り物もあるといい。また、寝たきりにならないよう、近くで体操などができるといいと思う。	女性・75歳以上・秋田
将来運転免許証の自主返納をした時、買い物や病院など、その後の生活に不安がある。	男性・75歳以上・河北
自分が年老いた時、歩いて行ける場所に医者がいない。	女性・65歳～69歳代・不明
免許返納したら車で出られなくなるため、自分の健康が心配。早く返納したいと思っはいる。	女性・75歳以上・さつきヶ丘
高齢者が多いのにバスが少なすぎるし、遠くまで掃除に行かせるのはなぜ。住みやすいまちとは言えない。	女性・50歳代・秋田
大口町には子どものころから住んでいるため学校や役場などに愛着がある。自分は健康面で不安があるためなかなかボランティアなどには参加できていないが、他県には私の実家の母（91歳）がいつも利用させてもらっている100円タクシーという仕組みがあるようである。100円で予約すると、近所の病院やスーパー・ATMなどに乗せてもらえるらしく、大変ありがたく利用しているようである。大口町も高齢化が進んでいるが、まだまだ元気なシニアの方も多く見かける。そういう人が安全運転でお年寄りなどを運んでいただけるようなシステムがあったら少し思う。	女性・60歳～64歳代・余野
76歳の妻は大口町のオカリナグループに入って、ボランティアで近郊の町を回っていたが、この8月でグループ解散とのこと。少々寂しい。グループの皆様が高年齢になったので。今は夫婦共々運転免許があるが、今後年を取り運転できなければ、病院や買い物も少々心配である。	男性・75歳以上・余野
高齢者の交通手段を充実させてほしい。タクシーチケットなど。	女性・60歳～64歳代・中小口
巡回バスの回数を増やしてほしい。	女性・75歳以上・外坪
コミュニティバスの運行時間をもう少し長くしてほしい。	女性・70歳～74歳代・余野
コミュニティバスを増やしてほしい。	男性・70歳～74歳代・大屋敷
高齢者が免許返納した場合、タクシーかコミュニティバスを利用することになるが、タクシーは台数が少なくなかなか来ない。バスは本数が少ない。コミュニティバスは税金で本数を増やし、利用者も負担を今まで通り支払ってもいいと思うため、もっと利用できるようにしてほしい。	女性・70歳～74歳代・余野
コミュニティバスの本数を増やしてほしい。いろんな企画に参加したいが足がないためもっと運行の充実！企画にあった移動の手段。	男性・75歳以上・垣田
柏森駅に行くのに交通機関がなく、車で行っても駐車場がなく困っている。町営の駐車場設備を希望する。	女性・75歳以上・余野
タクシーを利用することがあるが、近い行き先などは断られたり、運転手の態度が悪くなる時がある。町営で代金は問わないので、高齢者身体障害者の病院、買い物など、江南地区、扶桑地区くらいまで運行できる企画をお願いしたい。	女性・75歳以上・余野
道路拡張などの生活インフラは概ね整備されてきたと思うので、今後は住民、特に高齢者などの移動困難者が各施設や買い物、通院にできるだけ不便を感じずに済むよう、交通ネットワークの充実、拡	女性・50歳代・中小口

充を続けていただきたい。私は現役世代だが、足を悪くしているため、自転車は使えず、コミュニティバスなどの移動手段は必須。家族の送り迎えに頼らなくても自分で移動できる機会が多くなるように望む。	
コミュニティバス河北～例えば役場だったら何時頃着くか、江南駅へはと具体的に知りたい。	女性・75歳以上・河北
コミュニティバスは利用者の都合時間を検討して、朝や16:30あたりにも乗れると助かる。例えば健康センターが14:10のみのため、バローで買い物をして1時間でバタバタしていたが、16:00発の帰り便をみつけて30分伸ばせた。名古屋に出て、柏森駅発健康センター行きは、15:19発の次が18:00の夕食時間で使えないため、16:30なら助かる。	女性・75歳以上・下小口
丹羽高とのバスの運用を増やしてほしい。江南南高校や備北は駅近のため人気で、大中生、扶桑中生はそちらへ行ってしまう。	女性・40歳代・下小口
朝7時、9時台前半の外坪から柏森駅へのバスを増やしてほしい。	女性・50歳代・外坪
巡回バスの不便さ。本数が少ない。企業の通勤バスを社員が利用していない時間帯の朝夕以外の活用。自動車学校も含む。	男性・50歳代・河北
コミュニティバスの時間を少し増やして。	女性・75歳以上・大屋敷
高齢者家庭である。コミュニティバスを1日1回でいいから走らせていただきたい。	女性・75歳以上・上小口
今は免許ありで自家用車だが、10年前後の間には返納するかもしれないため、厚生病院へ乗り入れなどができるコミュニティバスを充実してほしい	女性・70歳～74歳代・下小口
大口町バスの時刻をもっと見直してほしい。ダイヤを考えている人はお役所仕事とってしまう。やる気を感じない。料金が安いのは助かる。	男性・50歳代・余野
公共のバス、回数が少ないので、なかなか出かけにくい。もっと多く出してほしい。免許返納ができない。バスの回数を増やしてほしい。高齢者はみんなそれを言っている。タクシー券も全員ではなく、一部の人しか配らない。それは皆同じだから考えてほしい。	女性・75歳以上・さつきヶ丘
今は車を使用しているけれど、いずれは免許を返さなければならぬし、今後バスを利用するかもしれないため、大型バスでなくてもいいからバスの本数を増やしてほしい。	女性・70歳～74歳代・不明
コミュニティバスでは、高齢者の利用が多い中、運転手のモラルが低い。安全運転をすればいいというわけではない。挨拶すら返さない。乗降の手助けを鉄道のようにするべき。	女性・50歳代・上小口
大口町もこれから高齢者も増えて、今まで車に乗っていた方も免許証を返納するようになり、外出することがとても不便になるかと思う。そこでこんな家庭的なふれ合い車があったらと思う。町内をこまめに回っていただき、目的地、スーパー、病院、図書館などの前で乗り降りできるような小型車があれば、足腰の悪い高齢者には便利でとても助かると思う。今も巡回バスがあるがバス停に行くまでが大変であるし、日中は大きなバスもほとんど空車で走っているのを見かけ、もったいないなどと思った。	女性・不明・秋田
コミュニティバスで時々乗客が乗っていない時でも走っている時を見かける。もったいないと思う。	女性・65歳～69歳代・下小口
タクシー券をまたもらえたら嬉しい。コミュニティバスまで行くのが遠いから。	女性・75歳以上・下小口
自分が年老いた時、コミュニティバスが家の近所を走っていないため、買い物に行くのが困る。	女性・65歳～69歳代・不明
巡回バスを各時間に切れ目なく走らせていただきたい。	男性・75歳以上・余野

駅から遠いほど、コミュニティバスの本数が充実していない。本数増よりも、予約できるシステムがいいのでは。	女性・50歳代・河北
買い物がとても不便で自転車での移動はとても大変。トラックも多く、道も狭い。車を使わざるを得ない。コミュニティバスも行きは乗れても帰りがないことがあるので、自転車や車に乗ってしまう。	女性・40歳代・豊田
コミュニティバスの本数を増やしてほしい。電車が遅れた時、バスが行ってしまっ歩いて帰ることになるので、名鉄の情報も取り入れつつ、5分程度の遅れなら出発を待ってほしい。	女性・40歳代・中小口
生活しやすい環境が整えば免許証の自主返納も進むので、コミュニティバス時刻を高齢者が利用しやすい日中などの時間にする。	女性・60歳～64歳代・余野
公共交通機関の拡充。横断歩道の増設。車のいらぬまち化。	男性・20歳代・中小口
コミュニティバスを利用した時に、バス車内が臭くて乗車中はずっと不快だった。バスの本数も少なくて利用しづらい。移動手段の拡充をお願いしたい。	女性・30歳代・下小口
柏森駅からのコミュニティバスを最終便として22時くらいに出してほしい。	女性・40歳代・中小口
バスの本数があまりないので、高齢者になり、車の運転ができなくなった時に、不便になりそうだなと感じている。	女性・30歳代・余野
朝は駅まで行くコミュニティバスがあるけれど、夕方に駅出発の各地域のコミュニティバスがあると助かる。	女性・40歳代・河北
コミュニティバスは扶桑町のちよいソコバスを大口町も導入してほしい。現行のバスでは必要な時間に乗ることがほぼできない。バスに乗っている人もほとんど見られない。少し費用がかかっても利便性を高めてほしい。	女性・30歳代・余野
コミュニティバスの運行利便性を向上させてほしい。地域の交通利便性を高めることは、住みやすさの向上につながる。	女性・50歳代・秋田
まちづくりには公共交通は欠かせない。交通権重視。車ありきを思考転換。コミュニティバス運賃改定。現行の100円を200円や300円にして一日乗り放題にする。	男性・65歳～69歳代・下小口
必要な人が利用しやすい公共交通。	男性・50歳代・秋田
コミュニティバスの停留所でどのコースも直行で駅、さくら病院、役場に行けるようにコースを変えてほしい。	女性・50歳代・さつきヶ丘
バスの本数など、駅へのアクセス手段がもう少しあると良い。	男性・20歳代・豊田
高齢者が増えていく中コミュニティバスの停留所の拡充は必要かなと思う。	男性・50歳代・下小口
コミュニティバスについて、昨今のガソリン代高騰に伴い、朝夕の時間帯は倍の金額でも良いと思う。昼間は町民個人利用が多いためそのままが望ましい。	男性・30歳代・豊田
駅に向かう主要な歩道に日陰ができるような整備をしていただけると助かる。	男性・50歳代・余野
駅までが遠いのに、巡回バスの本数も限られており、車に乗れない高校生や高齢者の方の交通手段が乏しい。公共交通機関の充実を進めてほしい。	男性・40歳代・外坪
税金の無駄遣いはしてほしくない。私たちの収める税金を有効活用してほしい。例えば、巡回バスは有効だろうか？無駄はないのか。必要な人に必要な時利用できる手立てはないのか。空気を乗せている状態で果たして有効と言えるのか再考してほしい。	女性・50歳代・中小口
自分の体が不自由、高齢になった時に住みやすいまちかと聞かれればNOと言ってしまおうと思う。最寄り駅が徒歩30分以上、バスは1時間に数回では、健康体でなければ健康寿命を全うできない。今は住みやすいと思っても…というのが本音。小規模ながらまちぐる	女性・50歳代・秋田

<p>みでの活動や支援は子育て世代には温かいと思う。少子化と高齢化社会を支えるために大口町でどんな取り組みをすべきか、50代世代第2次ベビーブーム世代の役割は大きいと思う。また、元気な高齢者、まだまだ動ける元気をまちの活力へ繋げれば、大口町は生き残っていけると思う。</p>	
---	--

アンケート調査票

第8次大口町総合計画策定のためのアンケート調査

◆ ご協力をお願い ◆

日ごろから、町行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、大口町では、平成27年度末に第7次総合計画（計画期間：平成28年度から令和8年度まで）を策定し、基本理念である「みんなで進める自立と共助のまちづくり」の下、本町の礎を築いた先人への感謝の気持ちを大切にするとともに、100年後も誰もが安心して暮らせる“まち”の実現を目指して、まちづくりを進めてきました。

そして今般、第7次総合計画の期間が令和8年度末に終期を迎えることから、これまで進めてきた施策・事業を評価し、次期第8次総合計画の策定に着手していきたくと考えています。

そこで、町民の皆様にご生活環境等の現状や将来のまちづくりの方向性等についてご意見をお聞きし、次期総合計画を策定していく上での基礎資料とすべくアンケート調査を実施させていただきたいと存じます。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではありますが、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本アンケート調査は、大口町にお住いの18歳以上の方の中から、3,000人の方を無作為に選ばせていただき実施いたします。ご回答いただいた内容は、全て統計的に処理し調査目的以外に使用することはありません。

令和7年8月

大口町長 鈴木 雅博

回答期限:令和7年8月18日(月)

【回答方法】

- 回答期限までに、①又は②のどちらかの方法でご回答ください。

①Webページから入力

右の二次元コードまたは下記URLからWebページにアクセスし、ご回答ください。

<https://forms.office.com/r/AGDP28zy44>

Webでご回答いただいた方は、本調査票の郵送は不要です。

(Webシステムの管理は、一般社団法人地域問題研究所に委託しています。)

②調査票に記入

調査票に回答を直接記入し、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。



【ご回答にあたって】

- 回答は、封筒あて名のご本人にお願いします。ただし、ご本人が何らかの事情で答えられない場合は、ご家族等と相談の上、お答えいただくか、下記担当までご相談下さい。

〈このアンケートに関する問い合わせ先〉

大口町総務部企画政策課 担当（江口）

電話：0587-95-1617（直通） Fax：0587-95-1030 E-mail：seisaku@town.oguchi.lg.jp

1. あなた自身や家族のことについて

問1 あなたの性別はどちらですか【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問2 あなたの年齢はいくつですか【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|------------|---------|------------|------------|----------|
| 1. 18歳～19歳 | 3. 30歳代 | 5. 50歳代 | 7. 65歳～69歳 | 9. 75歳以上 |
| 2. 20歳代 | 4. 40歳代 | 6. 60歳～64歳 | 8. 70歳～74歳 | |

問3 あなたは、どの地区（行政区）にお住まいですか。【回答数：○印を1つだけ】

※行政区がわからない場合は、12.（ ）内に大字・町丁目をご記入ください。

- | | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|-----------|
| 1. 秋田 | 3. 大屋敷 | 5. 河北 | 7. 上小口 | 9. 下小口 | 11. さつきヶ丘 |
| 2. 豊田 | 4. 外坪 | 6. 余野 | 8. 中小口 | 10. 垣田 | 12.（ ） |

問4 あなたの職業は次のうちどれですか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 農業従事者 | 6. パート・アルバイト、フリーター |
| 2. 自営業・自由業 | 7. 家事従事・無職 |
| 3. 会社員・店員等 | 8. 学生 |
| 4. 公務員・団体職員 | 9. その他 |
| 5. 会社・団体の役員 | |

問5 あなたの世帯のタイプは次のどれに属しますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 単身世帯 |
| 2. 夫婦のみの世帯 |
| 3. 1世代世帯（夫婦のみの世帯を除く。例：兄弟のみ・姉妹のみの世帯など） |
| 4. 2世代同居世帯（親と子どもの世帯） |
| 5. 3世代同居世帯 |
| 6. 4世代以上同居世帯 |
| 7. その他（ ） |

問6 あなたの同居家族の中には、次のいずれかにあてはまる方はいますか。あなたご自身も含めてご回答ください。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 乳児（1歳未満） | 6. 大学（院）生・専門学校生 |
| 2. 幼児（1歳から小学校入学前まで） | 7. 65～74歳の方 |
| 3. 小学生 | 8. 75歳以上の方 |
| 4. 中学生 | 9. 1～8にあてはまる人はいない |
| 5. 高校生 | |

問7 あなたは大口町に住んで何年くらい経ちますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|-------------|---------------|---------------|
| 1. 3年未満 | 3. 5年以上10年未満 | 5. 20年以上30年未満 |
| 2. 3年以上5年未満 | 4. 10年以上20年未満 | 6. 30年以上 |

問8 あなたは大口町での居住歴は、次のうちどれがあてはまりますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 大口町内の生まれで、ずっと町内に住んでいる
2. 大口町内の生まれで、愛知県内の他市町村に住んだ後、町内に戻ってきた（進学を含む）
3. 大口町内の生まれで、愛知県外に住んだ後、町内に戻ってきた（進学を含む）
4. 愛知県内の他の市町村の生まれである
5. 愛知県外の生まれである（海外も含む）
6. その他（_____）

問9 問8で2.～6.のいずれかを選んだ方にお聞きします。大口町に転入してきた主な理由についてお答えください。【回答数：○印を1つだけ】

1. 卒業・進学・就職をきっかけに転入してきた
2. 転勤や転職（家族の転職・転勤を含む）・起業をきっかけに転入してきた
3. 勤め先等を変ったわけではないが、新しい住居や環境を求めて転入してきた
4. 結婚や離婚をきっかけに転入してきた
5. 親の介護など、家族・親族の世話をするために転入してきた
6. その他（_____）

2. 大口町の魅力や町政等の満足度・重要度、住みやすさ等について

問10 大口町のまちの魅力について、おたずねします。

【魅力がある点と魅力がない点それぞれについて、あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。】

区 分	魅力がある点 (あてはまる番号全てに○印)		魅力がない点 (あてはまる番号全てに○印)	
健康 福祉	1.	医療施設が充実している	1.	医療施設が充実していない
	2.	高齢福祉サービスが充実している	2.	高齢福祉サービスが充実していない
	3.	子育て支援サービスが充実している	3.	子育て支援サービスが充実していない
	4.	障がい者の福祉サービスが充実している	4.	障がい者の福祉サービスが充実していない
環境 防災防犯 交通安全	5.	自然や農地などの自然環境が豊か	5.	自然や農地などの自然環境が乏しい
	6.	防災対策がいきとどいている	6.	防災対策がいきとどいていない
	7.	防犯面において安心できる	7.	防犯面における不安が多い
	8.	交通事故などの危険性が少ない	8.	交通事故などの危険性が多い
生涯学習 教育	9.	文化・学習施設が充実している	9.	文化・学習施設が充実していない
	10.	町民の文化・芸術活動が盛んである	10.	町民の文化・芸術活動が盛んでない
	11.	文化財など歴史的遺産に恵まれている	11.	文化財など歴史的遺産に恵まれていない
	12.	スポーツ活動が盛んである	12.	スポーツ活動が盛んではない
	13.	スポーツ施設が充実している	13.	スポーツ施設が充実していない
都市基盤	14.	交通の便が良く、通勤・通学に便利である	14.	交通の便が悪く、通勤・通学に不便である
	15.	道路の整備状況が良い	15.	道路の整備状況が悪い
	16.	良好な住宅地が形成されている	16.	良好な住宅地が形成されていない
	17.	まちに活気がある	17.	まちに活気がない
	18.	公園や広場が充実している	18.	公園や広場が足りない
	19.	日常の買物が便利である	19.	日常の買物が不便である
	20.	農地と住宅と工場等がうまく調和し、田園環境に恵まれている	20.	農地と住宅地と工場等が混在し、まとまりがない
産業	21.	優良農地が多い	21.	優良農地が少ない
	22.	働く場所が多い	22.	働く場所が少ない
	23.	さくらまつりやふれあいまつりなど、町内のイベントが活発に行われている	23.	町内のイベントが活発に行われていない
協働	24.	NPO活動や地域活動などの町民活動が盛んである	24.	NPO活動や地域活動などの町民活動が盛んではない
	25.	人々が親切で人間味がある	25.	人々が不親切で人間味がない
	26.	人間関係が良い	26.	人間関係が良くない
その他	27.	その他 ()	27.	その他 ()

問11 町で行う様々な地域づくりや施策・事業の現状について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。次の(1)～(37)の各項目について「満足度」「重要度」ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

【回答数：○印を「満足度」「重要度」ごとにそれぞれ1つつつ】

これからの地域づくりの中でどのくらい大切ですか？

★記入例★

この設問については、以下のように回答してください。

項目	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	非常に重要	重要	あまり重要でない	重要でない
(1) 家庭教育指導などの青少年の健全育成	1	②	3	4	1	②	3	4
(2) 学校と地域や家庭との連携	1	2	③	4	①	2	3	4
(3) 生涯学習講座のメニューや数	①	2	3	4	1	②	3	4

回答欄

項目	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	非常に重要	重要	あまり重要でない	重要でない
(1) 家庭教育指導などの青少年の健全育成	1	2	3	4	1	2	3	4
(2) 学校と地域や家庭との連携	1	2	3	4	1	2	3	4
(3) 生涯学習講座のメニューや数	1	2	3	4	1	2	3	4
(4) スポーツ活動、教室のメニューや数	1	2	3	4	1	2	3	4
(5) 町立図書館の規模、運営	1	2	3	4	1	2	3	4
(6) 地域に住む外国人との交流・共生	1	2	3	4	1	2	3	4
(7) 安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	1	2	3	4	1	2	3	4
(8) 保育サービスや相談窓口などの子育て支援	1	2	3	4	1	2	3	4
(9) 町による家庭ごみの収集回数	1	2	3	4	1	2	3	4
(10) ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(11) 五条川や桜並木などの整備・維持管理の状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(12) 緑地・公園など憩いの空間	1	2	3	4	1	2	3	4
(13) 街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	1	2	3	4	1	2	3	4
(14) 巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性	1	2	3	4	1	2	3	4
(15) 自動車での移動が便利な道路網	1	2	3	4	1	2	3	4

項目	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	非常に重要	重要	あまり重要でない	重要でない
(16) 道路や交通安全施設の維持補修の状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(17) 段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
(18) 住民同士の助け合いによる地域福祉活動	1	2	3	4	1	2	3	4
(19) 生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	1	2	3	4	1	2	3	4
(20) 健康診断・保健指導などの健康づくり	1	2	3	4	1	2	3	4
(21) 地震や水害など防災に対する安心感	1	2	3	4	1	2	3	4
(22) 消防・救急体制	1	2	3	4	1	2	3	4
(23) 防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	1	2	3	4	1	2	3	4
(24) 犯罪にあうことのない安心感	1	2	3	4	1	2	3	4
(25) 交通事故からの安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
(26) 町民の交通ルールやマナーを守る意識	1	2	3	4	1	2	3	4
(27) 日常的な買い物の便利さ	1	2	3	4	1	2	3	4
(28) 祭りやイベントの活発さ・充実度	1	2	3	4	1	2	3	4
(29) 区の活動やコミュニティ、地域活動の活発さ	1	2	3	4	1	2	3	4
(30) 町民や企業のまちづくりへの参加状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(31) NPO・ボランティア活動などへの支援	1	2	3	4	1	2	3	4
(32) 町ホームページによる町の情報提供	1	2	3	4	1	2	3	4
(33) 広報おおぐちによる町の情報提供	1	2	3	4	1	2	3	4
(34) 町政への住民参画の機会や場	1	2	3	4	1	2	3	4
(35) 大口町議会の活動	1	2	3	4	1	2	3	4
(36) 大口町の行財政運営	1	2	3	4	1	2	3	4
(37) 受付・窓口などにおける町職員の対応	1	2	3	4	1	2	3	4

問12 大口町は住みやすいまちだと思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | |
|----------|----------------------|----------------------|----------|
| 1. 住みやすい | 2. どちらかといえ
ば住みやすい | 3. どちらかといえ
ば住みにくい | 4. 住みにくい |
|----------|----------------------|----------------------|----------|

問13 あなたはこれからも大口町に住む予定ですか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|-------------------------------|
| 1. ずっと住み続ける |
| 2. できれば住み続けたい |
| 3. できれば町外に移り住みたい、または移り住む予定がある |
| 4. できるだけ早めに、町外に移り住みたい |
| 5. わからない |

問14 問13で「3. できれば町外に移り住みたい、または移り住む予定がある」または「4. できるだけ早めに、町外に移り住みたい」と回答した方にお聞きします。あなたが町外へ移りたい、または、移る予定の主な理由は何ですか。 【回答数：○印を2つまで】

1. 自分や家族の通勤・通学に不便だから
2. 自分の家を持ちたいから
3. 騒音や排気ガス等で生活環境が良くないから
4. よりよい医療や福祉サービスを受けたいから
5. 買い物や遊びに不便だから
6. 子どもの保育、子育て、教育をより良くしたいから
7. 自然災害への備え（防災）が不十分だから
8. 窃盗や空き巣など犯罪が心配だから
9. 地域の関係づくりや近所づきあいが負担であるから
10. 自然や気候が生活面において負担になっているから
11. 生まれ育った故郷に帰りたいから
12. 仕事、学校、家族の都合で移り住む予定があるから
13. その他（具体的に：_____）

問15 あなたは、大口町に愛着や誇りを感じていますか。また、友人や知人に大口町をお勧めできますか。それぞれの項目ごとに、何点くらいになるか、あてはまる数字（点数）を選んでください。 【回答数：それぞれの項目について、あてはまる点数に○印を1つだけ】

愛着	「とても感じている」	←————→	「全く感じていない」
	10点 9点 8点 7点 6点 5点 4点 3点 2点 1点 0点		
誇り	「とても感じている」	←————→	「全く感じていない」
	10点 9点 8点 7点 6点 5点 4点 3点 2点 1点 0点		
お勧め	「とてもお勧め」	←————→	「全くお勧めでない」
	10点 9点 8点 7点 6点 5点 4点 3点 2点 1点 0点		

問16 あなたは、大口町と島根県松江市が「松江開府の祖」堀尾吉晴公の生誕の地が大口町であることから、姉妹都市提携を締結していることを知っていますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 知っている
2. 知らない

3. 人口減少について

問17 わが国では、少子・高齢化を背景に人口減少が進んでいます。これは大口町でも例外ではありません。あなたは、人口減少について危機感を覚えていますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|----------------|------------------|-----------------|
| 1. 大変危機感を覚えている | 3. どちらともいえない | 5. 全く危機感を覚えていない |
| 2. 多少危機感を覚えている | 4. あまり危機感を覚えていない | 6. わからない |

問18 大口町において、「人口減少社会」に対応していくために、どのような取組が重要になると思いますか。【回答数：○印3つまで】

- | |
|---|
| 1. 町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする |
| 2. 新たな住宅地の整備を進め、町外からの転入を促進する |
| 3. 企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する |
| 4. 若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る |
| 5. 婚活・結婚・住宅取得等を支援し、若者の定着を図る |
| 6. 子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る |
| 7. 外国人の人口を増やす取組を進める |
| 8. 高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する |
| 9. 道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る |
| 10. 防災・防犯の取組を強化し、安全で安心して暮らせる環境の維持・向上を図る |
| 11. 町産品購入やイベント参加などで町と関わっていただける方（関係人口）の拡大を図る |
| 12. 行政事務のデジタル化を推進し、効率的な行政事務を図る |
| 13. その他（具体的に_____） |
| 14. わからない |
| 15. 人口減少の対応策は特に必要ない |

4. 子育て・教育について

問19 あなたは、大口の子どもたち（小・中学生）はのびのびと育っていると思いますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|-----------|------------------|-----------|----------|
| 1. そう思う | 2. まあそう思う | 3. あまりそう思
わない | 4. そう思わない | 5. わからない |
|---------|-----------|------------------|-----------|----------|

問20 あなたは、子どもを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要であると思いますか。【回答数：○印を2つまで】

- | |
|------------------------------|
| 1. 親が責任を持ってしつけを行うこと |
| 2. 子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせること |
| 3. 家庭で団らんの時間を作ること |
| 4. 手伝いをさせて家庭での子どもの役割を自覚させること |
| 5. 家族で一緒に趣味やスポーツをすること |
| 6. その他（具体的に：_____） |
| 7. わからない |

5. 健康について

問21 あなたは、健康に不安を感じていますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-------|---------|------------------|----------|-------|
| 1. ある | 2. まあある | 3. どちらとも
いえない | 4. あまりない | 5. ない |
|-------|---------|------------------|----------|-------|

問22 あなたには「かかりつけ医*」がいますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

★かかりつけ医：病気の時などにいつも治療を受けたり、体調に不安があるときに健康相談ができる医師・医療機関。

問23 お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-------|---------|------------------|----------|-------|
| 1. ある | 2. まあある | 3. どちらとも
いえない | 4. あまりない | 5. ない |
|-------|---------|------------------|----------|-------|

6. 身の回りの安全(防犯・防災)について

問24 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と振り込め詐欺や悪徳商法について話し合うなど被害にあわないよう注意していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 注意している | 3. あまり注意していない |
| 2. まあ注意している | 4. 注意していない |

問25 あなたは、お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|-----------------------|----------------|-------------------------|
| 1. 参加して
いる | 2. まあ参加
している | 3. どちらと
もいえな
い | 4. あまり参
加してい
ない | 5. 参加して
いない | 6. やってい
ることを
知らない |
|---------------|-----------------|----------------------|-----------------------|----------------|-------------------------|

問26 あなたのご家庭では、災害に備えて食料や水など家庭内備蓄を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 家庭内備蓄は何も行っていない | 4. 4日～6日分の家庭内備蓄を行っている |
| 2. 1～2日分程度の家庭内備蓄を行っている | 5. 7日分の家庭内備蓄を行っている |
| 3. 3日分の家庭内備蓄を行っている | 6. 8日以上分の家庭内備蓄を行っている |

7. 公共交通について

問27 あなたは、普段、外出する主な目的は何ですか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-----------|----------------------------|
| 1. 通勤 | 5. 福祉施設・公共施設利用 |
| 2. 通学 | 6. 趣味・娯楽 |
| 3. 買い物・飲食 | 7. その他(具体的に: _____) |
| 4. 通院 | 8. 普段外出はしない ⇒ 問41へ進んでください。 |

問28 問27で回答した目的の外出頻度はどのくらいですか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 週に3日以上	3. 1か月に数日	5. その他（具体的に：_____）
2. 週に1～2日	4. 年に数日	_____）

問29 問27で回答した目的で外出する主な時間帯をお答えください。

外出時間	午前 ・ 午後 （ _____ ） 時ごろ
帰宅時間	午前 ・ 午後 （ _____ ） 時ごろ

問30 問27で回答した目的地まで行き帰りの主な移動手段は何ですか。【回答数：○印を1つだけ】

行き	1. コミュニティバス	3. 自分で車やバイクを運転	5. 自転車
	2. タクシー	4. 家族等の車での送迎	6. 徒歩
帰り	1. コミュニティバス	3. 自分で車やバイクを運転	5. 自転車
	2. タクシー	4. 家族等の車での送迎	6. 徒歩

問31 あなたの普段利用している最寄りの鉄道駅は何駅ですか。回答数：○印を1つだけ】

1. 扶桑駅	3. 江南駅	5. その他（具体的に：_____ 駅）
2. 柏森駅	4. 布袋駅	

問32 問31で回答した鉄道駅を利用する際の駅までの主な交通手段は何ですか。【回答数：○印を1つだけ】

1. コミュニティバス	3. 自分で車やバイクを運転	5. 自転車
2. タクシー	4. 家族等の車での送迎	6. 徒歩

問33 あなたは、外出する際、電車やコミュニティバス、タクシーなどの公共交通が不便で困ったことはありますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. よく困る	2. たまに困る	3. 困ったことはない
---------	----------	-------------

問34 問33で1.または2.のどちらかを選んだ方にお聞きます。あなたは、どのような目的で外出する時に困りますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 通勤	4. 通院	7. お酒を飲む
2. 通学	5. 福祉施設・公共施設利用	8. 旅行
3. 買い物・飲食	6. 趣味・娯楽	9. その他（具体的に：_____）

問35 問33で1.または2.のどちらかを選んだ方にお聞きます。あなたは、困ったときはどのように対応していますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. タクシーを利用する	4. 徒歩または自転車を利用する
2. 家族に車で送ってもらう	5. 外出を控える
3. 近所の人や知人の車で送ってもらう	6. その他（具体的に：_____）

問36 あなたの公共交通を利用するためにかかる交通費は、ひと月あたりいくら位ですか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 0円（公共交通は利用しない）	3. 1,000円未満	5. 5,000円以上～10,000円未満
2. 0円（タクシー乗車基本料金の補助や大口町コミュニティバス回数券の支給範囲内）	4. 1,000円以上～5,000円未満	6. 10,000円以上

問37 問36で3.～6.のいずれかを選んだ方にお聞きします。問36で回答した交通費は主にどの交通手段にかかっていますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. コミュニティバス	3. 電車
2. タクシー	4. その他(具体的に: _____)

問38 問36で2.～6.のいずれかを選んだ方にお聞きします。あなたは、コミュニティバスをどのくらい利用していますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 週に3日以上利用する	3. 1か月に数日利用する	5. 利用していない
2. 週に1～2日利用する	4. 年に数日利用する	

問39 問38で1.～4.のいずれかを選んだ方にお聞きします。あなたは、主にどのような目的でコミュニティバスを利用していますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 通勤	4. 通院	7. その他(具体的に: _____)
2. 通学	5. 福祉施設・公共施設の利用	_____
3. 買い物・飲食	6. 趣味・娯楽	

問40 問38で「5. 利用していない」を選んだ方にお聞きします。コミュニティバスを利用しない理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○印】

1. 目的地に直接行けないから	6. 運賃がかかるから
2. 目的地に早く行けないから	7. 利用方法がわからない・難しいから
3. 自宅からバス停までが遠いから	8. 車などバス以外の交通手段があるから
4. 乗りたい時間に運行していないから	9. その他(具体的に: _____)
5. 時刻表通りに来ない・到着しないから	_____

問41 公共交通で行きたい施設を教えてください。町内・町外は問いません。現在でも行くことができる施設でも構いません。

行きたい病院	1. ある ● 2. ない	具体的な場所・名称をお書きください。
行きたい買い物先	1. ある ● 2. ない	具体的な場所・名称をお書きください。
その他の行き先	1. ある ● 2. ない	具体的な場所・名称をお書きください。

問42 大口町の公共交通は、税金を使って支えられています。あなたは、どのような目的のために維持すべきだと思いますか。【あてはまるもの最大3つまで○印】

1. 「通勤」のため	7. 「渋滞」を抑制するため
2. 学生の「通学」のため	8. 「環境保全」のため
3. 「買い物」に行くため	9. 「交通事故」を減少させるため
4. 「病院」に通うため	10. 「高齢者や障がいのある方」など、移動が難しい人のため
5. 鉄道の「駅」を利用するため	11. その他(具体的に: _____)
6. 役場など「公共施設」を利用するため	

問43 あなたは、自動車運転免許証を所持していますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 持っている	2. 持っていない	3. 運転免許証を返納済み
----------	-----------	---------------

問44 問43で「1.持っている」を選んだ方にお聞きします。あなたは、車を所有していますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 自分が自由に使える車がある | 3. 車はあるが運転していない |
| 2. 家族と一緒に使っている車がある | 4. 車はない |

問45 問44で1.または2.を選んだ方にお聞きします。あなたは、何歳まで運転を続けたいと思いますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|-------------|-------------|-------------------|
| 1. 60歳くらいまで | 4. 75歳くらいまで | 7. 運転できる間はずっと続けたい |
| 2. 65歳くらいまで | 5. 80歳くらいまで | 8. できればすぐにやめたい |
| 3. 70歳くらいまで | 6. 85歳くらいまで | |

問46 問43で「1.持っている」を選んだ方にお聞きします。あなたは、将来、運転免許証の自主返納を考えていますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|----------|--------------|-----------|
| 1. 考えている | 2. 考えているが難しい | 3. 考えていない |
|----------|--------------|-----------|

問47 問46で2.または3.を選んだ方にお聞きします。自主返納ができない・しない理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○印】

- | |
|-----------------------------|
| 1. 車がないと日常生活に支障があるため |
| 2. 鉄道やタクシーなど、他の移動手段の料金が高いため |
| 3. 他の移動手段では目的地まで時間がかかるため |
| 4. 身分証明書として必要なため |
| 5. まだ自主返納を考えるような年齢ではないため |
| 6. その他（具体的に：_____） |

8. 男女共同参画について

問48 あなたは、次の(1)から(7)の分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。【回答数：(1)～(7)のそれぞれの分野について、あてはまる番号を1つずつ選んで○印】

分 野	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等だと思う	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている
(1) 職場	1	2	3	4	5
(2) 学校教育の場	1	2	3	4	5
(3) 家庭生活	1	2	3	4	5
(4) 地域活動の場	1	2	3	4	5
(5) 政治の場	1	2	3	4	5
(6) 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
(7) 社会全体として	1	2	3	4	5

問49 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。
【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-------|-------------------|------------------|-------------------|-------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかとい
えば賛成 | 3. どちらともい
えない | 4. どちらかとい
えば反対 | 5. 反対 |
|-------|-------------------|------------------|-------------------|-------|

問50 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 女性は職業を持たない方がよい |
| 2. 結婚するまで職業を持つ方がよい |
| 3. 子どもができるまでは職業を持つ方がよい |
| 4. 子どもができて、職業を続ける方がよい |
| 5. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい |
| 6. わからない |
| 7. その他（具体的に：_____） |

9. 環境に配慮した暮らしについて

問51 あなたのご家庭では、節電などの省エネの実践やマイカーの利用を控えるなど日常的な暮らしの中で二酸化炭素の排出の削減に取り組んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|----------------|------------------|------------------|--------------------|-----------------|
| 1. 取り組んで
いる | 2. まあ取り組ん
でいる | 3. どちらともい
えない | 4. あまり取り組
んでいない | 5. 取り組んでい
ない |
|----------------|------------------|------------------|--------------------|-----------------|

問52 あなたのご家庭では、ごみの減量化や分別によるごみの資源化に取り組んでいますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|----------------|------------------|------------------|--------------------|-----------------|
| 1. 取り組んで
いる | 2. まあ取り組ん
でいる | 3. どちらともい
えない | 4. あまり取り組
んでいない | 5. 取り組んでい
ない |
|----------------|------------------|------------------|--------------------|-----------------|

10. これからのライフスタイルと社会貢献について

問53 あなたのこれからの暮らし方について、今後、どのような活動に時間をとりたいと考えていますか。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | | | |
|---------------|--------------|---------------------|
| 1. 報酬を得て行う仕事 | 6. 介護 | 11. 健康づくり |
| 2. ボランティア | 7. 趣味 | 12. その他（具体的に：_____） |
| 3. 自治会などの地域活動 | 8. 勉強 | _____ |
| 4. 家事 | 9. 家族のだんらん | _____） |
| 5. 子育て | 10. 友人とのつきあい | 13. 特にない |

問54 あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| 1. 思っている | 2. あまり考えていない | 3. わからない |
|----------|--------------|----------|

問55 問54で「1. 思っている」と回答した方にお聞きします。何か社会のために役立ちたいと思っ
ているのはどのようなことですか。 【回答数：あてはまるものすべてに○印】

1. 青少年健全育成に関する活動（ボーイスカウト・ガールスカウト活動、子ども会など）
2. 体育・スポーツ・文化に関する活動（スポーツ・レクリエーション指導、祭り、学校でのク
ラブ活動における指導など）
3. 自主防災活動や災害援助活動
4. 公共施設での活動（学校や図書館、老人福祉センター等でのボランティアなど）
5. 生涯学習活動に関する指導、助言、運営協力などの活動（料理、英語、書道など）
6. 国際交流（協力）に関する活動（通訳、難民援助、技術援助、留学生援助など）
7. 社会福祉に関する活動（老人や障がい者などに対する介護、身の回りの世話、給食、保育など）
8. 保健・医療・衛生に関する活動（病院ボランティアなど）
9. 自然・環境保護に関する活動（環境美化、リサイクル活動、牛乳パックの回収など）
10. 交通安全に関する活動（子どもの登下校時の安全監視など）
11. 募金活動、チャリティーバザー等への参加
12. 町内会などの地域活動（地区の役員、防犯や防火活動など）
13. 家事や子どもの養育を通して
14. 自分の職業を通して
15. その他（具体的に：_____）
16. わからない

11. 人や地域のつながりや地域自治活動、行政と住民の協働について

問56 あなたは、日常的に身近な地域の方々とあいさつをしていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|-----------|------------------|-----------------|----------|
| 1. している | 2. まあしている | 3. どちらともい
えない | 4. あまりしてい
ない | 5. していない |
|---------|-----------|------------------|-----------------|----------|

問57 あなたは、登下校ですれ違う子ども達とのあいさつをしていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|-----------|------------------|-----------------|----------|
| 1. している | 2. まあしている | 3. どちらともい
えない | 4. あまりしてい
ない | 5. していない |
|---------|-----------|------------------|-----------------|----------|

問58 あなたは、高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人などまちで困っている人に出会
った時、手助けをしたことがありますか。

【回答数：○印を1つだけ】

1. 手助けをしたことがある
2. そのような場面に出会ったことはないが、手助けできると思う
3. そのような場面に出会った時はあるが、手助けできなかった
4. そのような場面に出会ったとしても、なかなか手助けはできないと思う
5. そのような場面に出会ったことがないので、わからない

問59 大口町では、平成 22 年にまちづくり基本条例を制定し、これに基づき 3 つの小学校区毎に地域自治組織を設置して、行政区の範囲を超えた地域の課題を把握してその改善等を進めていくための活動を始めています。あなたは、こうしたことをご存じですか。

【回答数：○印を 1 つだけ】

1. その活動に関わっており、よく知っている
2. その活動に関わっていないが、設立したことやどのような活動をしているかについて概ね知っている
3. 設立したこと程度は知っている
4. 設立されていることも知らない

問60 あなたは、地域自治組織の活動に参加したいと思いますか。 【回答数：○印を 1 つだけ】

1. 既に参加している
2. 参加したいと思う
3. あまり参加したくない
4. 参加しない
5. 興味もない

問61 あなたは、ここ 1 年間の中で、ボランティア活動にどの程度参加していますか。【回答数：○印を 1 つだけ】

1. 積極的に参加している
2. 内容によって参加している
3. 参加する考えはあるが、参加できていない
4. ほとんど参加していない
5. まったく参加していない

問62 住民の参画と参加のまちづくりのために、町ではどのようなことを進める必要があると思いますか。【回答数：○印を 3 つまで】

1. 広報紙や町のホームページの充実など広報活動の充実
2. 町政懇談会や住民相談など広聴活動の充実
3. 情報提供・情報公開の拡充
4. アンケートや聞き取り調査の実施
5. F A X やメールなどによる住民提案・意見箱の充実（わかりやすい場所への設置や設置数の増加など）
6. 委員会や審議会などにおける住民の公募枠の拡大
7. 町民会議やワークショップなど、直接的な住民参加機会の拡大
8. 住民のまちづくりへの参加や住民自治を進めるための条例や制度づくり
9. 議会、審議会などの議事録のわかりやすい提示
10. 区や自治会を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり
11. 議員を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり
12. その他（具体的に： _____）
13. 特にない

12. 公共施設や行政サービスと住民負担の関係について

問63 あなたは、ここ1年以内に町内の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プールなど）を利用したことはありますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 利用したことがある | 2. 利用したことがない |
|--------------|--------------|

問64 現在、町内の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プールなど）は使用（利用）するときに決められた使用料が必要ですが、これらの施設の維持管理には多くの税金が使われています。これからの公共施設の利用と負担の関係について、あなたの考えに最も近いのは何ですか。【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|--|
| 1. 公共施設の維持管理は、できる限り町民の税金で行うことが望ましい |
| 2. 公共施設の維持管理は、ある程度は税金で負担し、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい |
| 3. 税金で維持管理することはやめて、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい |
| 4. その他（具体的に：_____） |

問65 行政サービスと負担のバランスをどのように考えますか。【○印を1つだけ】

- | |
|---|
| 1. 行政サービスの充実のために、町民全体の負担が増えるのは仕方がない |
| 2. 町民全体の負担が増えるのであれば、行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない |
| 3. 受益者負担を増やすべきで、町民全体の負担を増やすべきではない |
| 4. 行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により、財源を生み出すべき |
| 5. その他（具体的に：_____） |

13. 地域の情報化について

問66 町では、毎月1回「広報おおぐち」を全戸配布していますが、あなたは、広報おおぐちを読んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 毎回よく読んでいる | 4. ほとんど読んだことがない |
| 2. 目を通す程度であるが毎回読んでいる | 5. 今までまったく読んだことがない |
| 3. 時々必要事項を選んで読んでいる | |

問67 あなたは、町に関する情報を何から得ていますか。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 1. 広報おおぐち | 7. 行政区や町内会の回覧板 |
| 2. 議会だより | 8. 町のホームページ |
| 3. あんしん・安全メール | 9. 防災無線の個別受信機 |
| 4. 町役場等の窓口や掲示版など | 10. 町のSNS（公式LINE、X、フェイスブック、ユーチューブ） |
| 5. 町議会議員から直接 | 11. その他（具体的に：_____） |
| 6. 町職員から直接 | |

問68 (1)～(4)の情報通信機器等の利用状況についてお答えください。【回答数：(1)～(4)のそれぞれの情報通信機器等について、あてはまる番号を1つずつ選んで○印】

情報通信機器等	選択肢				
	利用している			利用していない	
	ほぼ毎日	週に4～5 回 程度	週に2～3 回 程度未満	今後は、利 用したい	今後も利用す るつもりはな い
(1) パソコン	1	2	3	4	5
(2) スマートフォン	1	2	3	4	5
(3) タブレット端末*	1	2	3	4	5
(4) 携帯電話（スマート フォンを除く）	1	2	3	4	5

★タブレット端末：スマートフォンよりも画面が大きく、画面をタッチして操作することができ、軽量で持ち運びができる多機能な通信を行う機器のことです。

問69 あなたは、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を利用していますか。あなたの利用しているSNS等をお答えください。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

1. SNS等は利用していない	6. ユーチューブ
2. フェイスブック	7. Tik Tok
3. LINE	8. ライブ配信アプリ（17LIVE、Pococha、ミクチャ等）
4. X（旧ツイッター）	9. その他（ <input type="text"/> ）
5. インスタグラム	

問70 あなたはキャッシュレス決済*をどの程度利用していますか。【回答数：○印を1つだけ】

★キャッシュレス決済：クレジットカードやバーコード・二次元コード決済（Pay Pay等）など、物理的な現金（紙幣・硬貨）を使用せずに商品・サービスの料金の支払等を行うことを指します（ただし、ここでは銀行等の口座振替、振込等による決済を除くこととします）。

1. よく利用している	3. あまり利用していない
2. ときどき利用している	4. 全く利用していない

- これからの大口町のまちづくりについてアイデアやご意見がありましたら、どんなことでも結構ですので、自由にご記入ください。[箇条書き]

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。